京都市内遺跡立会調査概報

平成８年度

京　都　市　文　化　市　民　局

序

京都は，世界に誇れる数多くの歴史遺産に恵まれた大都市であります。市内には多くの埋蔵文化財包蔵地があり，その遺跡は年代ごとに幾層にもわたり積み重ねられた歴史の重みがある複合遺跡であります。

これらの埋蔵文化財は，わが国の歴史や文化の成り立ちを知ることができる国民共有の貴重な財産であり，将来にわたって保存すべきものであります。近年，土木工事等による開発行為は，これら埋蔵文化財保護に少なからず影響を及ぼしております。先人が残した埋蔵文化財を引き継いだ私達は，その開発と保存との調整を適切に行い，これを後世に伝承していく責務があると考えています。

本報告書は，平成８年度に本市が文化庁の国庫補助を得て実施した埋蔵文化財調査の概要報告書であります。調査のうち，試掘調査は京都市埋蔵文化財調査センターが行い，発掘調査及び立会調査は，財団法人京都市埋蔵文化財研究所に委託したものであります。

結びにあたりまして，このたびの各調査に御理解と御協力を賜りました市民の皆様を初め，御指導と御助言を賜りました関係の方々に，心から感謝を申し上げますとともに，本報告書を京都の歴史を知るための一助として，お役立ていただければ幸いに存じます。

平成９年３月

京都市文化市民局

局長　溝　郁生

例　　言

1　本書は京都市文化市民局が財団法人京都市埋蔵文化財研究所へ委託して実施した、文化庁国庫補助事業による平成8年度の京都市内遺跡立会調査概要報告である。

2　各報告については文末に執筆者を記した。なお、執筆者のうち堀内明博は現在、(財)古代学協会・古代学研究所講師である。

3　本書の編集は本　弥八郎を中心に、近藤章子、高橋　潔、長戸満男、端　美和子、尾藤徳行、吉本健吾、竜子正彦が調整・作成実務を担当した。

4　写真撮影は村井伸也と幸明綾子が担当し、遺跡の一部は調査担当者が行った。

5　遺物復原は出水みゆき、中村享子、村上勉が担当した。

6　本書で用いた土壌色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』に準じた。

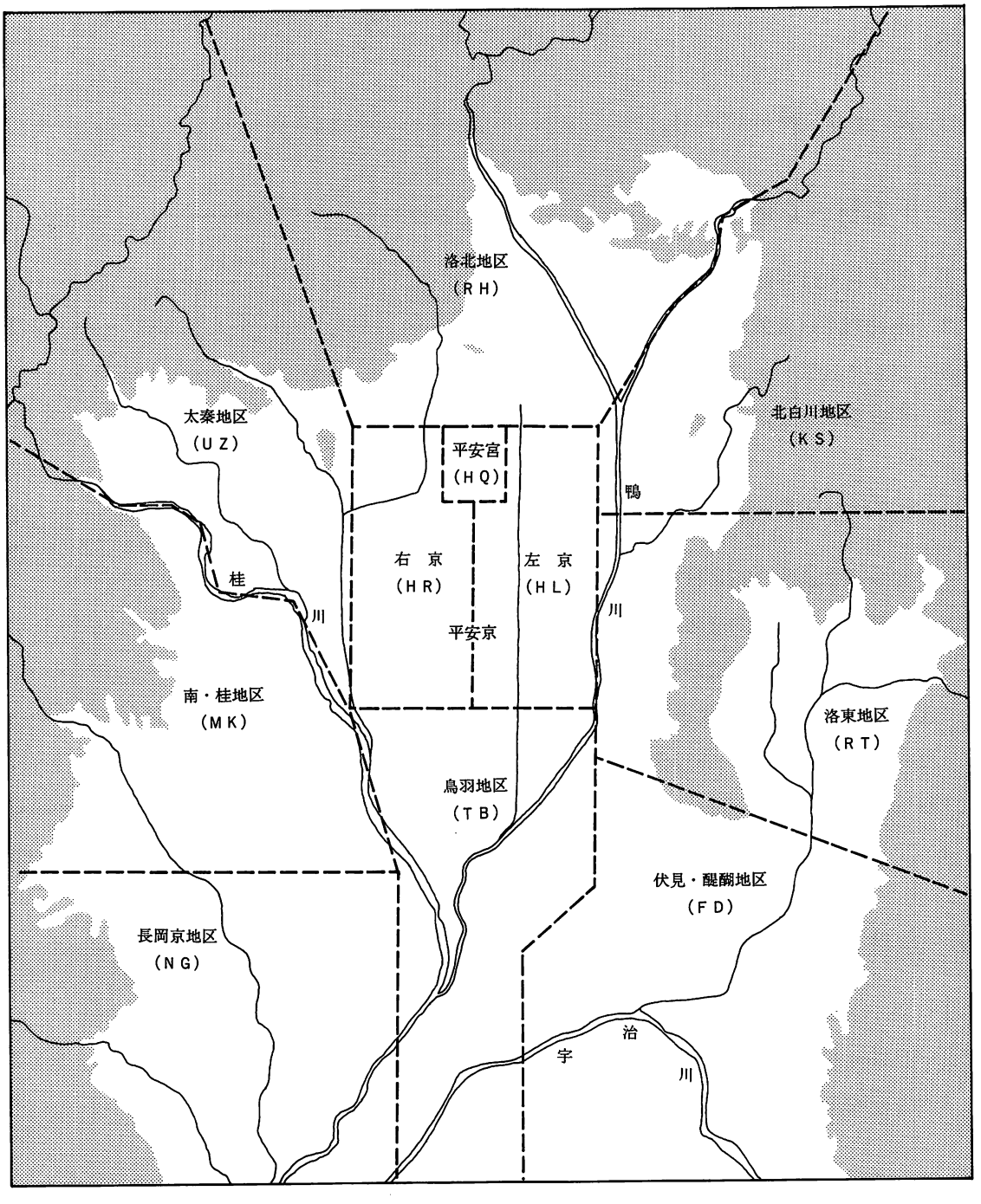
7　本書に使用した遺構の略記号は、奈良国立文化財研究所の用例に従った。

8　測量基準点は、京都市遺跡発掘調査基準点を使用し、調査における測量基準点の設置は、辻純一、宮原健吾が行った。本書中で使用した方位および座標の数値は、平面直角座標系Ⅵによる。標高はT.P.(東京湾平均海面高度)による。

9　本書で使用した地図は京都市長の承認を得て同市発行の都市計画基本図(縮尺：1/2,500)を複製して調整したものである。

都市計画基本図は、縮尺を調整して以下のものを使用した。

平安宮跡	図版1　8,000分の1(聚楽廻、壬生)
平安京跡	図版2～13　8,000分の1(船岡山、衣笠山、花園、聚楽廻、御所、山ノ内、壬生、三条大橋、西京極、島原、五条大橋、中河原、梅小路、京都駅)
平安宮太政官跡	図1　5,000分の1(聚楽廻)
平安京左京五条二坊二町	図7　5,000分の1(壬生、島原)
平安京右京一条二坊十二町	図16　5,000分の1(花園)
平安京右京五条三坊九町・西院城跡	図24　5,000分の1(山ノ内)
植物園北遺跡	図30　5,000分の1(植物園)
京都大学北部構内遺跡	図39　5,000分の1(吉田)
白河街区跡・岡崎遺跡	図46・52　5,000分の1(岡崎)
下三栖遺跡	図57　5,000分の1(横大路)


洛北地区
（ＲＨ）
太秦地区
（ＵＺ）
平安宮
（ＨＱ）
北白川地区
（ＫＳ）
鴨
右　京
（ＨＲ）
左　京
（ＨＬ）
桂
川
川
平安京
南・桂地区
（ＭＫ）
洛東地区
（ＲＴ）
鳥羽地区
（ＴＢ）
伏見・醍醐地区
（ＦＤ）
長岡京地区
（ＮＧ）
宇
治
川

地区設定概念図

本 文 目 次

Ⅰ　調査概要……1

Ⅱ　平安宮・京跡……3

1　平安宮太政官跡（95ＨＱ465）……3
2　平安京左京五条二坊二町（96ＨＬ145）……9
3　平安京右京一条二坊十二町（96ＨＲ285）……13
4　平安京右京五条三坊九町・西院城跡（96ＨＲ357）……21

Ⅲ　その他の遺跡……24

1　植物園北遺跡（96ＲＨ224）……24
2　京都大学北部構内遺跡（96ＫＳ346）……32
3　白河街区跡・岡崎遺跡……36
(1) 最勝寺・法勝寺・成勝寺（95ＫＳ226・229）……36
(2) 尊勝寺・最勝寺（96ＫＳ136）……42
(3) 歓喜光院（96ＫＳ111・130）……43
4　下三栖遺跡（96ＴＢ183）……46

Ⅳ　主要な出土遺物……51

1　平安京左京四条四坊七町（96ＨＬ１）……51
2　平安京左京六条四坊一町（96ＨＬ249）……51
3　下鳥羽遺跡（95ＴＢ438）……53

表 目 次

調査一覧表……54

Ⅰ　1996年　1～3月期（平成7年度）……54
Ⅱ　1996年　4～12月期（平成8年度）……59

報告書抄録……70

図 版 目 次

図版１～13　調査位置図

図版１　平安宮
図版２　平安京左京北辺～三条　一・二坊
図版３　平安京左京北辺～三条　三・四坊
図版４　平安京左京　四～六条　一・二坊
図版５　平安京左京　四～六条　三・四坊
図版６　平安京左京　七～九条　一・二坊
図版７　平安京左京　七～九条　三・四坊
図版８　平安京右京北辺～三条　三・四坊
図版９　平安京右京北辺～三条　一・二坊
図版10　平安京右京　四～六条　三・四坊
図版11　平安京右京　四～六条　一・二坊
図版12　平安京右京　七～九条　三・四坊
図版13　平安京右京　七～九条　一・二坊

図版14～17　平安宮太政官跡（95ＨＱ465）

図版14　1　No.３地点　瓦溜遺物出土状況
　　2　軒丸瓦
図版15　軒丸瓦
図版16　軒平瓦
図版17　軒平瓦、鴟尾、刻印瓦

図版18　平安京左京五条二坊二町（96ＨＬ145）

図版18　1　調査区全景
　　2　土壙11
　　3　土壙33

図版19・20　平安京右京一条二坊十二町（96ＨＲ285）

図版19　1　No.１地点　全景
　　2　No.１地点　溝４
図版20　溝４出土遺物

図版21　平安京右京五条三坊九町・西院城跡（96ＨＲ357）

図版21　1　No.５地点　ＳＤ１
　　2　ＳＤ１出土　曲物
　　3　ＳＤ１出土　下駄

図版22～26　植物園北遺跡（96ＲＨ224）

図版22　調査区全景
図版23　1　ＳＢ１　全景
　　2　ＳＢ１　床面土器検出状況
　　3　ＳＢ１　炉周辺土器検出状況
図版24　1　掘立柱建物　全景
　　2　ＳＫ９　検出状況
　　3　ＳＫ９　完掘状況
図版25　ＳＫ９・ＳＢ１出土土器
図版26　ＳＢ１出土土器

図版27・28　京都大学北部構内遺跡（96ＫＳ346）

図版27　1　No.2地点　花折断層と縄文時代後期の遺物包含層
　　2　縄文時代後期の土器
図版28　1　縄文時代後期の土器
　　2　縄文時代後期の土器

図版29・30　白河街区跡・岡崎遺跡（95ＫＳ226・229、96ＫＳ136）

図版29　1　95ＫＳ226 No.8地点　車道東側溝
　　2　95ＫＳ229 No.10地点　雨落溝
図版30　1　96ＫＳ136　路面
　　2　95ＫＳ226　軒平瓦、95ＫＳ229　軒丸瓦・軒平瓦

図版31・32　白河街区跡・岡崎遺跡（96ＫＳ111・130）

図版31　1　95ＫＳ130 No.8地点　溝
　　2　95ＫＳ130 No.9地点　土壙
図版32　1　96ＫＳ111 No.3地点　北東壁断面
　　2　96ＫＳ130 No.9地点　出土遺物

図版33～35　下三栖遺跡（96ＴＢ183）

図版33　1　No.2・3地点　全景
　　2　No.2地点　全景
　　3　No.3地点　土器出土状況
図版34　No.2地点　出土遺物
図版35　No.2・3・5地点　出土遺物

図版36　主要な出土遺物

平安京左京四条四坊七町（96ＨＬ１）
平安京左京六条四坊一町（96ＨＬ249）
下鳥羽遺跡（95ＴＢ438）

挿 図 目 次

95ＨＱ465

図１　調査位置図……３
図２　遺構位置図……３
図３　No.１・２・３地点断面図……３
図４　軒丸瓦拓影・実測図……５
図５　軒平瓦拓影・実測図……７
図６　鴟尾・刻印瓦拓影……８

96ＨＬ145

図７　調査位置図……９
図８　調査区位置図……９
図９　遺構平面図……10
図10　土壙90出土遺物実測図……11
図11　灰釉陶器皿……11
図12　緑釉土塔……11
図13　ピット45出土遺物実測図……11
図14　石帯巡方……12
図15　石帯巡方実測図……12

96ＨＲ285

図16　調査位置図……13
図17　調査区位置図……13
図18　遺構平面・断面図……14
図19　溝４出土遺物実測図……16
図20　溝４出土遺物実測図……17
図21　緑紬陶器耳皿……18
図22　肘壷……19
図23　鉄製品……19

96ＨＲ357

図24　調査位置図……21
図25　遺構位置図……21
図26　No.１・２地点北壁断面図……22
図27　遺物実測図……22
図28　石製品……23
図29　西院城……23

96ＲＨ224

図30　調査位置図……24
図31　調査区位置図……24
図32　遺構平面図……25
図33　ＳＫ９平面・断面図……25
図34　ＳＢ１平面・断面図……26
図35　ＳＢ１出土土器分布図……27
図36　掘立柱建物平面・断面図……28
図37　ＳＫ９出土土器実測図……28
図38　ＳＢ１・Ｐ４出土土器実測図……29

96ＫＳ346

図39　調査位置図……32
図40　調査区位置図……32
図41　No.１・２地点断面図……32
図42　石錘……33
図43　石錘実測図……33
図44　縄文土器拓影・実測図……34
図45　道標拓影・実測図……35

95ＫＳ226・229、96ＫＳ136

図46　調査位置図……36
図47　No.８地点断面図……37
図48　No.10地点雨落溝……38
図49　瓦拓影・実測図……39
図50　調査区位置図……41
図51　遺構平面・断面図……42

96ＫＳ111・130

図52　調査位置図……43
図53　ＫＳ111遺構位置図、断面図……43
図54　ＫＳ130遺構位置図、断面図……44
図55　遺物実測図……44
図56　関連調査地点図……45

96ＴＢ183

図57　調査位置図……46
図58　遺構位置図……46
図59　遺構断面図……47
図60　遺物実測図……48
図61　遺物実測図……49
図62　遺物実測図……50

96ＨＬ１

図63　遺構位置図……51
図64　遺物実測図……51

96ＨＬ249

図65　遺構位置図……52
図66　銭貨拓影……52
図67　遺物実測図……52

95ＴＢ438

図68　遺構位置図……53
図69　遺物実測図……53

Ⅰ　調査概要

本書は、当研究所が1996年１月４日から３月31日（平成７年度）と1996年４月１日から12月27日（平成８年度）までに実施した、国庫補助による遺跡立会調査の成果をまとめた調査概報である。調査総件数は513件で、京都市内を11地区に区分した各地区の件数は以下のとおりである。

地区名	１～３月	４～12月	計	地区名	１～３月	４～12月	計
平安宮(ＨＱ)	32	61	93	南・桂地区(ＭＫ)	3	10	13
平安京左京(ＨＬ)	31	94	125	洛東地区(ＲＴ)	13	44	57
平安京右京(ＨＲ)	14	59	73	鳥羽地区(ＴＢ)	7	21	28
洛北地区(ＲＨ)	9	21	30	伏見・醍醐地区(ＦＤ)	3	17	20
太秦地区(ＵＺ)	4	9	13	長岡京地区(ＮＧ)	4	22	26
北白川地区(ＫＳ)	13	22	35	計	133	380	513

本書では、15件の調査で検出した主要な遺構、遺物について掲載し、それ以外については調査一覧表にまとめた。ここではその成果の概要を地区別に述べる。

平安宮（ＨＱ）　宮域では１件の調査成果を報告する。太政官（95ＨＱ465）の調査で、同官の北限の築地外溝と道路部分で瓦を多量に含む土壙や整地土層を検出した。宮域での調査件数は昨年より若干上まわるが、木造住宅の建設工事に伴う調査が多く、掘削深が浅いため遺構面に達しない場合が多い。

平安京左京（ＨＬ）　左京地区では３件の調査成果を報告する。四条四坊七町の調査（96ＨＬ１）では、平安時代から江戸時代までの各時代の遺物包含層を検出した他、弥生時代から古墳時代にかけての遺物を採取している。五条二坊二町の調査（96ＨＬ145）では、平安時代から桃山・江戸時代にかけての建物、井戸、土壙などを数多く検出した。この地域は比較的発掘調査例の少ない所であるが、遺構密度が高く良好に遺存していることが判明した。他に、主要な出土遺物としては、六条四坊一町の調査（96ＨＬ249）で、平安時代と鎌倉時代の土器類、銭貨が出土している。なお左京地区での平安時代以前の遺跡としては烏丸御池遺跡・烏丸綾小路遺跡など６遺跡がある。今回は５箇所で当該期の遺構、遺物包含層を検出しているが、遺跡範囲外での確認も含まれる。

平安京右京（ＨＲ）　右京地区では２件の調査成果を報告する。一条二坊十二町の調査（96ＨＲ285）では、平安時代前期の溝、柱穴などが良好に残存しており、溝からの出土遺物も多量である。ここは平安京の「右獄」に推定されている所で、この地域も発掘調査例の少ない所であり、周辺地での今後の調査が期待される。五条三坊九町の調査（96ＨＲ357）では、中世末頃のやや規模の大きい溝を検出した。ここは西院城（小泉城）に推定されているが、これまでに明確な遺

構は検出されておらず、いまだに城の規模、範囲は確定できていない。今回の溝が城とどのように関連するものかは断定できないが数少ない資料である。また、一覧表に掲載したが、西京極遺跡（96ＨＲ133・175）では弥生時代の土壙、遺物包含層を検出している。

洛北地区（ＲＨ）　この地区では１件の調査成果を報告する。植物園北遺跡の調査（96ＲＨ224）では、縄文時代中期の土壙、弥生時代末期から古墳時代初期の竪穴住居、掘立柱建物を各１基検出した。なお、この遺跡での縄文時代中期にさかのぼる土器は初見である。他に、調査一覧表に掲載した北野遺跡（96ＲＨ212・282）で飛鳥時代の土壙を数基検出している。

北白川地区（ＫＳ）　この地区では、５件の白河街区跡の調査（95ＫＳ226・229、96ＫＳ111・130・136）と京都大学北部構内遺跡（96ＫＳ346）を報告する。白河街区跡では尊勝寺、最勝寺、法勝寺などの寺域、道路幅などに関連する新たな成果が得られ、寺域復原案と問題点を提示した。京都大学北部構内遺跡での調査は、京都東山の裾部を走る「花折断層」の学術調査に伴う調査であり、縄文時代後期の遺物包含層とこれを切る断層の存在が明らかとなった。

南・桂地区（ＭＫ）　一覧表に掲載した。西京区大原野にある灰方古墳群の調査（96ＭＫ８）で古墳の石室を２基検出しており、陶棺の一部が出土した。これについては原因者負担による発掘調査に切り替えた。

鳥羽地区（ＴＢ）　この地区では２件の調査成果を報告する。下鳥羽遺跡の調査（95ＴＢ438）では、弥生時代前期の遺物包含層と住居状遺構を検出している。また、伏見区横大路の中世の下三栖城跡の調査（96ＴＢ183）では、室町時代の流路状遺構の他に、地表下約3.5mの深い地層から古墳時代中期の土器を多量に包含する遺構を検出した。これまでに古墳時代の遺構は確認されておらず、新たな下三栖遺跡の発見となった。

伏見・醍醐地区（ＦＤ）　調査一覧表に掲載した。伏見区の極楽寺跡（96ＦＤ80）では、平安時代中期の遺構、遺物を検出し、伏見城跡では、桃山時代の堀（96ＦＤ28）、土壙（96ＦＤ202）、柱穴（96ＦＤ33）などを確認している。

太秦地区（ＵＺ）・洛東地区（ＲＴ）・長岡京地区（ＮＧ）　これらの地区については顕著な成果が得られなかったため調査一覧表にまとめた。

今年度は、白河街区跡で六勝寺の各寺域に関する新たな成果が得られた。昨年度も数箇所で基壇建物跡を検出するなど、近年、立会調査により多くの資料が蓄積されつつある。また、平安時代以前の遺跡を平安京域に限れば、縄文時代、弥生時代から古墳時代にかけての遺跡は、集落、墓地、遺物散布地など16箇所が周知されている。しかし各遺跡間の有機的な繋がりは必ずしも解明されていない。今回は７箇所で同時代の遺構、遺物を検出したが、検出地点は遺跡範囲外の場合が多い。これは遺跡間の空白を埋め、相互の関係を解明するうえで貴重である。いずれも広範囲な地域を把握できる市域立会調査の成果と言える。　（本　弥八郎）

II　平安宮・京跡

1　平安宮太政官跡（95ＨＱ465）

調査経過（図１）

調査地は、上京区浄福寺通丸太町下る東入主税町999番地に位置する。当地で住宅新築工事に伴って立会調査を行った。当地は平安宮太政官の北面築地および太政官と中務省間の道路部分に推定される。太政官は、造宮当初から設置されていた重要な官衙のひとつである。なお当地の西隣接地は1988年に発掘調査が行われ築地、側溝、路面、柱穴などが検出されている。[註1]

調査は、掘削工事が行われた1996年３月11日から18日までに４日間実施した。調査の結果、平安時代の瓦溜や溝状遺構、土壙、遺物包含層などを検出した。

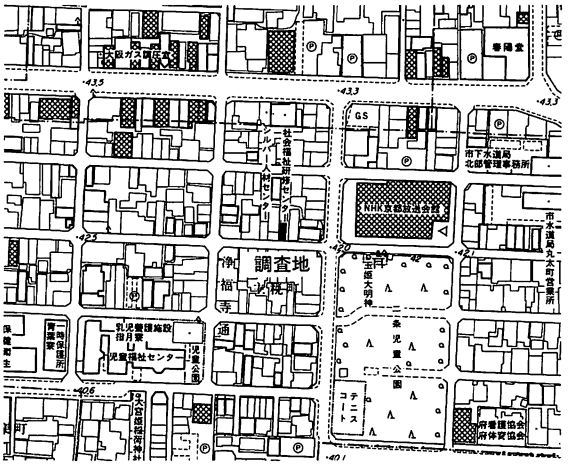


図１　調査位置図（１：5,000）

遺　構（図版14、図２・３）

調査地の基本層序は、地表下0.35mまでが現代盛土層、0.85mまでには平安時代の包含層が２～４層堆積する。それ以下は黄褐色砂泥層の地山である。遺構は、新しいものは現代盛土層直下から、最も古いものは地山面から切り込む。検出した主な遺構は、平安時代と考えられる溝状遺構、整地層、瓦溜、土壙などである。

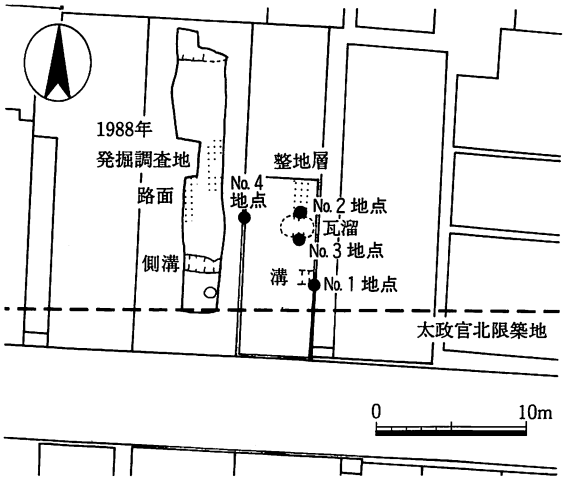


図２　遺構位置図（１：500）

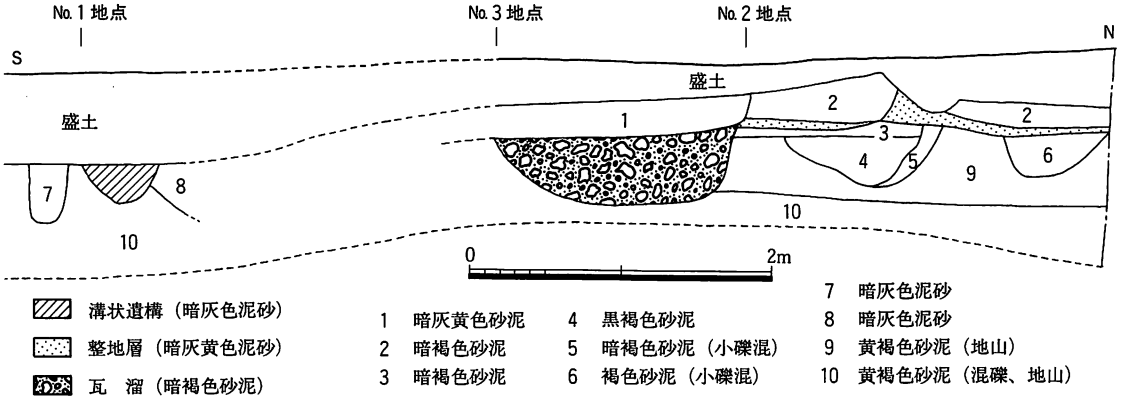


図３　No.１・２・３地点断面図（１：50）

東西方向の溝状遺構は、No.1地点の地表下0.6mで幅0.5m、深さ0.27m、断面はU字状を呈する。遺物は出土していない。この溝は敷地西側では確認できなかったが、前述の発掘調査で検出された太政官北面築地の北側溝の東延長部分である。

整地層はNo.2地点の地表下0.6mで、南北2.5mにわたって検出した。瓦や礫を多量に含み、最も層の厚い部分は0.25mあった。この整地層は太政官の北側の道路部分にあたり、これに伴うものと考えられる。

瓦溜は調査地東側のNo.3地点で検出した。検出面は地表下0.84mで幅2.63m、深さ0.58mである。今回出土した瓦類の大半はこの瓦溜からのものである。

土壙は10数基あり、調査区全域に点在しており、平安時代中期から室町時代までである。

遺　物（図版14～17、図4～6）

出土遺物は、整理箱に7箱分あり、ほとんどが平安時代の瓦類である。瓦類の大半が丸瓦と平瓦の小破片で、その中に刻印瓦が5点、緑釉瓦が8点含まれている。軒瓦は軒丸瓦が11点、軒平瓦が19点である。他には鴟尾の小破片が1点出土している。土器類では平安時代から近世までの土師器・須恵器・陶器・青磁・染付がある。いずれも量が少なく小片である。

複弁八葉蓮華文軒丸瓦（1）　平城宮6291A型である。胎土は精良、焼成は良好、色調は灰色である。瓦溜から出土。

複弁八葉蓮華文軒丸瓦（2）　平城宮6311型である。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調は灰白色で、丸瓦部凸面には「東」のヘラ描きがある。瓦溜から出土。なお、「東」字がヘラ描きされている瓦は、平城宮、長岡宮、法起寺、毛原廃寺などで出土している。[註2] しかしいずれも軒平瓦であり、軒丸瓦の例は見当らない。

単弁蓮華文軒丸瓦（3）　平安宮大極殿跡出土の単弁十六葉蓮華文軒丸瓦[註3]（岸部瓦窯産）と同文の破片と考えられる。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調は外側が暗灰色、内側が灰白色である。排土から採取。

複弁八葉蓮華文軒丸瓦（4）　西賀茂角社西群瓦窯跡出土の軒丸瓦[註4]と同笵と考えられる破片である。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調は淡黄灰色である。No.4地点の土壙から出土。

単弁十五葉蓮華文軒丸瓦（5・6）　共に胎土は砂粒を含み、焼成は甘く、色調は外側が暗灰色、内側が灰白色である。排土から採取。芝本瓦窯産の同笵瓦であるが、（6）は（5）よりも中房内の笵傷の数が多く認められ、笵の押し方は67度程異なっている。また（6）は瓦当部裏面の破損部より瓦当部の製作過程がわかる。瓦当部裏面の中央部が深く凹み指圧痕が認められ、瓦当文様を形成するとき、笵に向かって強く押し込んだことが確認できる。丸瓦部との接合は、丸瓦接合部分には溝を作らず、そのまま瓦当裏面に乗せ、両側から粘土を充てて接合している。さらに裏面の中央部の凹みから丸瓦部凹面にかけて、多めの粘土を使い補強している。他に同笵品2点が瓦溜から出土している。

蓮華文軒丸瓦（7）　花弁は幅が狭く隣の弁と接しているが、小片のため詳細は不明である。弁の先端は丸味を帯び界線近くまで伸び、接している弁もある。笵の彫りは浅い。胎土は砂粒お

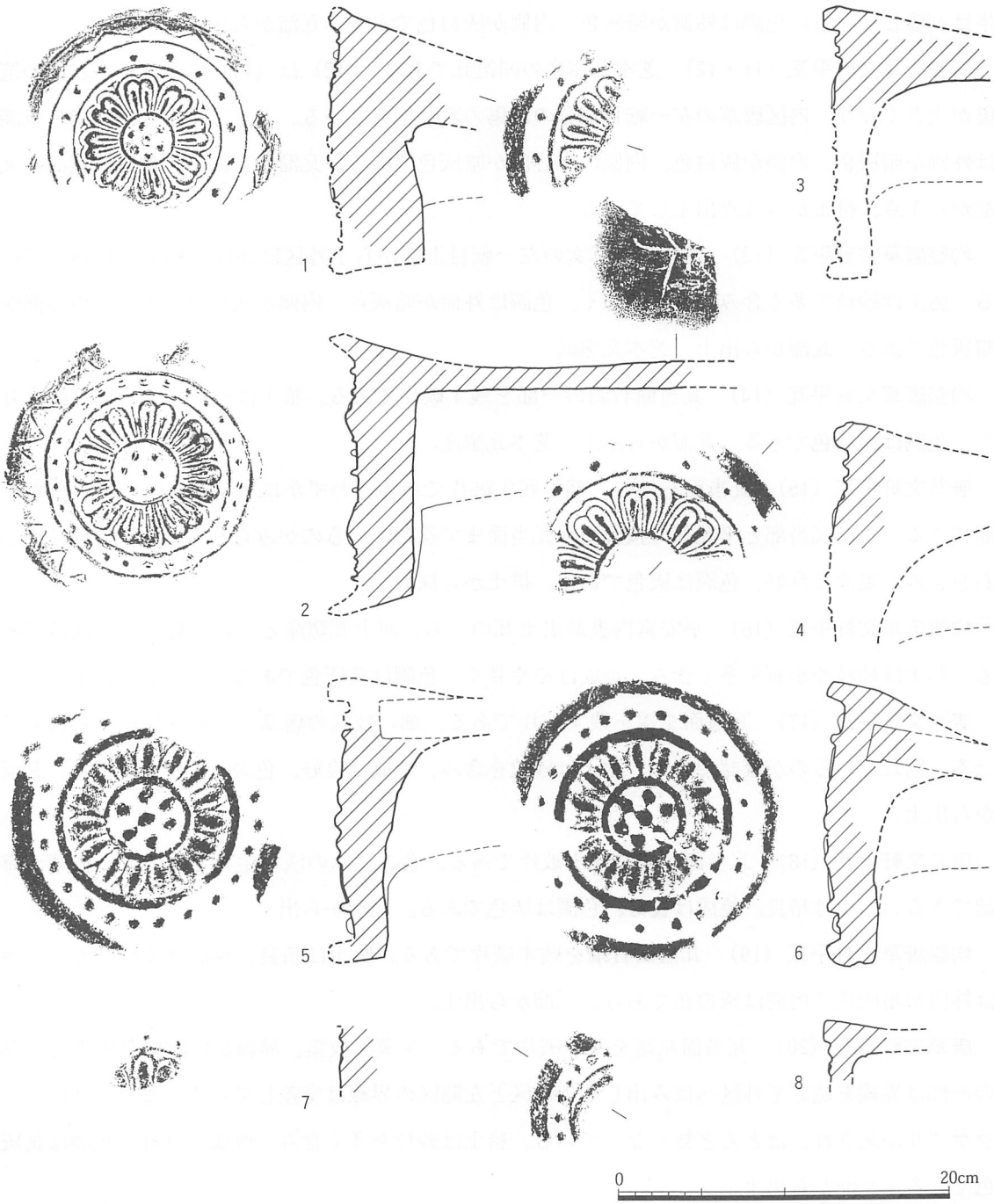


図４　軒丸瓦拓影・実測図（１：４）

よび小石を含み、焼成はやや甘く、色調は淡黄灰色である。排土から採取。

巴文軒丸瓦（８）　外区に小さな珠文を密に配し、右巻きの巴である。尾が界線に接する。胎土は砂粒を含み、焼成はやや甘く、色調は外側が暗灰色、内側が灰白色である。排土から採取。

均整唐草文軒平瓦（９）　平城宮6682型の系統である。顎部から瓦当面下外区にかけて歪みが生じている。瓦当文様の凸部分には指紋が数箇所認められる。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調は灰色である。瓦溜から出土。

唐草文軒平瓦（10）　上外区の珠文と内区の唐草の巻き込みが数箇所わずかに確認でき、平城宮6721型の系統ではないかと思われる。胎土は砂粒を多く含む。二次的な火を受け、瓦当面の大

半は剝離している。色調は外側が暗灰色、内側が灰白色である。瓦溜から出土。

均整唐草文軒平瓦（11・12）　芝本瓦窯産の同笵瓦である。(12) は (11) より下外区左側の笵傷が大きくなり、内区唐草の左一転目部分の笵傷の数が増えている。ともに胎土は精良で、色調は外側が暗灰色、内側が灰白色、内側の中心部が暗灰色である。瓦溜から出土。他に同笵品が瓦溜から1点、排土から3点出土している。

均整唐草文軒平瓦（13）　内区の唐草文の左一転目上部から上外区にかけて粘土が付着している。胎土は砂粒を多く含み、焼成は甘く、色調は外側が暗灰色、内側が灰白色、内側の中心部が暗灰色である。瓦溜から出土。芝本瓦窯産。

均整唐草文軒平瓦（14）　瓦当面右側の一部を残す破片である。胎土は砂粒を含み、焼成は甘く、色調は淡灰色である。瓦溜から出土。芝本瓦窯産。

唐草文軒平瓦（15）　瓦当面右端の一部を残す破片である。わずかに唐草文と笵の木目痕が確認できる。また瓦当部と平瓦部の接合面が瓦当面まで達しているのがみられる。胎土は砂粒や小石を含み、焼成は良好、色調は灰色である。排土から採取。

均整唐草文軒平瓦（16）　平安宮内裏跡出土瓦のうち、河上瓦窯産とされる軒平瓦[註5]と同笵である。胎土は砂粒や小石を多く含み、焼成はやや甘く、色調は黄灰色である。瓦溜から出土。

唐草文軒平瓦（17）　瓦当面左端を残す破片である。細い枝状の唐草文で外区に接する付近で三本に別れているのが確認できる。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調は黄灰色である。瓦溜から出土。

唐草文軒平瓦（18）　瓦当面左端を残す破片である。巻き込みの浅い主葉と幅の太い枝葉が確認できる。胎土は精良、焼成は良好、色調は灰色である。瓦溜から出土。

均整唐草文軒平瓦（19）　瓦当面右端を残す破片である。胎土は精良、焼成はやや甘く、色調は外側が暗灰色で内側は灰白色である。瓦溜から出土。

唐草文軒平瓦（20）　瓦当面左端を残す破片である。主葉、枝葉、界線がほぼ同じ太さで、葉の一部は界線を越えて外区へはみ出し、下外区と左脇区の界線は交差している。また上外区はヘラケズリが施され、ほとんど無くなっている。胎土は砂粒を多く含み、焼成は良好、色調は黄灰色である。瓦溜から出土。

幾何学文軒平瓦（21）　小片のため詳細は不明である。胎土は砂粒を多く含み、焼成はやや甘く、色調は外側は火を受け黒灰色で、内側は黄灰色である。瓦溜から出土。

剣頭文軒平瓦（22）　蓮弁状の文様である。胎土は精良、焼成は甘く、色調は外側は黄灰色で、内側は暗灰色である。瓦溜から出土。

鴟尾（23）　珠文帯の部分の破片である。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調は褐色である。排土から採取。

刻印瓦（24～28）　(24) は丸瓦凸面の玉縁付近に「理」の字が、(25～27) は平瓦端部にそれぞれ「里」、「矢」、「田」の字が押されている。(28) は平瓦端部に菊花状の文様が押されている。文字瓦は全て平城宮や長岡宮からの搬入瓦と考えられる。いずれも瓦溜から出土した。

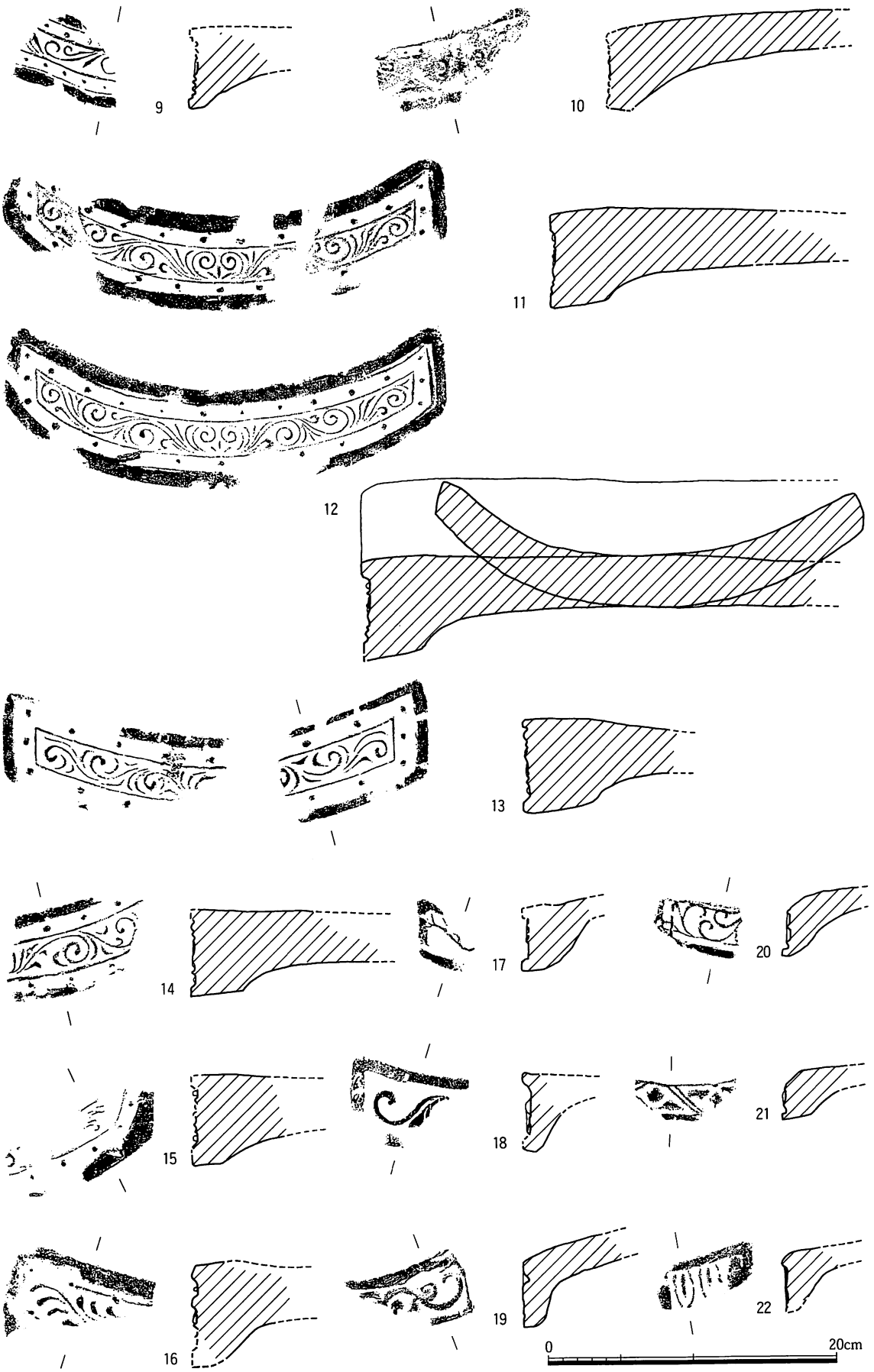


図５　軒平瓦拓影・実測図（１：４）

ま と め

調査では平安時代と考えられる溝状遺構・整地層・瓦溜・土壙を検出し、大量の瓦が出土した。特に瓦は、奈良時代から平安時代後期にわたる軒瓦や刻印瓦が出土しており、重要な成果となった。ただ平安時代と考えられる溝状遺構と整地層に関しては、1988年の調査の成果に基づき特定した遺構である。しかし、前述のように明確に溝とは断定し難く、整地層に関しても先の調査では上面で白砂が検出されているが、今回の調査では検出しておらず、近辺のさらなる調査が必要である。

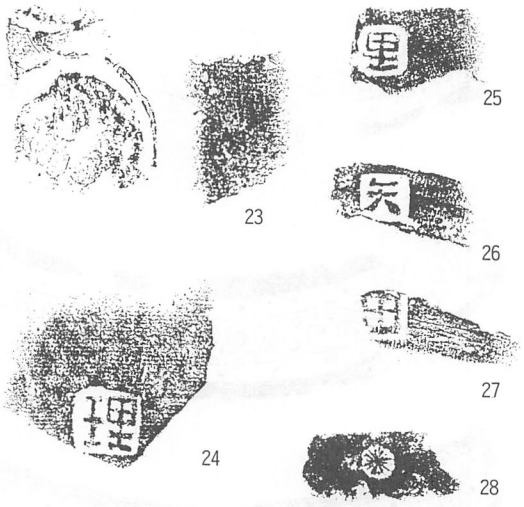


図6　鴟尾・刻印瓦拓影（1：4）

（吉本健吾）

註1　本　弥八郎「平安宮太政官（2）」『平安京跡発掘調査概報　昭和63年度』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1989

註2　山中　章「文字瓦と長岡京の造営」『長岡京古瓦聚成』　向日市教育委員会　1987

註3　平安博物館編『平安京古瓦図録』　雄山閣出版　1977
同書掲載の51。

註4　註3文献掲載の31。

註5　註3文献掲載の411・412。

2　平安京左京五条二坊二町（96ＨＬ145）

調査経過（図７・８）

本調査は、下京区綾小路通猪熊西入丸屋町558、558-3･4･5番地所在のマンション建設工事に伴って、1996年７月10日から12日までの３日間実施した。建設工事の中断に関しては施主および工事関係者の協力を得た。

調査地点は、平安京左京五条二坊二町の北東部、綾小路に面した位置にあたり、調査面積は約70㎡である。

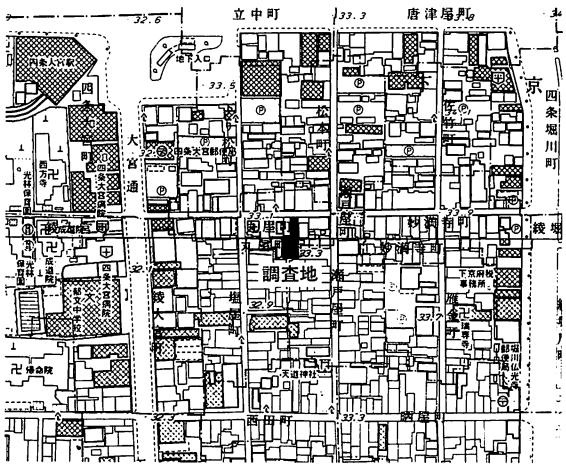


図７　調査位置図（１：5,000）

遺　構（図版18、図９）

平安時代中期から江戸時代までの遺構104基を検出した。これらは地表下約1.3mの黄褐色砂泥層（地山）上面で良好に残存していた。黄褐色砂泥層は綾小路に近づくにつれて浅くなり、北壁断面の層位観察では地表下約1.0m前後から確認された。敷地内の南東および南西部は撹乱を受けていた。

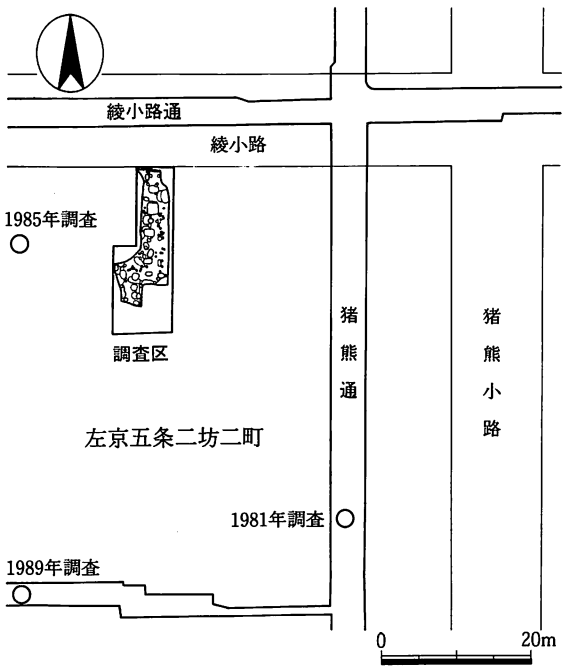


図８　調査区位置図（１：1,000）

以下、遺構の概要を時代を追って記述する。

平安時代中期の遺構は、10世紀のピット１基を検出した。

平安時代後期の遺構は、掘立柱建物２棟（建物118・119）や、井戸の可能性をもつ遺構（土壙90）、土壙、ピットなど24基があげられる。

建物118・119は、全体を検出していないが、遺構の時期や並び方から掘立柱建物として扱った。建物118は、東西２間（4.3m）以上、南北３間（7.2m）、柱穴は径0.3～0.4mの円形、深さ0.1～0.2m、柱間は南側柱列が東から2.7m（９尺）、1.5m（５尺）、東側柱列が南から2.4m（８尺）、2.7m（９尺）、2.1m（７尺）と不揃いである。時期は11世紀前半から中頃と推定される。建物119は、東西２間（3.9m）以上、南北３間（6.6m）、柱穴は径0.3mの円形、深さ0.1～0.2m、柱間は南側柱列が東から2.1m（７尺）、1.8m（６尺）、東側柱列が南から2.4m（８尺）、2.1m（７尺）、2.1m（７尺）である。時期は11世紀後半と推定される。建物118と建物119は、位置が重なることから作り替えられた可能性がある。

土壙90は、一辺約1.5mの方形の遺構である。検出面から約１m掘り下げただけで底部を検出

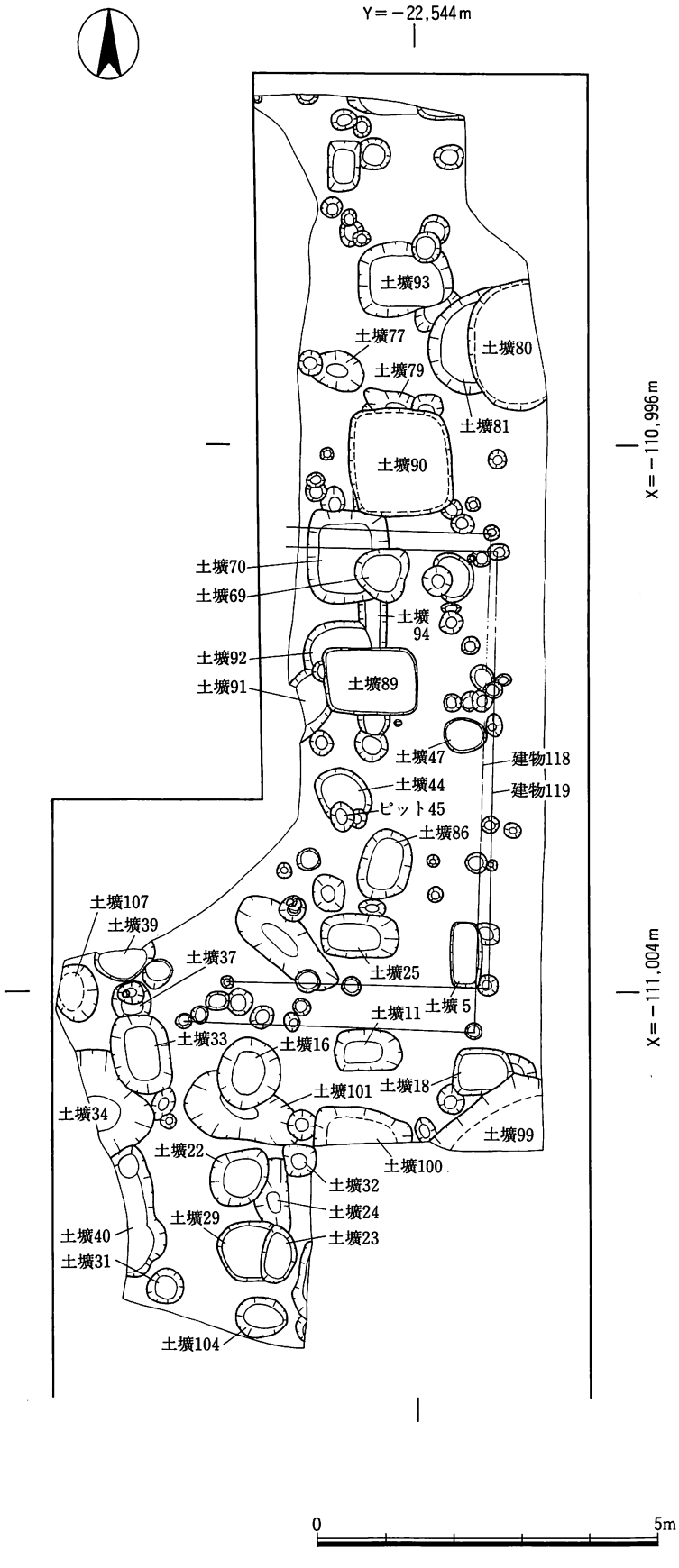


図９　遺構平面図（１：100）

していないが、遺構の形状や深さから井戸と考えられる。成立時期は明らかではないが、11世紀前半から中頃にかけて埋没したと推定される。なお工事関係者によれば地表下約2.6mに湧水層が確認できるとのことであった。

他に、土壙77・101・104・107が11世紀、土壙100が12世紀後半の遺構である。ピットは10基が11世紀、４基が11世紀後半から12世紀前半、２基が12世紀の遺構である。

12世紀前半のピット45では、後述する緑釉土塔が出土した。この遺構は調査区中央部で検出し、大きさは径0.3〜0.4m、深さ0.2mである。

鎌倉時代の遺構は、土壙、ピットなど９基を数える。土壙31・40・79・81・91が13世紀、土壙22・24が13世紀後半から14世紀前半である。

室町時代の遺構は、土壙、ピットなど12基がある。土壙34・37・93が14世紀、土壙29・32・94が15世紀、土壙47・92が16世紀である。

桃山時代から江戸時代前半の遺構は、土壙５・11・16・18・33・69・70・ピットなど10基があげられる。土壙５・11・33は、遺構の形状や堆積土、他の類例などから考える

と便所の可能性があり、土壙33では簡略な石組みが施されていた。

江戸時代中期から後期の遺構は、土壙23・25・39・44・80・86・89・99など８基を数えるが、ピットは未確認であった。上記以外の土壙５基とピット36基は、出土遺物が少なく時期の推定が難しい。しかし、ピットについては全体的な検出状況として平安時代後期が多数を占めており、これらも同時期の遺構である可能性が高い。

遺　物（図10～15）

出土遺物は整理箱にして７箱を数える。その大半は土器類であり、瓦類は少ない。

時代別に概観すると、古墳時代や平安時代前期の土師器などが混入品として少量みられる。平安時代中期から後期の遺物は、土師器、須恵器、黒色土器、白色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦器、白磁、青磁、丸瓦、平瓦などである。その他、鎌倉時代から江戸時代までの各時代の遺物が少なからず出土している。

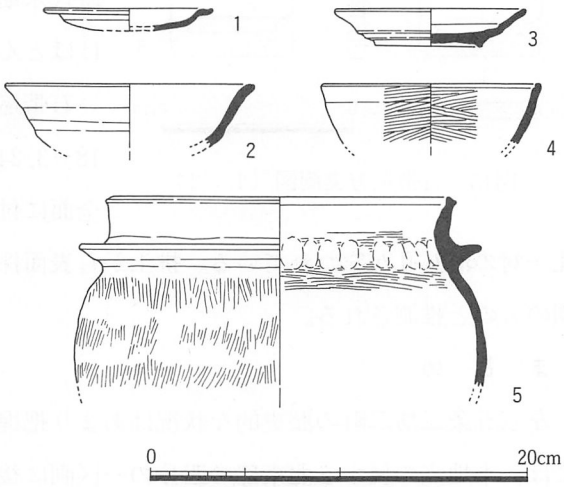


図10　土壙90出土遺物実測図（１：４）

ここでは、11世紀前半から中頃の土壙90の出土遺物を図示した。土師器皿（１）は、口径9.1cm。10世紀の薄手傾向の器形から厚味を増していく時期のもので、この時期としては薄手の部類にはいる。土師器羽釜（５）は、口径18.8cm、胴径22.0cm。大和産のものに類似しているが、産地の特定は難しい。黒色土器椀（４）は、口径11.8cm。Ｂ類で小型の部類にはいる。白色土器椀（２）は、口径13.4cm。比較的肉厚で小型化しており、白色土器の一般的な椀器形としては最終段階に近い時期のものである。灰釉陶器皿（３）は、口径10.3cm、器高2.1cm、高台径5.7cmの完形品。内面に0.1～0.2cmの段を施した東濃産の段皿である。灰釉の色調は灰白色（10Y7/1～8/1）。底部外面には糸切り痕が残る。この時期、この器形は平安京にそれ程搬入されなかったようであり、京内での出土例は少ない。他に、須恵器鉢・甕、緑釉陶器椀、灰釉陶器椀、丸瓦、平瓦などが出土。また、用途は明らかでないが、長さ25cm、幅10cm、厚さ５cmの石墨片岩（結晶片岩）なども出土している。

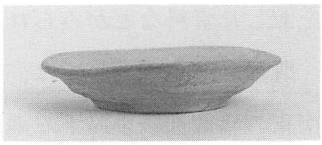


図11　灰釉陶器皿（３）

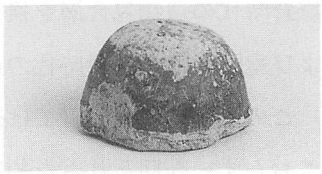


図12　緑釉土塔（６）

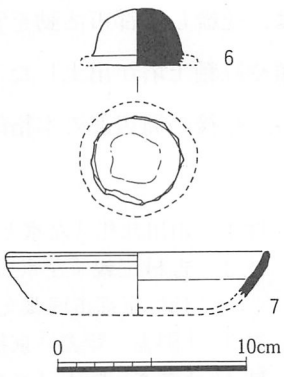


図13　ピット45出土遺物実測図（１：４）

注目される遺物に、緑釉土塔と石帯巡方があげられる。

緑釉土塔（６）は、高さ3.0cm、外径は張り出し部分がすべて欠損していて明らかでないが、上部裾の径は約4.5cmである。底部には施釉していない。胎土は精良、焼成は軟質である。胎土の色調は

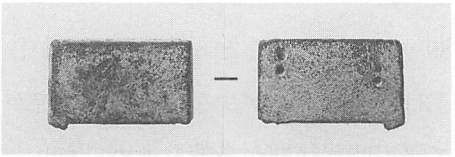


図14　石帯巡方（8）

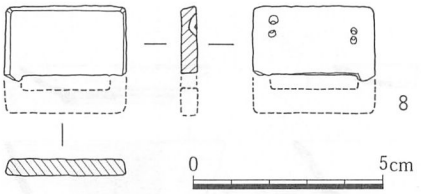


図15　石帯巡方実測図（1：2）

上部が灰白色（7.5Y8/1）、底部がにぶい黄橙色（10YR7/2）。上部表面には部分的に細かい布目痕と布地の捩れ跡が認められ、型作りとわかる。この土塔はピット45の底部付近から12世紀前半の土師器皿と共に出土した。土塔の出土例は、六勝寺跡のうち法勝寺、尊勝寺、最勝寺、成勝寺や、鳥羽離宮跡などがあげられ、おもに平安時代末期の寺院跡から多く出土しているが、平安京内ではほとんど知られていない。

石帯巡方（8）は、透孔の下側が欠損しており、幅3.18～3.24cm、厚さ0.46cm。色調は黒色（10YR1.7/1）。全面に付着物が多い。裏面隅には帯に装着するための2孔一対の潜り孔が穿たれている。排土から表面採集した遺物であるが、その形態から平安時代前期のものと推測される。

ま　と　め

左京五条二坊二町の歴史的な状況はあまり把握されていない。文献資料も数少なく、鎌倉時代には、本地点の属する北東部の四分の一区画に後鳥羽上皇の北面武士であった藤原親弘の邸宅が推定されていることや、南東部の四分の一区画程の比丘尼妙法の土地が尼浄蓮に売却されたことを記した資料などがみられる程度であり、平安時代に関する資料は残されていない。[註1]

既往の調査例としては、立会調査7件が実施されている。主要な調査をあげておくと、本地点南東の猪熊通綾小路下る瀬戸屋町での水道管交換工事に伴う調査では平安時代前期の土師器高杯が出土。[註2] 南西の黒門通綾小路下る塩屋町では平安時代前期の土壙2基、平安時代後期の土壙3基、[註3] 鎌倉時代の遺物包含層を検出。[註4] 本地点と同じ町内の綾小路通黒門東入丸屋町では平安時代後期および室町時代、江戸時代の遺物包含層を検出している（図8）。[註5]

このように、当二町では遺構・遺物の残存が確認されていたが、これまで発掘調査は実施されておらず、今回それらを約70m²の規模で調査できたことの意義は大きい。平安時代中期から江戸時代にいたる各時代の遺構が検出されたことや、遺構数104基と比較的遺構密度が高いことなどは、連続して都市活動を営んできた左京特有の様相が当二町にもみられることを示しており、瓦類や緑釉土塔が出土したことなどは、この付近に寺院関連の遺構が存在する可能性も否定できない。今後の周辺部の本格的な調査に期待したい。

（長戸満男）

註1　山田邦和「左京と右京」『平安京提要』　角川書店　1994
註2　吉村正親「左京五条二坊」『昭和56年度　京都市埋蔵文化財調査概要（試掘立会調査編）』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1983
註3　「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報　平成元年度』　京都市文化観光局　1990
註4　「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和63年度』　京都市文化観光局　1989
註5　「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和60年度』　京都市文化観光局　1986

3　平安京右京一条二坊十二町（96ＨＲ285）

調査経過（図16・17）

本調査は、中京区西ノ京円町19-5番地所在のマンション建設工事に伴う立会調査で、1996年10月７日から11日にかけて実施した。この間、８日から10日まで施主および工事関係者の協力を得て工事を中断し、約36m²の調査を行った。

調査地点は、平安京右京一条二坊十二町の南東部にあたり、西堀川小路の西端を含む位置である。『拾介抄』などによれば、当十二町には京内に設けられた西の獄舎である右獄（西獄）が置かれていた。

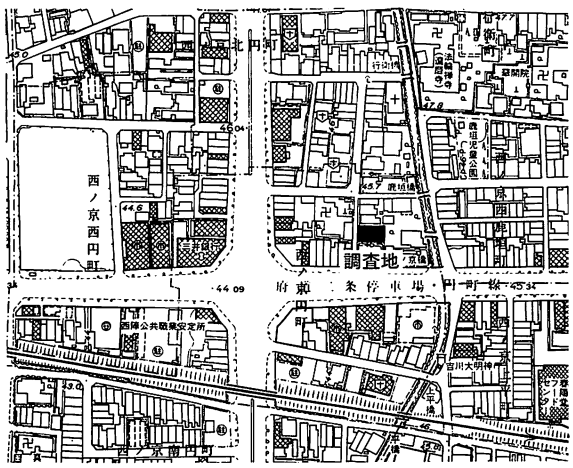


図16　調査位置図（１：5,000）

調査は、No.１地点で地山上面までを重機で掘り下げて遺構検出を行った。その後は工事掘削中にNo.２地点で関連遺構を検出し、最終的に工事掘削区の西壁断面のNo.３地点で遺構残存の確認を行った。これらの結果、平安時代前期の建物、溝など18基の遺構を検出した。

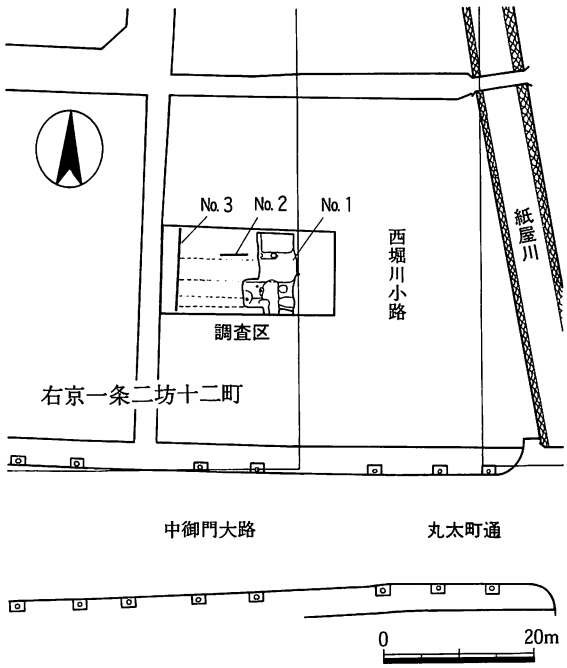


図17　調査区位置図（１：1,000）

遺　構（図版19、図18）

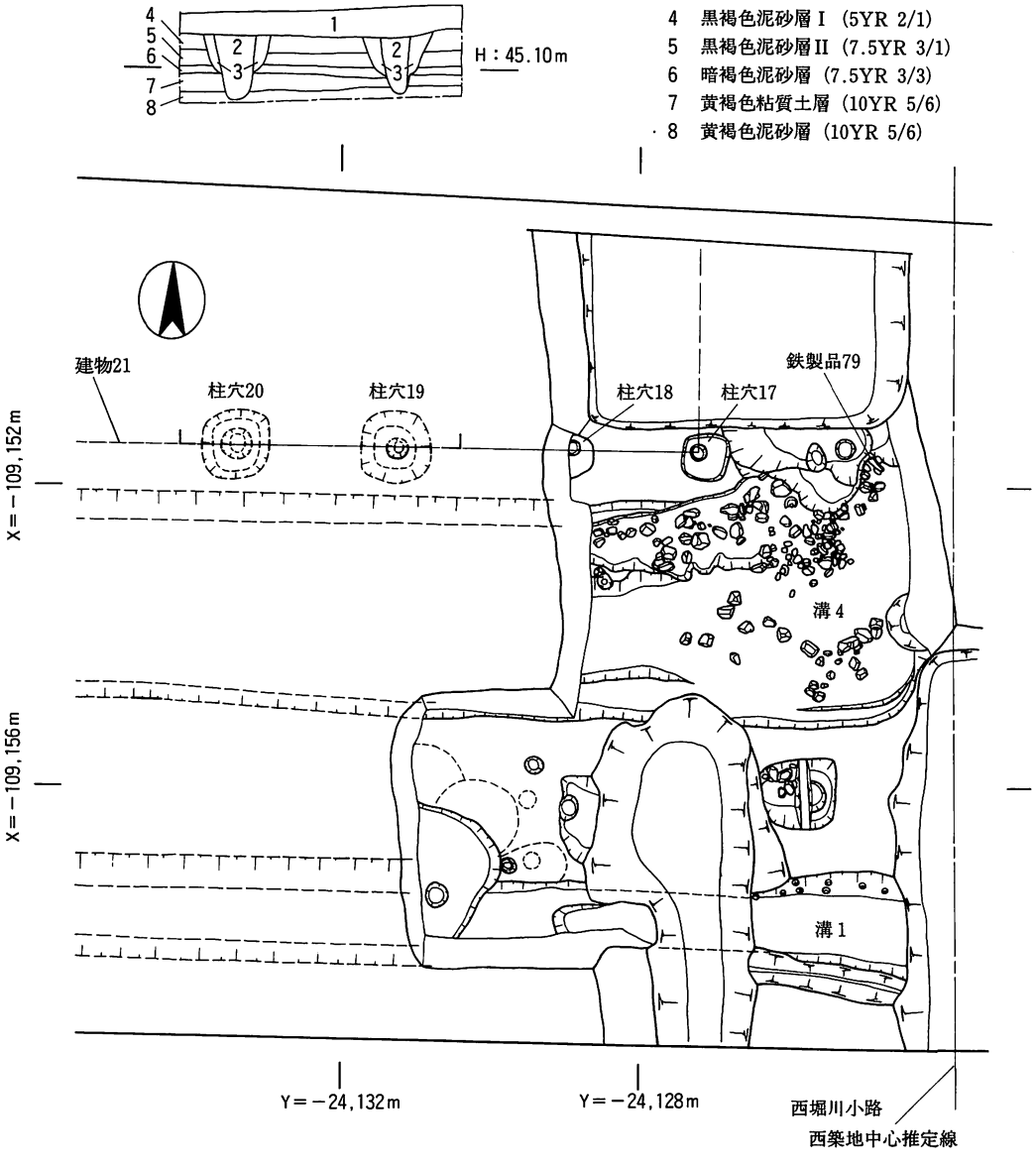
調査区の地表面は標高45.6～45.8mで北東が高くなる。基本層位は、厚さ0.2～0.3mの盛土以下に厚さ0.4～0.5mで黒褐色系の泥砂層が堆積し、標高45.1～45.2m（地表下0.6～0.7m）で黄褐色泥砂層（地山）上面となる。遺構の残存状況は非常に良好であり、盛土の直下では平安時代前期から中期および鎌倉時代の遺構・遺物を確認した。No.１地点の地山上面では平安時代前期の建物21、溝１・４を検出した。

建物21は、No.１・２地点で柱穴４基の東西柱列を検出したのみであるが、柱穴の規模などから東西３間（6.2m）以上の掘立柱建物の一部として扱った。No.１地点で南側に柱穴が確認されないことから、建物本体はこれより北側に位置すると考えられる。柱穴の掘形は一辺約0.6mの方形、深さ0.2m、柱痕跡は径0.2mである。No.２地点の断面では標高45.6m（地表下約0.3m）で掘形の一辺約0.9m、深さ0.6m、柱痕跡の深さ約0.9mを検出した。掘形と柱痕跡の遺物は明瞭な時期差を示しており、この建物は９世紀中頃に成立し、後半にかけて廃絶したと推測される。

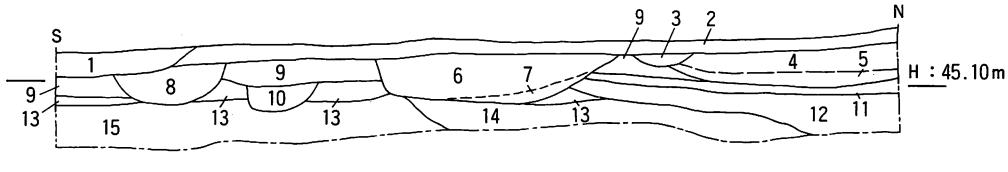
溝１は、断面が浅いＵ字状の東西溝で、No.１・３地点で検出した。No.１地点では幅1.3m、深

No.1・2地点　平面・断面図

1　盛土
2　黒褐色泥砂Ⅰ（5YR 2/1）
3　黒褐色泥砂Ⅱ（5YR 2/1）
4　黒褐色泥砂層Ⅰ（5YR 2/1）
5　黒褐色泥砂層Ⅱ（7.5YR 3/1）
6　暗褐色泥砂層（7.5YR 3/3）
7　黄褐色粘質土層（10YR 5/6）
8　黄褐色泥砂層（10YR 5/6）



No.3地点　西壁断面図



1　撹乱
2　盛土
3　黒色泥砂（7.5YR 2/1）
4　黒褐色泥砂Ⅰ（7.5YR 3/1）
5　黒褐色泥砂Ⅱ（7.5YR 3/1）
6　黒褐色泥砂Ⅲ（10YR 3/1）溝4
7　黒褐色泥砂Ⅳ（10YR 3/1）溝4
8　黒褐色泥砂Ⅴ（10YR 3/1）溝1
9　黒褐色泥砂層Ⅰ（7.5YR 3/1）
10　暗褐色砂礫（10YR 3/4）
11　黒褐色泥砂層Ⅱ（5YR 2/1）
12　明黄褐色泥砂層（10YR 6/6）
13　暗褐色砂礫層（7.5YR 3/4）
14　灰黄褐色泥砂層（10YR 6/2）
15　明黄褐色泥砂層（10YR 3/4）

0　5m

図18　遺構平面・断面図（1：100）

さ0.5mを検出した。溝北肩裾の一部で杭列らしき小穴の並びを検出したが、これが溝肩の護岸を意味するものかどうかは明らかでない。No.3地点の断面では標高45.4m前後（地表下約0.3m）で幅1.5m、深さ0.6mを検出した。結局、No.1・3地点の間で約15mの長さを確認したことになる。溝底部は東側のNo.1地点の方が約0.2m低くなっており、このことから西堀川小路の側溝に流れ込んだ可能性が考えられるが、東側が撹乱されていたので確認できなかった。遺物には9世紀中頃の土師器、須恵器、緑釉陶器などが出土した。

溝4は、断面が浅い逆台形を示す東西溝で、溝1と同様にNo.1・3地点で検出した。No.1地点では幅2.9m、深さ0.4m、底部の幅2.5mを検出した。東端では溝の南肩ラインが部分的に北へ折れ曲がる状態であった。この状態が溝方向の変わることを示すのか、あるいは南肩部のみが狭めらていることを示すのかは、対応する北肩の部分が遺構の切り合いによって不鮮明であるため確認できなかった。また、底部付近では0.1～0.3m前後の河原石を多量に検出した。石の多数が溝北肩に集中していたことから、北側にあった石垣などの石材が崩落して埋没した可能性があるが、ここからは完形に近い土器片や建築金物と考えられる鉄製品なども出土しており、単に投棄されただけの可能性もある。No.3地点の断面では標高45.5m前後（地表下約0.2m）で幅3.2m、深さ0.6m、底部の幅2.0mを検出した。溝1と同様、約15mの長さを確認したことになり、溝底部も東側のNo.1地点の方が約0.2m低くなっている。出土遺物は重機で掘り下げた上層部分でも多量に含まれていたが、No.1地点の狭い面積からも集中して多量に出土した。遺物の時期は9世紀後半である。

遺　物（図版20、図19～23）

出土遺物は整理箱にして11箱を数える。大半が平安時代前期の遺物であり、溝4の遺物量はその内の約7箱分になる。同時期の遺物は溝1、建物1、包含層からも多数が出土し、他に平安時代中期と鎌倉時代の遺物が少量出土した。ほとんどは土器・陶磁器類で、瓦類は少量である。

ここでは、溝4の出土遺物を概述する。内容は土師器、須恵器、黒色土器、白色土器、緑釉陶器、灰釉陶器などが大部分を占め、輸入陶磁器、瓦類はごく少ない。他に鉄製品が若干みられる。図示した土器群は、溝4下層から出土した遺物である。

土師器　皿A、杯A、杯B、椀A、鉢、盤、高杯、甕などがある。

皿A（1～10）は、口径13.3～17.0cm、高さ1.5～1.9cm。ほぼ同じ法量の（6）と（7）にc手法とe手法がみられる。（8）は最下層で出土。

杯A（11～17）は、口径14.9～17.0cm、高さ2.6～3.6cm。ほとんどがe手法で調整されているが、(17) のように技法の異なるものもみられる。(16) は最下層で出土。

杯B（18～21）は、口径16.6～18.0cm、高さ3.5～4.3cm。c手法が多く残る。

椀A（22～28）は、口径12.9～14.4cm、高さ2.4～2.9cm。口径14.0～14.5cmが中心だが、高さ3.0cmを割るものが多く、法量の縮小化を示す。

甕（29）は口径14.0cm。(30) は口径18.4cm。(31) は口径22.4cm。(32) は口径25.8cm。(33) は口径25.0cm。(29) と (30) には南河内系統、(31) と (32) には大和系統、(33) には摂津播

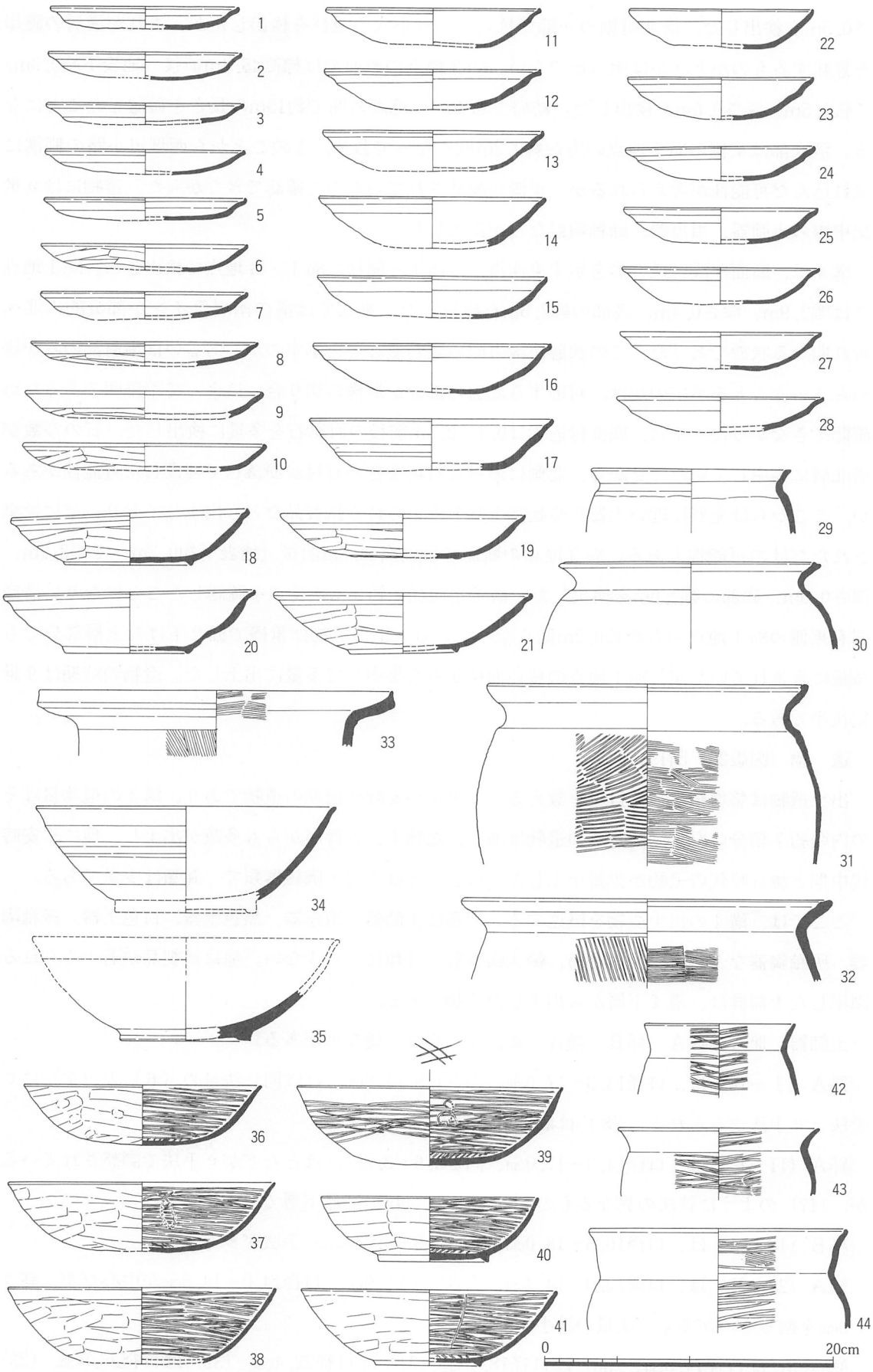


図19　溝４出土遺物実測図（１：４）

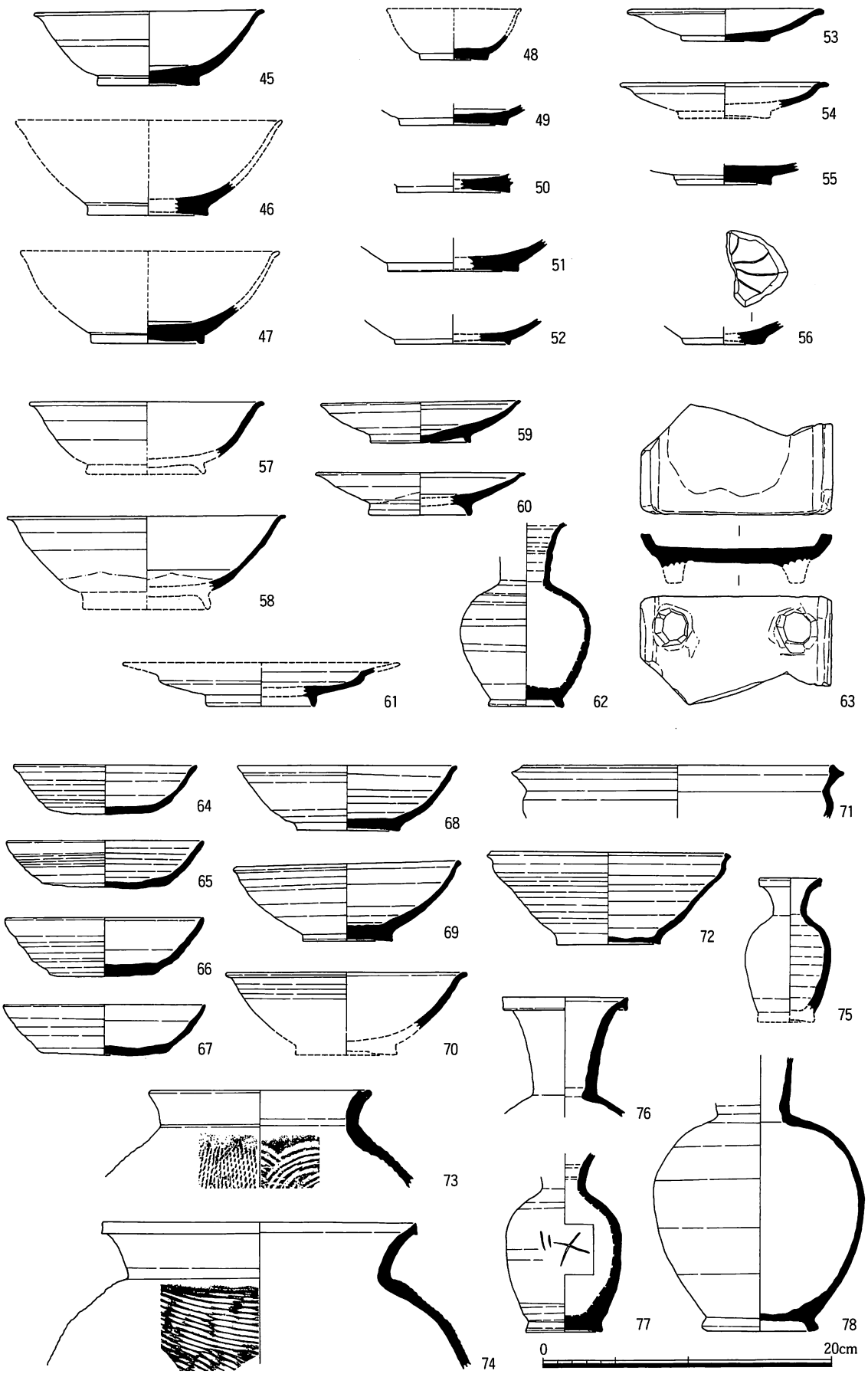


図20　溝４出土遺物実測図（１：４）

磨系統の調整技法や器形がみられる。

須恵器　杯A、椀、鉢、甕、壷などがある。

杯A（64～67）は、口径12.7～14.0cm、高さ3.5～4.1cm。（64）には朱かベンガラを用いて器面全体に赤彩を施した痕跡がある。

椀（68）は口径13.3cm、高さ4.6cm。（69）は口径15.9cm、高さ5.5cm。いずれも底部外面に糸切り痕が残り、焼成は軟質である。（70）は口径16.8cm。口縁部は緑釉陶器椀に似た形を示す。

鉢（71）は口径23.2cm。（72）は口径17.0cm、高さ6.4cm。底部外面に糸切り痕が残り、焼成は硬質で、丹波産と推測される。

甕（73・74）はいずれも体部以下が欠損。（73）は口径15.8cm。体部外面にタタキ、内面に同心円状の当て具痕が残る。口縁上端面に凹みがめぐる。（74）は口径22.0cm。体部外面にタタキ、内面の成形痕は不明。

壷（75）は底部が欠損。口縁径4.5cm、胴径6.0cm。（76）は体部以下が欠損。口径8.8cm。（77・78）はいずれも口縁部が欠損。（77）は胴径8.1cm、底径5.4cm。底部外面に糸切り痕。体部側面には調整時に記された横向きに「十二」と読める線刻がある。（78）は胴径14.7cm、底径8.2cm。底部は外面に糸切り痕が残り、貼付高台である。

黒色土器　A類の杯、椀、甕などがある。

杯（36）は口径16.6cm、高さ4.2cm。外面に煤が付着。（37）は口径18.6cm、高さ5.0cm。（38）は口径18.8cm。（39）は口径18.5cm、高さ5.5cm。底部内面に焼成後に記された線刻がある。

椀（40）は口径15.1cm、高さ4.1cm。（41）は口径18.0cm、高さ5.3cm。椀と杯の内で共通した法量のものには、高台が付き始めて杯から椀へと器形が変化する過渡的な状態が指摘できる。

甕（42）は口径10.5cm。最下層で出土。（43）は口径14.0cm。胎土が非常に細かく良質で、他の２例と産地が異なるとみられる。（44）は口径18.0cm。すべて外面に煤が付着する。

白色土器　椀がある。

椀（34）は口径20.8cm。（35）は底径9.0cm。削り出し輪高台で（34）も同様と推測される。

緑釉陶器　椀、皿、耳皿などがある。

椀（45）は口径15.9cm、高さ5.1cm、底径7.1cm。削り出し平高台。（46）は底径8.4cm、削り出し平高台。（47）は底径7.8cm。削り出し輪高台。内面にトチン跡が残る。（48）は底径4.7cmの小椀。底部外面に糸切り痕が残る。（49）は底径7.5cm。削り出し平高台。（50）は底径7.8cm。削り出し蛇の目高台。（51）は底径9.0cm。削り出し平高台。最下層で出土した。（52）は底径8.0cm。削り出しの細い輪高台。すべて山城産と思われる。

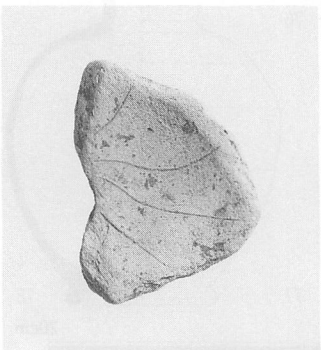


図21　緑釉陶器耳皿（56）

皿（53）は口径13.7cm、高さ2.3cm、底径6.2cm。削り出し平高台。（54）は口径14.4cm。最下層で出土。（55）は底径6.6cm。削り出し平高台。すべて山城産と思われる。

耳皿（56）は上半部が欠損。底径約5.7cm。二次的な火を受けた

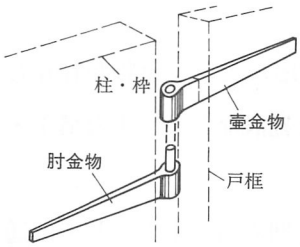


図22　肘壷

図23　鉄製品（79）

とみられ、緑釉が完全に剝落、平高台の端部は磨滅。内面に蓮の葉脈をあらわす陰刻文様が施される。山城産。最下層で出土。

灰釉陶器　椀、皿、段皿、壷、風字硯などがある。

椀（57）は口径16.3cm。最下層で出土。（58）は口径19.4cm。施釉はハケ塗りである。

皿（59）は口縁部が一部欠損するが、ほぼ完形。口径13.9cm、高さ2.8cm、底部径7.0cm。内面全体に自然釉がかぶり施釉方法については不明。貼付高台。底部外面の3箇所にトチン跡が残る。最下層で出土。（60）は口径14.6cm、高さ3.0cm、底径7.2cm。施釉はハケ塗り。貼付高台。内面底部に重ね焼き痕が残る。

段皿（61）は底径7.7cm。施釉はハケ塗り。貼付高台。底部内面に重ね焼き痕が残る。

壷（62）は口縁部が欠損。胴径9.1cm、底径5.3cm。施釉はハケ塗り。貼付高台。底部外面に糸切り痕が残る。

風字硯（63）は海部の大半と脚部が欠損。幅13.4cm。長さは復原すれば18cm前後になる。硯面にはわずかに凹んだ滑らかな使用痕がみられ、陸部には部分的に墨痕が残る。裏面は灰釉が全体に厚く残る。外堤外面と脚部はヘラで成形されており、八角に面取りした脚の基部が残る。

鉄製品（図23）（79）は、長さ24.7cm、幅2.7cm、厚さ2.0cm。環状部分の外径5.3cm、内径1.8cm。重さ0.7kg。平安時代前期の類似例があまりみられない遺物で不明な点も多いが、門扉や木戸などの開閉のために丁番と同様の機能をもたせた肘壷（図22）の壷金物、あるいは寝殿などに使われた蔀戸の上板を吊り上げるための蔀金物など、建築金物の一種と考えられる。[註1]

ま　と　め

今回の調査のまとめとして、平安時代前期の遺構とその性格を整理しておく。

建物1、溝1、溝4の遺構配置について、各遺構の東端が西堀川小路の西築地推定線にほぼ重なっていることは、遺構の性格を考えるうえで要点の一つとなり、この付近で西堀川小路を復原する際に一考をうながす新たな成果を得たといえる。

短期間の内に建物1棟と溝2条とが共通した軸線をもって存在していたことは、この地点が当時どの様に利用されていたかを理解するうえでの手掛かりとなる。新旧関係は9世紀中頃に埋没した溝1が最も古く、次に建物1が9世紀中頃に建てられ、9世紀後半に廃絶される。その後、溝4が成立したということになる。このことから各遺構はそれぞれ独立して機能していたと考えられるが、建物1と溝1は9世紀中頃の一時期に併存していた可能性も高く、両者の距離が約5.5mであることから、当初は区画溝などの意味で設けられた溝が建物の排水溝として機能していた

とも推測される。

建物１は、一辺約0.9m、深さ約0.9mという柱穴の規模からはそれ相応の大きな建物が存在したと考えられ、例えば西堀川小路と接した位置関係からは門に関係した施設などが、また溝１・４の遺物にみられる質量からは厨房関連の施設などが想定される。

溝４の遺物の器種構成では灰釉陶器が相対的に少ないが、京内の同時期の出土土器としては通有の様相を示しており、土師器や緑釉陶器などの食器類の製作技法や形態に古い要素が多く残っていることなど、当時の土器様相の変化を理解するうえで格好の資料である。類似例は平安京II期古の新相からII期中の古相を示す資料の中に求められるが、土師器食器類の様相などからII期中に属する土器群と考えられる[註2]。実年代では９世紀後半でも中頃に近い時期の一群に推定される。

当十二町では発掘調査が実施されたことはなく、立会調査６件が行われている。その内の平安時代に関した成果をあげておくと、本地点から西大路通を挟んだ約100m西の当十二町南西部、野寺小路近くの地点では、地表下0.2m以下で平安時代中期の土壙６基および遺物包含層を検出している[註3]。また、本地点の北西約50m、当十二町の中央付近の地点では、地表下0.45mで平安時代の遺物包含層、地表下1.1mで平安時代の整地層を検出している[註4]。このように周辺では地表下の比較的浅い位置に平安時代の遺構・遺物が残存することが知られていたが、今回の調査で平安時代前期の遺構・遺物が盛土の直下から確認できたことは、当十二町の実体をさぐるうえで新たな成果を付け加えたといえる。

右獄については、『拾芥抄』西京図のほか、13世紀中頃の『平治物語絵詞』信西の巻には獄門のさらし首の有様が写実的に描かれているが、平安時代前期にさかのぼる史料は見当たらない。ただ、『續日本後紀』承和九年（842）七月十九日条、嘉祥二年（849）閏十二月十日条[註5]によれば、京内に獄舎が存在したことがうかがえる。しかし、その所在地に関する記載はみられない。今回の調査で文献に残された時期とほぼ同時期の各種遺物と明確な遺構を検出したことは、右獄の具体像を解明していくうえでも重要であろうと考えられ、周辺部の今後の調査に期するところは大きい。

（長戸）

註１　鉄製品に関して塚原十三雄氏（京都府教育庁）に御教示を頂いた。記して感謝の意を表します。なお、図22は『建築大辞典』(彰国社　1974）を参考にして作成した。

註２　小森俊寛「概要」『古代の土器２　都城の土器集成II』　古代の土器研究会　1993

註３　「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和57年度』　京都市文化観光局　1983

註４　「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和63年度』　京都市文化観光局　1989

註５　「續日本後紀」『新訂増補　国史大系』　吉川弘文館　1987

・承和九年七月十九日条　辛亥、正躬王眞綱朝臣等窮問罪人、奏其日記、捕春宮坊舎人伴氏永、付右衛門府、以健岑従弟也、是日、掃獄免前年罪人、又於東市樓前、脱盗人鉗、各給粮放却、（以下略）

・嘉祥二年閏十二月十日条　己未、乗輿巡省京城、以銭米賑殷賑給窮者、此至囚獄司前、天皇問曰、是為誰家、右大臣藤原良房朝臣奏言、囚獄司、於是殊降恩詔、皆免獄中罪人、群臣欣悦、俱呼万歳

4　平安京右京五条三坊九町・西院城跡（96ＨＲ357）

調査経過（図24）

調査地は、右京区西院坤町63-1、65・66番地に位置し、マンション新築工事に伴って立会調査を行った。当地は、平安京右京五条三坊九町と、西院城の推定地に位置する。西院城は、戦国時代を通して唯一洛中に建てられたとされる城郭で、『上杉本洛中洛外図屏風』(図29)、『言継卿記』等に記載されており、天文年間（1532～1555）から永禄十一年（1568）まで存在したと考えられている[註1]が、詳細はほとんど不明である。

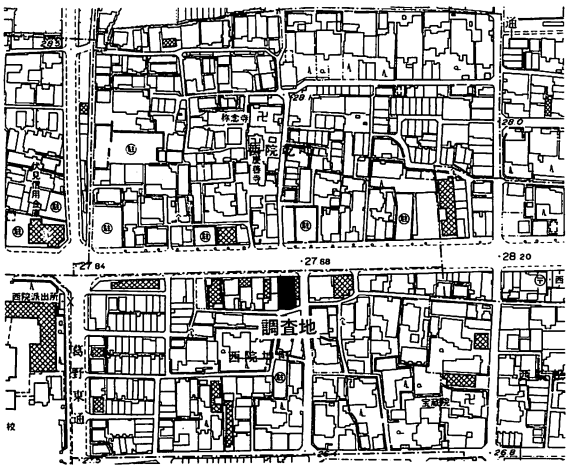


図24　調査位置図（1：5,000）

調査は、掘削工事が行われた1996年11月21日から28日までに５日間実施した。調査の結果、室町時代の遺物を含む南北溝や柱穴、土壙などを検出した。

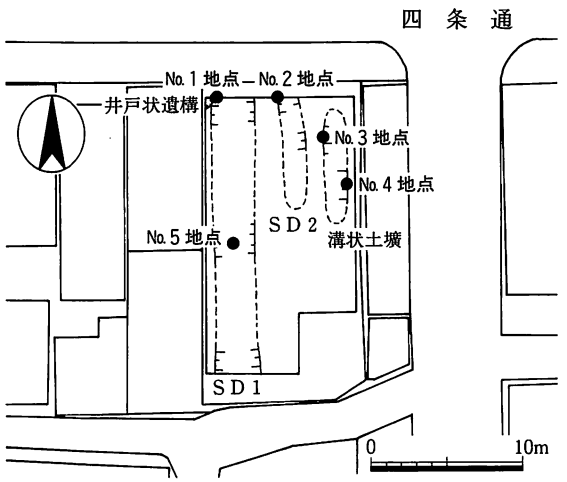


図25　遺構位置図（1：500）

遺　構（図版21、図25・26）

調査地の基本層序は、調査地北側で地表下0.6ｍまでが現代盛土層、以下1.3ｍまでに室町時代の遺物包含層が２層堆積する。その下層は黄褐色砂泥層の地山である。遺構は、新しいものは現代盛土層直下から、最も古いものは地表下1.1ｍの室町時代の遺物包含層の第２層上面から切り込む。検出した主な遺構は、室町時代の南北溝２条、溝状を呈する土壙１基、近世の井戸状遺構１基である。

室町時代の遺物を含む南北溝は２条検出している。規模の大きな溝ＳＤ１は調査地の西側に位置し、No.1地点では地表下0.9ｍで幅2.3ｍ以上、深さ1.2ｍ、断面は逆台形状を呈する。埋土は上層のにぶい黄褐色砂泥と下層の灰色泥土に大きく分かれる。下層からは、16世紀中頃の土師器、白磁、漆器、下駄、曲物などが出土している。この溝は調査地の南側でも検出しており、調査地を南北に延びていることが確認できた。

東側の溝ＳＤ２は、調査地北側のNo.2地点の地表下1.1ｍで幅1.2ｍ、深さ0.75ｍ、断面はＵ字状を呈する。この溝の埋土はＳＤ１と同様の堆積を示し、出土遺物も16世紀中頃の土師器、漆器などが出土している。溝はNo.2地点から南へ６ｍまではＳＤ１と平行して続いていることが確認できたが、それより南では確認できておらず、途切れているか東または西のいずれかに曲がるものと考えられる。

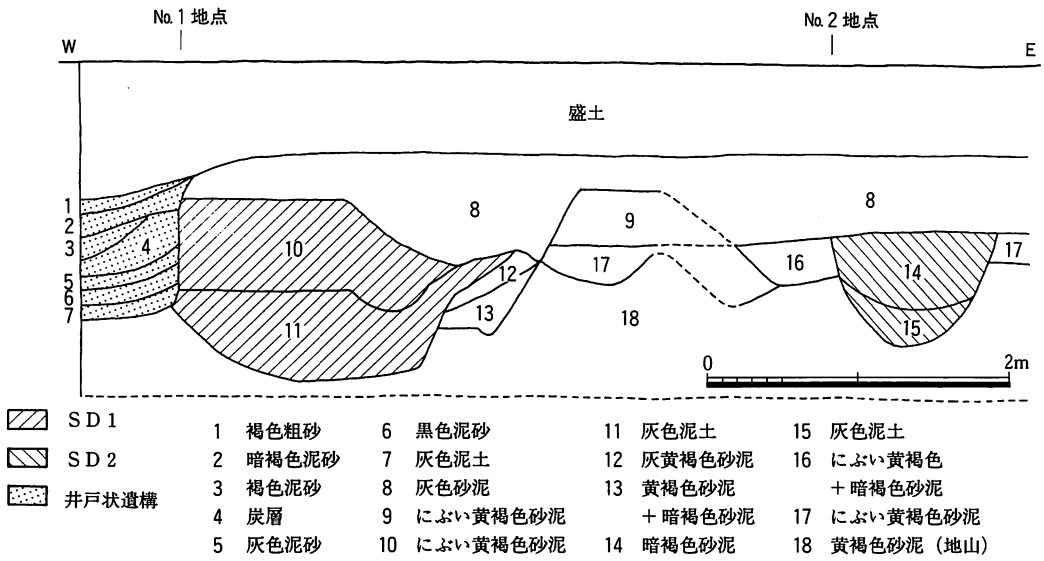


図26　No.1・2地点　北壁断面図（1：50）

ＳＤ２のさらに東側の地表下1.2mで溝状を呈する土壙を検出した。土壙の西肩を調査地北端から3.7mのNo.3地点で、東肩を5.7mのNo.4地点で確認している。幅は推定で1.4m、深さ1.1mで断面はＵ字状を呈する。埋土からは前述の２条の溝と同じく16世紀中頃の土師器、中世の瓦器などが出土している。

近世の井戸状遺構は、調査地の北西隅の地表下0.75mで検出した。この遺構はＳＤ１の西肩を切っており、幅は推定1.6m、深さ0.95mである。埋土は７層に分かれ、第４層と第６層が炭の堆積層である。また第３層と第６層から陶器が出土している。形状や遺構内の埋土の状況からは井戸と考えられるが、やや浅く湧水層に達していない。

遺　物（図版21、図27・28）

出土遺物は少量で、土器類、瓦類、木製品、石製品である。

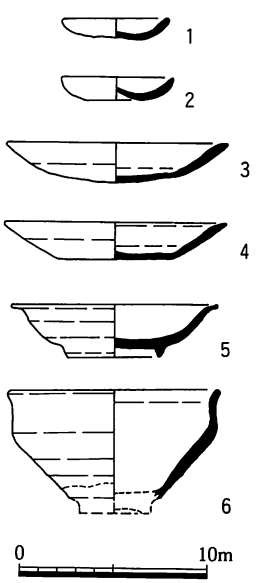


図27　遺物実測図（1：4）

土器類では、土師器が平安時代後期から近世のものまで出土した。ＳＤ１の下層から出土した土師器皿（１～４）は、16世紀中頃の特徴を表すものである。小型の土師器皿（１・２）は曲物内から出土している。白磁皿（５）もＳＤ１の下層から出土したもので、釉は乳白色を呈する。美濃産の天目茶椀（６）は井戸状遺構の第３層から出土したもので、釉は黒褐色を呈する。

木製品では曲物、下駄、漆器が出土している。曲物（図版21-2）は、復原径13cm、高さ７cmで底は欠落しているが、木の葉を数枚敷いて底を作り、土師器皿（１・２）を２枚並べて置いた状態であった。意図的にそうしてあったのか、溝の中で偶然そうなったのかは不明である。下駄（図版21-3）は長さ19.3cm、幅7.9cm、高さ1.6cmで縦に割れている。漆器椀の破片は２点出土しており、いずれも外面が黒漆、内面に朱漆を施す。漆器の１点がＳＤ２の

下層、他は全てＳＤ１の下層から出土したものである。

石製品（９）は残存長6.1cm、幅2.1cm、厚さ1.4cmで直方体に成形され、そのうち２面が破損している。材質は粘板岩である。石の割れ目に朱がしみ込んでいることから、文具の一種とも考えられる。側面に「イロハニ□へ斗」の稚拙な文字が線刻されている。ＳＤ１の下層から出土。

図28　石製品（９）

ま　と　め

調査では室町時代の南北溝、溝状を呈する土壙、近世の井戸状遺構などを検出したが、16世紀中頃の遺物を含むＳＤ１・２、溝状土壙は、時期的にみて西院城に関係する遺構と考えられる。ただ西院城の位置に関しては明確な資料に乏しく、当調査地が城のどの位置にあたるかは不明である。京都市の遺跡地図では西院城の推定地の中心付近の位置にあたるが、他の文献などでは西院城の南西隅、あるいは推定地から外れているものもある。[註2] 西院城の目的が四条通からの洛中への侵入を防ぐために設けられたと考えられている以上、西小路通を当時流れていたと考えられる紙屋川を防衛線にして、四条通に接して築城されていたとみるのが妥当であろう。また当時の築城方法では、城の周囲の堀はＶ字状に掘り下げ、その残土で土塁を築きあげるのものであった。[註3] しかし今回検出されたＳＤ１およびＳＤ２は、断面形が異なっており、そのような堀ではなかったと思われる。おそらく城内を流れる溝か、城外に流れ出す溝であると考えられる。

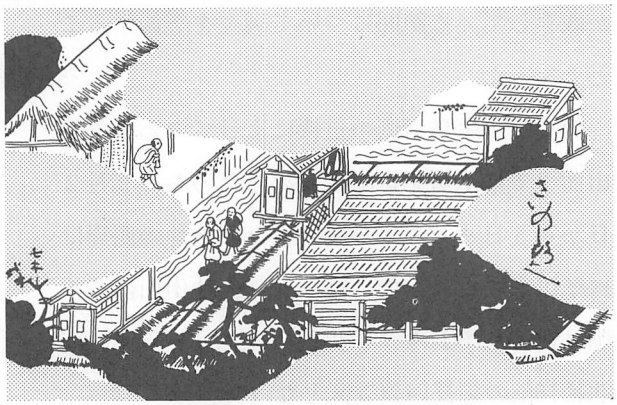


図29　西院城

（吉本）

註１　今谷　明「京都府京都市小泉城」『日本城郭大系』第十一巻　新人物往来社　1980
『洛中洛外図大観　上杉家本』　小学館　1987
なお、図29は『洛中洛外図大観　上杉家本』を参考にして作成した。

註２　山下正男「西院城」『京都市内およびその近辺の中世城郭』　京都大学人文科学研究所調査報告第35号　京都大学人文科学研究所　1986

註３　小澤嘉三「小泉の城」『西院の歴史』　西院史編集委員会　1983

Ⅲ　その他の遺跡

1　植物園北遺跡（96ＲＨ224）

調査経過（図30・31）

本調査は、左京区下鴨前萩町5-1番地で行われた共同住宅建設工事に伴う立会調査である。

1996年８月30日、基礎工事の際の掘削断面の観察により、竪穴住居と思われる落込みが良好に遺存していることが明らかになった。このため、京都市埋蔵文化財調査センターおよび施工業者との話し合いにより、工事を中断して遺構が残存している範囲について調査を実施することとなった。

図30　調査位置図（１：5,000）

調査は工事業者側の重機によっていわゆる地山面までの土層を排除・搬出したのち、９月２日から５日までの４日間行った。敷地の四周は擁壁工事のためすでに掘削され、地山面は深く削り込まれており、中央部に東西４～５m、南北約16mの細長い調査区となった。

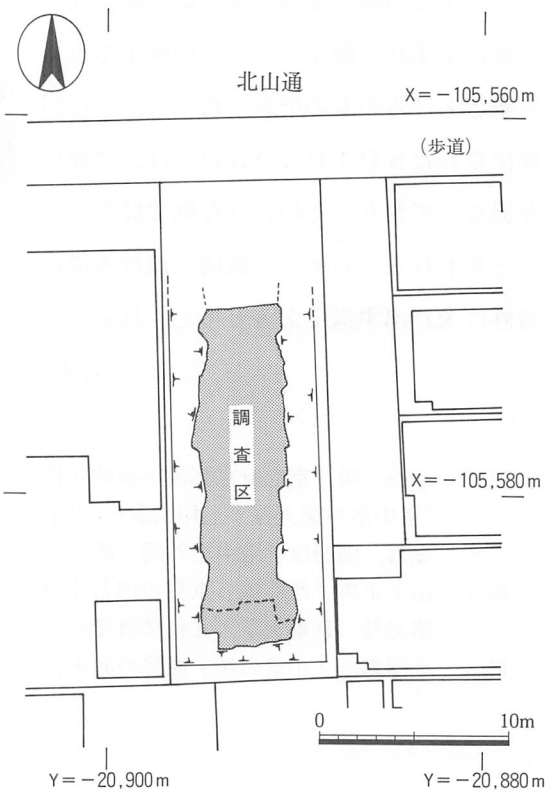


図31　調査区位置図（１：400）

調査地は、弥生時代から古墳時代を中心とした植物園北遺跡の南東部にあたる。近辺の主要な調査では、北西の1990年度調査[註1]（第７次）で古墳時代前期の竪穴住居と平安時代後期の掘立柱建物など、南西の1991年度調査[註2]（第９次）で飛鳥時代から平安時代の竪穴住居・掘立柱建物など、また1992年度の北山通での調査[註3]（第10次）のうちの第２トレンチで弥生時代後期と考えられる竪穴住居を少なくとも２棟検出している。

なお、本調査は立会調査として実施したが、植物園北遺跡の第17次調査に位置付けておく。

遺　構（図版22～24、図32～36）

層位は地表面以下、耕土層、遺物包含層、地山となる。耕土層は北側で約0.2m、南側では約0.35mの厚さがある。遺物包含層は0.25m前後の均一な層厚の黒褐色砂泥であった。土器は少量

であり、いずれも小片のため時期を限定するには至らなかった。地山は褐色粘土を主体とするが、部分的に下層の砂礫層が露出する箇所もある。地山上面は調査区北端で標高70.25m、南端で70.10mと緩やかに北から南へ傾斜している。調査期間が限定されたため、遺物包含層までを重機により除去した。

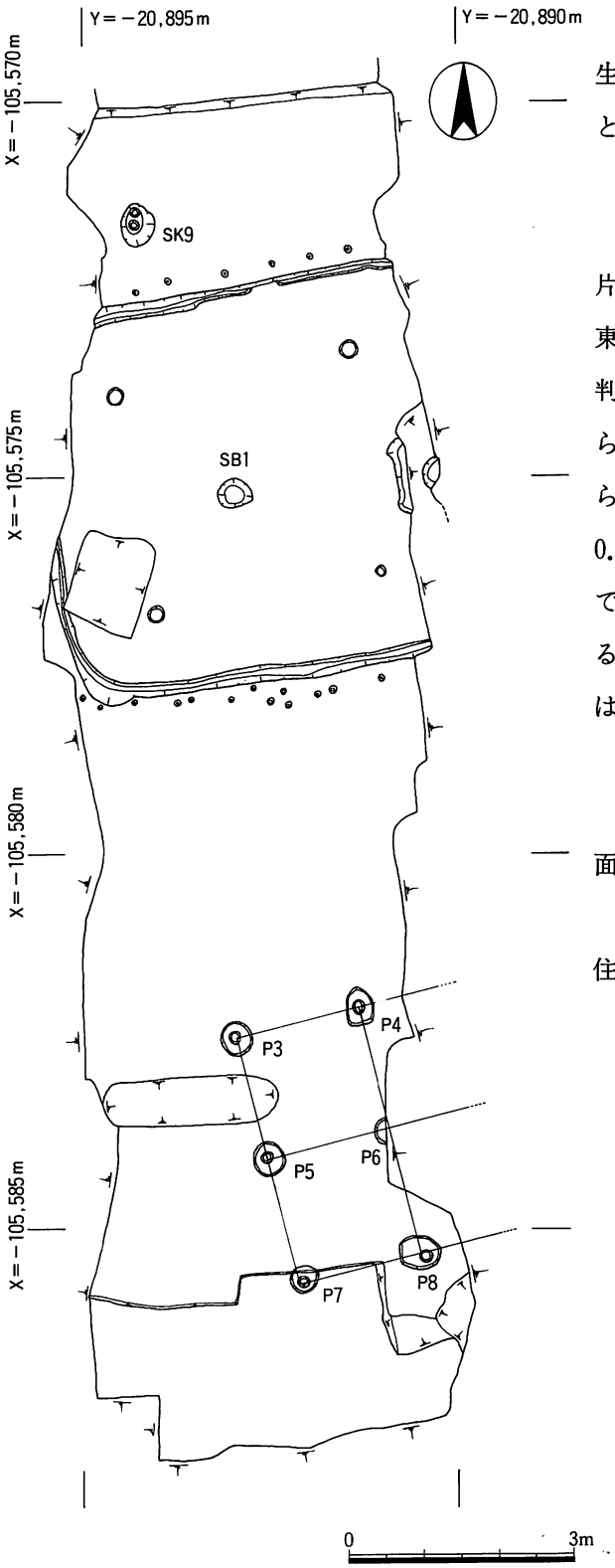


図32　遺構平面図（1：100）

調査の結果、縄文時代中期の土壙ＳＫ９、弥生時代末期から古墳時代初期の竪穴住居ＳＢ１と掘立柱建物を検出した（図32）。

ＳＫ９（図版24-2･3、図33）

検出時、地山上面で径0.4m程の範囲に土器片の散布がみられた。精査の結果、南北0.6m、東西0.45mの楕円形を呈する土壙であることが判明した。埋土はにぶい褐色泥砂で、検出面から約0.05mの間に土器を多く含み、それ以下からも一定量の土器が出土した。形態は、深さ約0.3mの土壙底部の中央と北寄りに南北に並んで、径0.12m前後の円形の掘込みがなされている。底部はいずれも平坦で、検出面からの深さは中央が0.5m、北側が0.45mである。

ＳＢ１（図版23、図34・35）

重機掘削中の土層観察により、遺物包含層上面から切り込むことを確認した。

平面形が隅丸方形と考えられる住居である。住居の東辺と西辺の大半は深く掘削され残存し

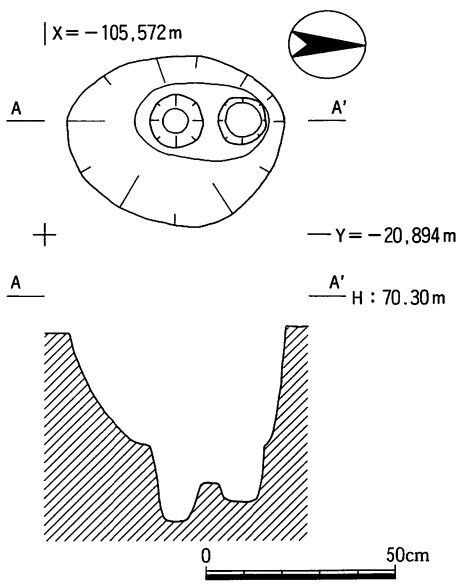
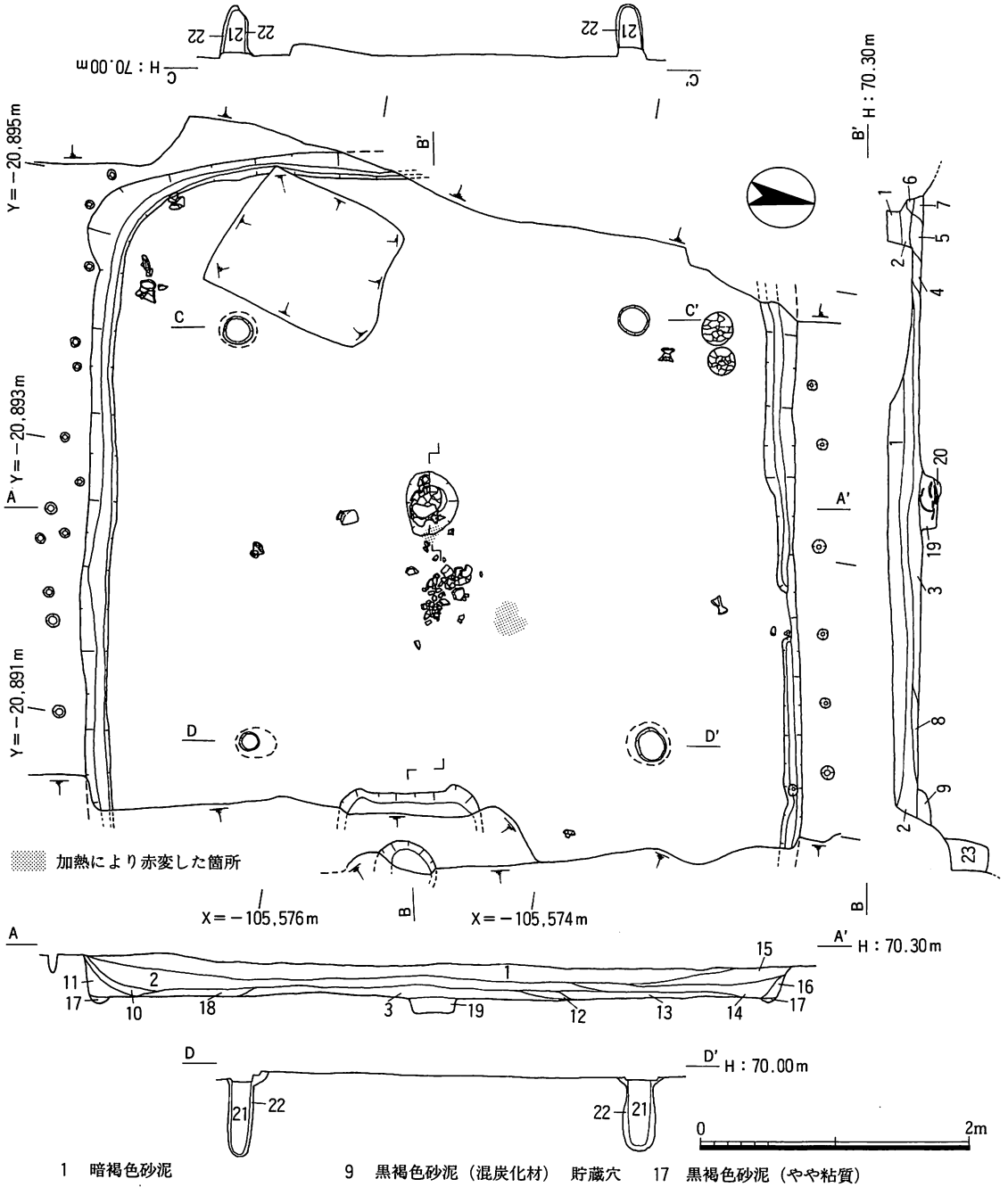


図33　ＳＫ９　平面・断面図（1：20）

ないが、ほぼ住居の全貌は明らかにし得た。規模は南北5.26mあり、東西は最大5.2m分を検出した。住居の角は南西角のみを検出した。主柱穴と壁体間の距離などから復原すると、東西は5.7m前後になるものと思われる。検出面から床面までの深さは約0.3mあり、床には入れ土を施した形跡は認められず、地山を平坦に掘込み、そのまま床として利用している。

主柱穴は4箇所を確認し、柱間は東西が3.1m、南北が3.0mの方形となる。柱痕跡から径0.15



1 暗褐色砂泥
2 黒褐色砂泥
3 暗赤褐色砂泥
4 黒褐色砂泥＋褐色粘土ブロック
5 黒褐色砂泥（混小礫）
6 黒褐色砂泥（混礫）
7 黒褐色砂泥＋褐色粘土ブロック
8 黒褐色砂泥（混微砂）
9 黒褐色砂泥（混炭化材） 貯蔵穴
10 赤黒色砂泥
11 極暗赤褐色砂泥
12 黒褐色砂泥（やや粘質）
13 黒褐色砂泥＋褐色粘土ブロック
14 極暗褐色砂泥
15 極暗褐色砂泥（混微砂）
16 黒褐色砂泥＋褐色粘土ブロック
17 黒褐色砂泥（やや粘質）
18 暗赤褐色砂泥＋褐色粘土ブロック
19 暗褐色砂泥 } 炉
20 にぶい黄褐色泥土 } 炉
21 黒褐色砂泥（粘質） } 主柱穴
22 褐色砂泥（粘質） } 主柱穴
23 暗褐色砂泥（混小礫） 貯蔵穴

図34 ＳＢ１ 平面・断面図（１：50）

～0.25mのいずれも円形の柱材が用いられていたものと思われる。

住居のほぼ中央には、炉とみられる土壙がある。東西0.47m、南北0.37mの楕円形を呈し、床面からの深さは0.12mあり、甕一個体が落ち込んだ状態で出土した。土壙底面東寄りから東壁にかけてと隣接する住居床面が火を受け赤変し、また土壙底面西寄りの部分は黄褐色に変色して堅く焼け締まった状態であったことから、地床炉として使用されていたと考えられる。またこの炉の北東に、径約0.3mの範囲で加熱によって床面が赤変している箇所があった。

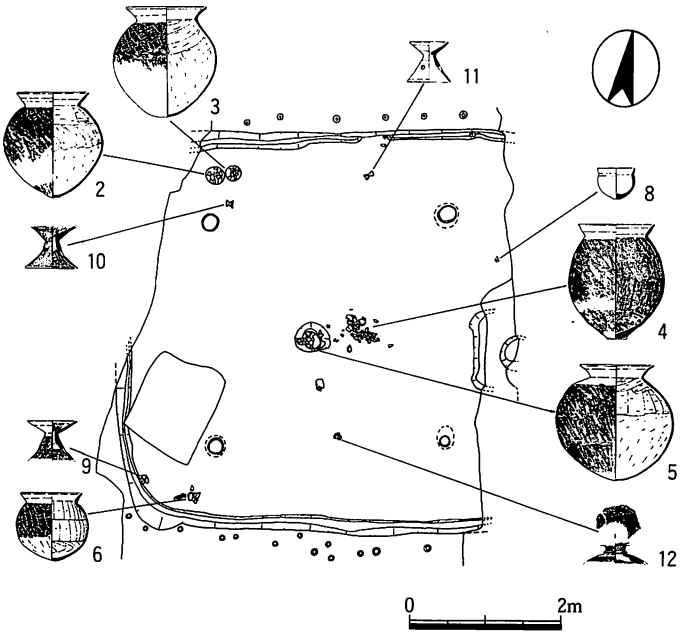


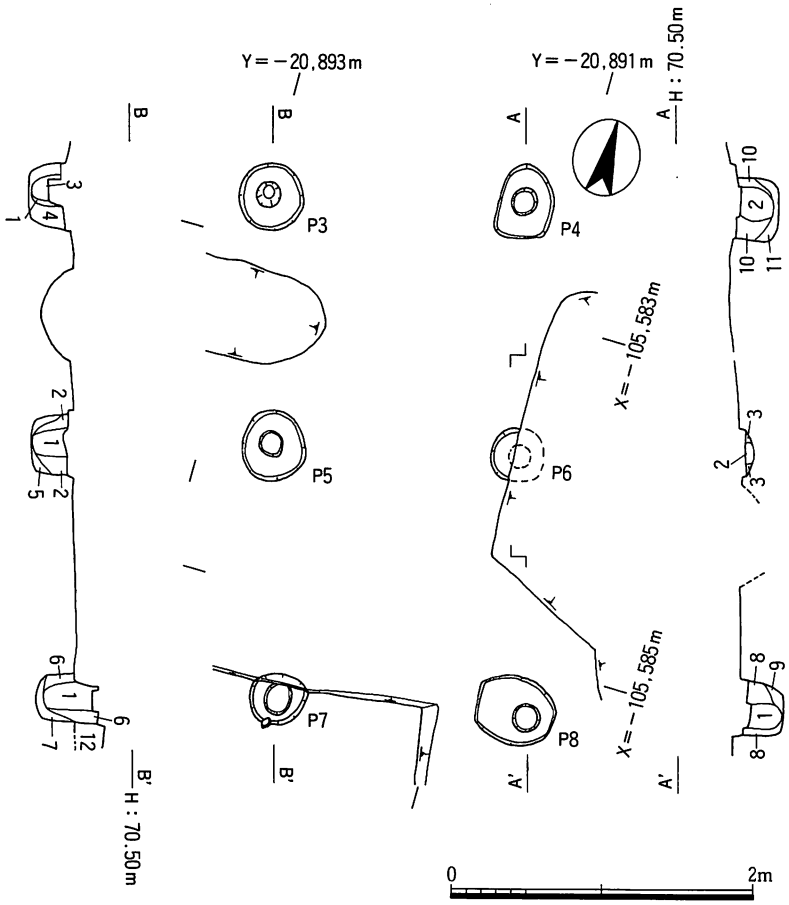
図35　ＳＢ１出土土器分布図（住居 1/100、土器 1/16）

貯蔵穴と考えられる遺構は、住居東辺の中央やや南寄りで検出した。住居東辺はすでに壊されており、部分的な検出であるが、これまでの調査例からすると住居東辺に取り付く方形の浅い土壙の中央部に、円形のピットが掘り込まれる形態であったと考えられる。ピットは床面から0.53mの深さがある。

周壁溝は北で一部途切れるがほぼ全周し、幅0.12～0.2m、深さは床面から0.05m前後である。

住居の壁体が残存していた北辺と南辺では、杭跡と考えられる0.1m未満の円形の小穴を住居壁体の外側に沿って検出した。北辺では壁体から0.15m前後離れた位置に0.5～0.75mの間隔で一列に並ぶ。一方、南辺では不規則な並びで、東半は壁体から0.15m前後、西半では壁体に接するような位置に0.2～0.7mの間隔で検出した。いずれも深さは0.05m程度で、垂直に穿たれている。周堤に関連する杭状のものの痕跡と考えられる。

住居床面では、完形のものを含む10個体の土器が出土した。出土状況は大まかに北西・中央・南西部の３箇所にまとまった状態であった（図35）。北西部では、甕（２・３）と小型器台（10）が出土した。とくに（２・３）は、口縁部を下に逆さまに据えて並べた状態で出土した（図版23-2）。２個体ともに口縁部が土圧によって押し潰されていたが、体部は空洞で遺存していた。これは尖底・丸底の土器の不使用時の扱い方を示す一例として有効であろう。中央部では甕（４・５）とやや南で壷（12）が出土した。（５）は炉のなかに落ち込んだ状態、（４）は炉の東に細かく壊れた状態であった（図版23-3）。南西部では、甕（６）と小型器台（９）が南西角部分の周壁溝に近い部分で出土した。このほか、小型器台（11）が北辺で、また小型鉢（８）が貯蔵穴の北側で出土した。



1　黒褐色砂泥（粘質）
2　にぶい黄褐色砂泥
3　暗褐色砂泥
4　灰黄褐色砂泥
5　明黄褐色砂泥
6　暗褐色砂泥
7　黒褐色砂泥
8　褐色砂泥
9　にぶい黄褐色砂泥
10　暗褐色砂泥
11　黒褐色泥土
12　黒褐色砂泥（粘質）　遺物包含層

図36　掘立柱建物　平面・断面図（1：50）

掘立柱建物（図版24-1、図36）

調査区南端で東西1間、南北2間分（P3～8）を検出した。

柱穴は、いずれも長軸0.5m前後の楕円形を呈する。深さは地山上面から0.25m程度である。P7の検出状況から、上層の遺物包含層上面が成立面と考えられる。柱痕はいずれも径0.15mの円形を呈する。柱間は南北が1.7m、東西が1.65m等間である。

柱穴の配置状態などから2間四方の総柱の建物と考えられ、西側では柱穴が検出できなかったことから、すでに掘削された東側にもう1間分が想定できる。

遺　物

土器が整理箱に2箱分出土した。大半はSB1から出土した庄内式併行期の土器群である。縄文時代中期の土器も少量出土した。

SK9出土土器（図版25-1、図37）

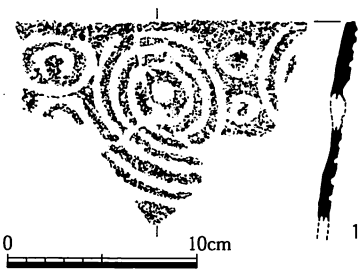


図37　SK9出土土器実測図（1：4）

すべて同一個体と考えられるが、各破片とも磨滅が著しく、口縁部文様帯の一部が接合できたに過ぎない。体部上半の形態からみて、水平口縁でくびれや屈曲のない寸胴の体部をもつ深鉢形土器と考えられ、口縁部径は40cm前後に復原できる。文様は口縁端部直下から施され、径1.2cm程の円形の刺突を中央に配した渦巻文、2条以上の連弧文や円形文などを配した文様構成である。体部下半の外面には縄文が施される。底部は出土しなかった。

SBI出土土器（図版25・26、図38-2～12）

（2）は褐色系の胎土に角閃石を多く含む、いわゆる生駒山西麓産胎土の甕である。鋭く屈曲

する頸部から外上方に外反する口縁部をもち、端部は小さくつまみ上げる。体部は中位が張り球形に近い倒卵形である。体部下端をヘラケズリによって、小さな円形の平坦面をつくって底部としている。体部外面は上半に右上がりの平行条線のタタキメ、下半には縦方向のハケメを施しタタキメを消している。内面はヘラケズリを施す。外面のタタキメには１cmあたり５～６条の細い平行条線の原体を用いている。口径15.2cm、体部最大径21.2cm、器高22.4cm。

（３）も生駒山西麓産胎土の甕で（２）とほぼ同様の器形・調整手法であるが、（２）に比べ胎土に含まれる角閃石の粒子が細かい。形態上では、口縁端部のつまみだしが大きく頸部の屈曲が鈍い、また体部最大径がやや下がり気味でより球形に近く丸底であるなどの点で相違がみられる。口径17.0cm、体部最大径21.9cm、器高23.3cm。

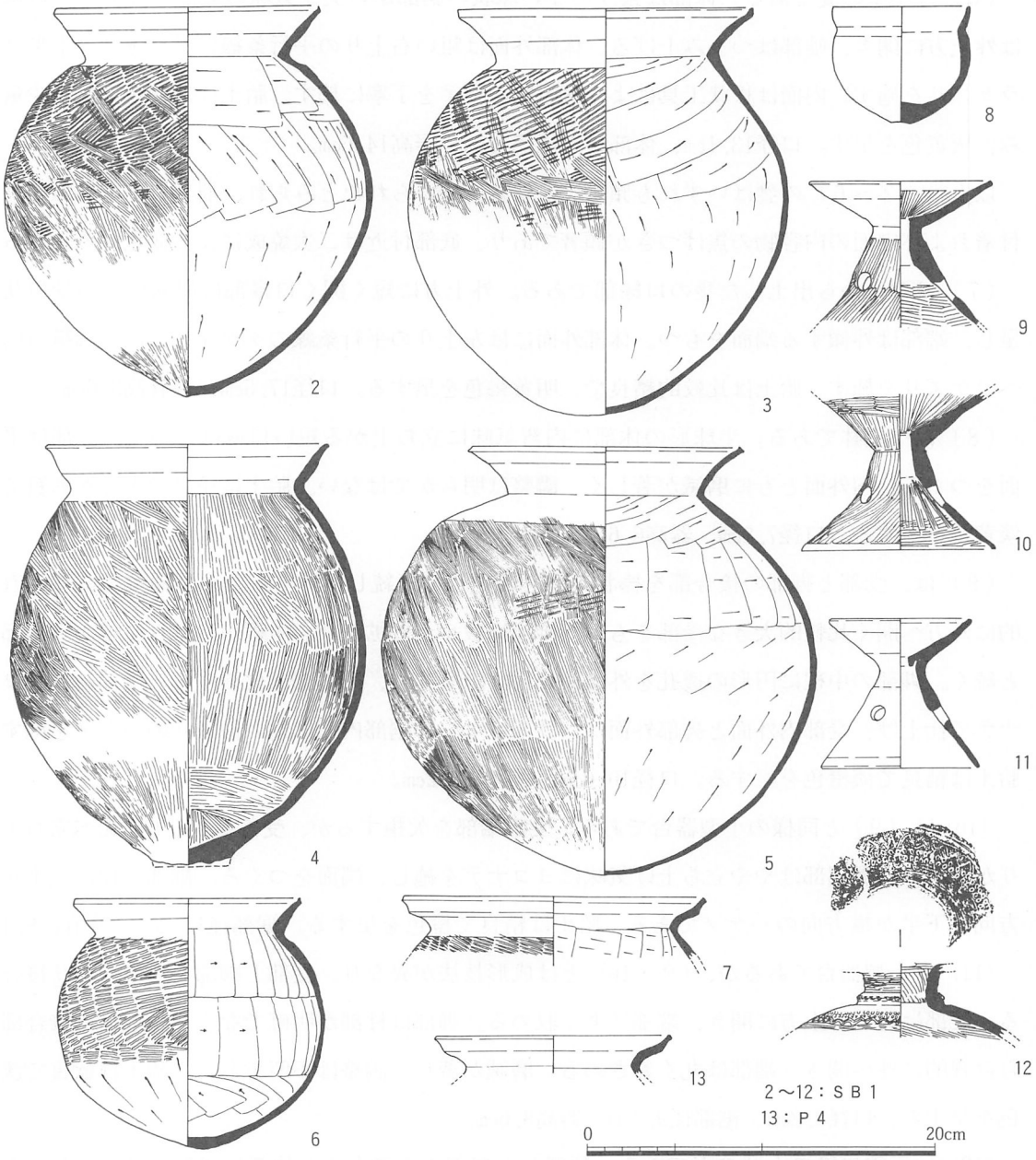


図38　ＳＢ１・Ｐ４出土土器実測図（１：４）

（4）は張りの弱い長胴形の体部に、外上方へ開く口縁部をもつ甕で、口縁端部は丸くおさめる。底部は平底と考えられるが、煮沸時の加熱により外面が剝離している。調整は口縁部にヨコナデ、体部には内外面ともハケメを施す。胎土にはいわゆる赤色斑粒を少量含み、外面は赤橙色、内面は灰白色を呈する。口径16.3cm、体部最大径21.5cm、器高24.2cm。

（5）は扁平な球形の体部から屈曲して外上方へ外反する口縁部の甕である。口縁端部はつまみ上げ気味のヨコナデによって、外傾する端面をもたせる。体部外面は平行条線のタタキメによる成形ののち、条線の細かいハケメで仕上げタタキメを消している。内面はヘラケズリを施す。胎土には比較的多く砂粒を含み、外面は淡褐色、内面は黒灰色を呈する。口径16.0cm、体部最大径25.1cm、器高24.6cm。

（6）は小型の甕である。体部は張りのない球状の胴部から尖り気味の底部へと続く。口縁部は外上方に開き、端部はつまみ上げる。体部外面は粗い右上りの平行条線のタタキメ、下半はヘラケズリを施す。内面は板状工具による横方向のナデを丁寧に施す。胎土には赤色斑粒を少量含み、灰黄色を呈す。口径13.1cm、体部最大径15.4cm、器高14.6cm。

以上の（2～6）の甕はいずれも頻繁に煮炊きに用いられたとみられ、肩部以下の外面の煤の付着および内面の内容物の焦げつきが顕著であり、底部付近は二次焼成による変色がみられる。

（7）は覆土から出土した甕の口縁部である。外上方に短く開く口縁部は屈曲の弱い受口状を呈し、端部は外傾する端面をもつ。体部外面には左上りの平行条線のタタキメ、内面は横方向のヘラケズリを施す。胎土は比較的精良で、明黄褐色を呈する。口径17.5cm、残存高3.6cm。

（8）は小型鉢である。半球形の体部に内弯気味に立ち上がる短い口縁部がつく。底部は平坦面をつくる。内外面ともに磨滅が著しく、調整は明らかではない。胎土は精良であるが軟質で、淡黄色を呈する。口径7.9cm、器高6.6cm。

（9）は、受部と脚部の接合部を棒状工具を芯として連続してつくった小型器台である。直線的に外方へ開く比較的大きな受部をもち、脚部は緩やかに拡がり、中程からさらに拡がる裾部へと続く。脚部の中程に円形の透孔を外面側から3箇所穿つ。裾端部は欠損する。受部端部はヨコナデで仕上げ、受部内外面と脚部外面はヘラミガキ、脚裾部内面は粗い横方向のハケメを施す。胎土は精良で淡橙色を呈する。口径10.6cm、残存高8.2cm。

(10) は（9）と同様の小型器台である。受部端部を欠損するが、受部は（9）に比べ立ち上がりが強い。脚裾端部はやや立ち上げ気味にヨコナデを施し、端面をつくる。裾部内面は上半が縦方向、下半が横方向のハケメである。胎土は精良で橙色を呈する。裾部径11.2cm、残存高9.1cm。

(11) も小型器台であるが、（9・10）とは成形技法が異なり、受部と脚部を別につくり接合する。受部は短く外上方に開き、端部は丸く収める。脚部は柱部が明確でなく、受部との接合部から直線的に外へ開き、端部は丸くおさめる。磨滅が著しく調整は不明である。胎土は軟質で淡褐色を呈する。口径8.2cm、裾部径9.2cm、器高8.6cm。

(12) は二重口縁の小型の壷である。頸部から肩部のみであるが体部は球形と考えられ、直立する頸部から外方へ開く口縁部へとつづく。外面と頸部内面にはヘラミガキを施し、肩部内面は

ハケメののちユビオサエを施す。頸部と体部の境の外面には１条の凸帯をめぐらせ、凸帯の稜にはヘラ状工具による刻目を施す。肩部外面の文様帯は、上方から順に、２列の竹管文、クシ状工具による粗い波状文、これもクシ状工具と考えられるが不整な直線文を施している。胎土は精良で明褐色を呈する。残存高4.2cm。

掘立柱建物出土土器（図38-13）

掘立柱建物を構成する柱穴からはほとんど遺物が出土しなかった。そのなかで、Ｐ４から出土した土器１点のみが図化しえた。(13) は受口状口縁の甕の口縁部である。受口の屈曲は弱く、装飾は施さない。端部は丸く収める。磨滅が著しく明確ではないが、体部の調整は外面が斜め方向のハケメ、内面がヘラケズリと思われる。胎土は赤色斑粒を含み、灰白色を呈する。口径13.6cm、残存高3.6cm。

ま と め

ＳＫ９から出土した土器は文様帯の構成などから、縄文時代中期後半、北白川Ｃ式に属する[註4]と考えられる。土壙は形状からみて、落し穴のような機能をもっていたと推測される。植物園北遺跡では、これまで縄文時代晩期以前の遺構・遺物は確認されておらず、縄文時代中期にさかのぼるＳＫ９の存在は遺跡の上限を引き上げることとなった。

ＳＢ１出土土器群は出土状態からみて、何らかの原因によって使用時のままの状態で廃棄された良好な一括資料と評価できる。生駒山西麓産胎土の甕（２・３）の形態・調整手法上の特徴、小型鉢・小型器台（８～11）の存在と形態的な特徴、また在地系の胎土と思われる甕に庄内式模倣甕（５・６）が含まれていることなどから、庄内期中葉から後葉に位置づけられると考えている。器種構成としては壷や高杯などの器種を欠いているが、山背地方における当該期の土器様相の一端を示す土器群として、重要な位置を占める。

掘立柱建物を構成する柱穴からは、出土遺物が少なく時期が限定しがたい。しかし、Ｐ４出土土器がＳＢ１出土土器群とほぼ同時期に位置付けられることから、掘立柱建物はＳＢ１と同時併存していたと考えておきたい。

実質４日間という短期間の調査であったが、予想以上の成果をあげることができた。植物園北遺跡は市内でも広大な範囲の遺跡のひとつであり、縄文時代から中世にいたる遺構の残存状況も良好である。今後も周辺の開発には充分な注意が必要である。　（高橋　潔）

註１　高橋　潔「植物園北遺跡」『平成２年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1994

註２　久世康博「植物園北遺跡」『平成３年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1995

註３　高橋　潔・高 正 龍「植物園北遺跡」『平成４年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1995

註４　このＳＫ９出土土器の年代観については、立命館大学教授　家根祥多氏にご教示頂いた。

2　京都大学北部構内遺跡（96ＫＳ346）

調査経過（図39）

調査地は、左京区北白川西町地先で吉田神社北参道前の東今出川通の中央部に位置する。

通商産業省工業技術院地質調査所の活断層調査に伴い、1996年11月18・19日に立会調査を実施した。

当地は、縄文時代から近世にかけての複合遺跡である京都大学北部構内遺跡にあたり、調査地北側の京都大学構内では縄文時代の住居・配石墓、弥生時代の溝・方形周溝墓、平安時代の瓦溜、中世から近世の火葬塚・水田・溝などのさまざまな遺構が検出されている。

調査の結果、花折断層の地震に伴う地層のずれ、集石遺構を検出し、縄文時代後期初頭から前半の遺物を採取した。

遺　構（図版27、図40・41）

調査地の基本層序は、地表下0.75～1.4mが近現代に削平・撹乱され、その直下に縄文時代の遺物包含層が厚さ約0.5m堆積する。それ以下は黒褐色砂泥（粘質）が0.1～0.5m、黄褐色系の泥砂が0.2～0.45mの厚さで堆積し、細砂および微砂となる。なお、層序は全体的に東か

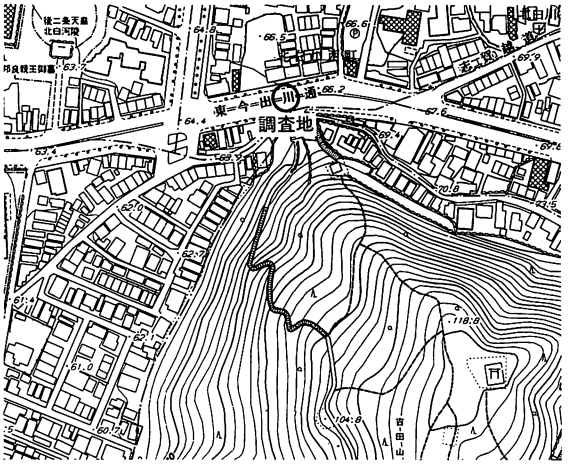


図39　調査位置図（1：5,000）

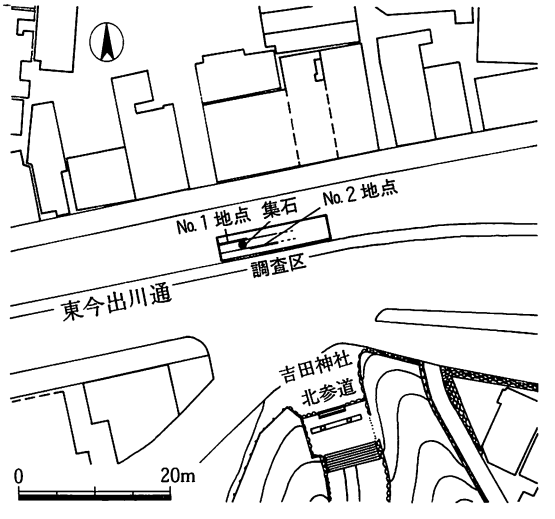
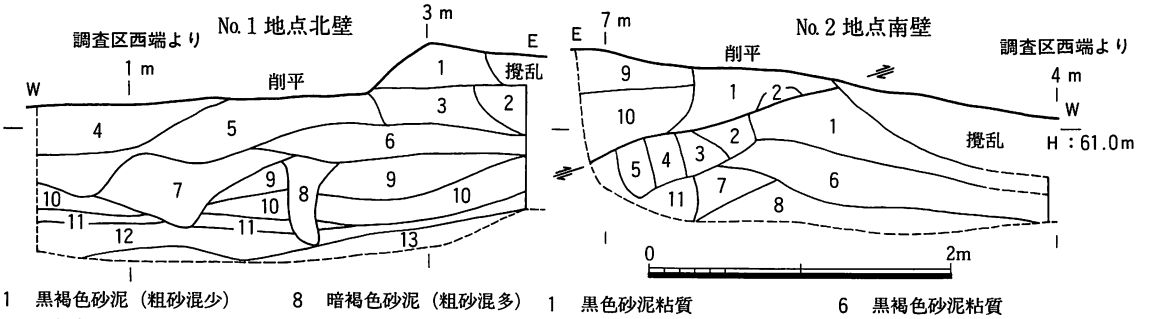


図40　調査区位置図（1：1,000）



1　黒褐色砂泥（粗砂混少）
2　黒褐色砂泥粘質（粗砂混少）
3　黒色砂泥粘質（粗砂混少）
4　極暗褐色砂泥粘質（粗砂混）
5　黒褐色砂泥（粗砂混）
6　黒褐色砂泥粘質（粗砂混多）
7　黒色砂泥（粗砂混多）
8　暗褐色砂泥（粗砂混多）
9　暗褐色砂泥（粗砂混）
10　にぶい黄褐色泥砂（粗砂混）
11　褐色泥砂（粗砂混多）
12　黄褐色泥砂（粗砂混多）
13　明黄褐色細砂（粗砂混）

1　黒色砂泥粘質（粗砂・花崗岩粒混）
2　黒褐色砂泥粘質（粗砂混）
3　黒色砂泥粘質（粗砂礫混）
4　暗灰黄色砂泥粘質（粗砂礫・にぶい黄色微砂混）
5　褐灰色砂泥粘質（粗砂混）
6　黒褐色砂泥粘質（粗砂・花崗岩粒・浅黄色微砂混）
7　黒褐色砂泥粘質（粗砂礫・花崗岩混）
8　灰黄褐色砂泥（粗砂礫）
9　黄褐色粗砂（礫混）
10　灰黄色微砂（粗砂混）
11　灰黄色微砂

図41　No.1・2地点断面図（1：50）

ら西に傾斜している。

No.2地点南壁断面では、A—A′の面で地層のずれがある。東側の地層が西側の地層の上に乗り上げており、地震に伴う断層と思われる。この断層は、縄文時代後期前半代の遺物包含層（No.2－1層）を切っており、地震の発生時期はこれ以降の時代であることがわかる。ただし、下限は地層が包含層上面まで削平されており確定できなかった。

地表下1.4mで検出した集石遺構は、中央部に長さ約0.6m、一辺約0.2mの方形に近い断面形を呈する石を直立させ、その周囲に0.08～0.15m大の石を配している。縄文時代の遺物の多くは、この周辺から出土した。

遺　物（図版27・28、図42～44）

出土遺物には、縄文時代後期前半代の深鉢（1～48）、石錘（49）がある。（1～7・14・20・21・23～35・38・40・41・45～49）はNo.1－1層、（9・11・42）はNo.1－3層、（8・10・12・13・17・18・36）はNo.1－3・5層、（15・16・22・37・39・43・44）はNo.1地点の排土、（19）はNo.2－1層から出土した。

（1～22）は、磨消縄文系（1～17）と、沈線だけを引いた（18～22）土器群で、後期初頭の中津式である。

（23～36）は、3本沈線を特徴とする土器（23～25）を主体とする土器群で、口縁部に幅の広い橋状把手（26）、口唇部に沈線と刻み（27・28）、同じく沈線だけ（29・30）、筒状の突起（36）をもつものなど、中津式につづく福田KII式、四ヶ池・広瀬を主とする。

（37～39・41・42）は、条線文（37～39）、肥厚した口縁部に縄文（41）、矩形の沈線の間に縄文（42）を施文する。北白川上層式に属するものである。

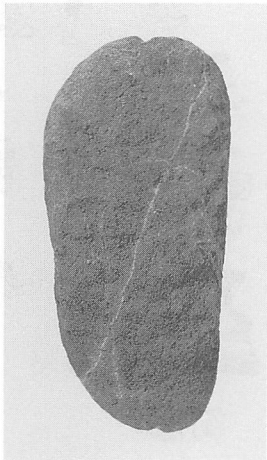


図42　石錘（49）

（40・43～48）は、口縁部内面に太い弧状沈線（43）、肥厚した口縁に横位の沈線と縄文（44）を施文し、（40・45～48）は無文粗製で、後期前半におさまるものである。

（49）は、完形の切目石錘で、長さ5.2cm、幅2.5cm、厚さ0.8cm。材質は丹波帯の泥岩（いわゆる頁岩）で軟らかく、表面が風化している。両端の刻み目は、互いが交差する方向に斜めにつけられている。

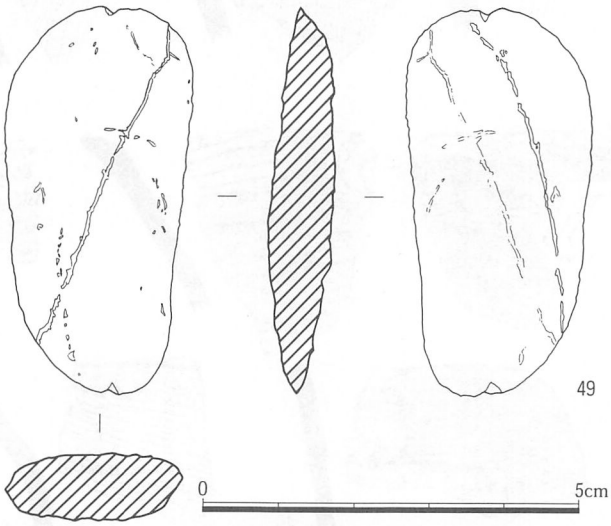


図43　石錘実測図（1：1）

今回出土した道標について[註1]（図45）

道標は調査期間の最終段階で、上部の埋土から出土した。大きさは一辺17cmの

図44　縄文土器拓影・実測図（1：3）

直方形で、残存する長さは56cm。頂部は低い四角錐をなし、下部と四面のうち二面が欠損している。材質は花崗岩である。遺存している二面には、向かって右に「右いまてかわ口みち…」、左に「左くわうじん口道…」と刻まれている。刻字のなかで「わ」は「王」、「み」は「三」、「じ」は「志」とそれぞれ異体字が使用されている。右今出川口道、左荒神口道の意である。

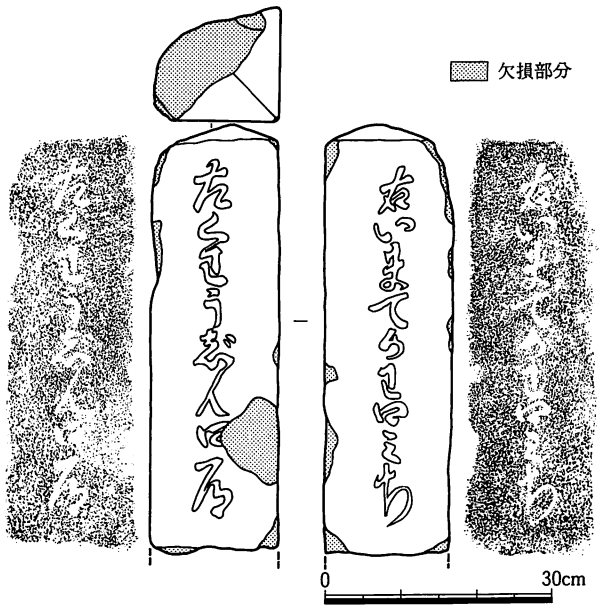


図45　道標拓影・実測図（1：10）

当地点から東今出川通を西へ約80m行った京都大学農学部前あたりが、近江より志賀越道を通り西行して今出川口（大原口）に至る道と、南西行して荒神口に至る道の分かれ道にあたる。江戸時代の絵図『改正　京町絵図細見大成』天保二年（1831）には、この分かれ道あたりに「今出川口へ十八丁、かうじん口へ廿丁」という記載があり、これ以降の絵図にも同様の記載がある。さらに道標の形態からは、明和年間（1764～1772）、江戸時代中期までさかのぼる可能性が指摘されている。

この道標は、おそらく江戸時代中期以降に建てられたもので、東今出川通の拡幅工事の際に撤去し埋められたと思われる。

ま と め

今回の調査地では、配石遺構の可能性もある性格不明の集石があり、その周辺から縄文時代後期前半代の混入のないまとまった土器が出土した。No.1地点では遺物包含層は上層（第1層）、下層（第3・5層）2層あり、上層は福田KII式・広瀬を主体とし、下層は中津式を主体とする。これらとNo.2地点の第1層との関連は明らかにできなかった。

検出した断層は、東側の地層が上にずれる逆断層を呈していた。また地層も断層のあたりを境に、東側では近現代層直下は砂層になり遺物包含層はみられない。現在断層に沿うように遺跡の東限が設定されており、東側では遺構密度も希薄である。これは過去の断層運動の累積によって相対的に東側の地盤が高くなり、地形的には扇状地の谷筋にあたるため砂層より上の層は削平され、西方へ流されたためと思われる。実際に、調査地より西方で行われた東今出川通の河川改修工事に伴う調査[註2]では、縄文時代前期から弥生時代前期までの土器の多くが東からの流れ堆積と考えられる層から混在した状態で出土している。

（竜子正彦）

註1　道標の釈文、時代判定について、下御霊神社宮司の出雲路敬直氏に御教示を頂いた。

註2　長戸満男・竜子正彦・尾藤徳行「京都大学構内遺跡」『平成7年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1997

3　白河街区跡・岡崎遺跡

(1) 最勝寺・法勝寺・成勝寺（95ＫＳ226・229）

調査経過（図46）

左京区岡崎の冷泉通・二条通・岡崎道の道路と歩道上において関西電力とＮＴＴの電気通信管敷設替えに伴い1995年８月30日から1996年３月27日まで調査を実施した。

調査地点は、平安時代後期の最勝寺北限、法勝寺西限、成勝寺北限などが推定される。また、弥生時代から古墳時代の岡崎遺跡の範囲にもあたる。

調査の結果、最勝寺北限と寺域内建物、冷泉小路末の側溝、車道の路面と側溝、法勝寺西限、成勝寺北限などに関わる遺構・遺物を確認した。また平安時代以前と考えられる流路や江戸時代の岡崎村に関わるものも確認した。なお、遺構は工事掘削溝の断面で計測を行った。

遺　構（図版29、図47・48・50）

本調査で確認した遺構は総数30基あり、平安時代以前から江戸時代にわたる。そのうち、半数以上は時期不明のものであるが、平安時代後期から中世にかけてのものも多く、六勝寺の地割に関するものや伽藍の一部などがある。

二条通　主要な遺構は、神宮道交差点西南部と、岡崎道交差点部で検出した。

二条通での層序は、各地区ごとに異なる。神宮道交差点西では、地表下約0.25mまでが道路舗装、次いで黒色泥砂（厚さ0.3m強）、黒褐色砂泥（厚さ0.2m）、黒褐色泥砂（厚さ0.1m強）となり、その下層はオリーブ褐色泥土の平安時代以前の堆積層となる。神宮道以東では、地表下約0.25mまでが道路舗装、以下黒色泥砂（厚さ0.2m）、黄褐色泥砂（厚さ0.05m）、黒色泥砂（厚さ約0.45m、19世紀代の遺物を多量に含む）となり、その下層はオリーブ褐色砂泥の遺物包含層で、地山は確認できなかった。また、岡崎道交差点部では、地表下0.25mまでが道路舗装、次いで黄褐色砂（厚さ0.25m）、にぶい黄褐色砂（厚さ約0.4m）、黄灰色砂泥（厚さ約0.4m）となり、その下層は灰黄色砂の平安時代以前の堆積層となる。

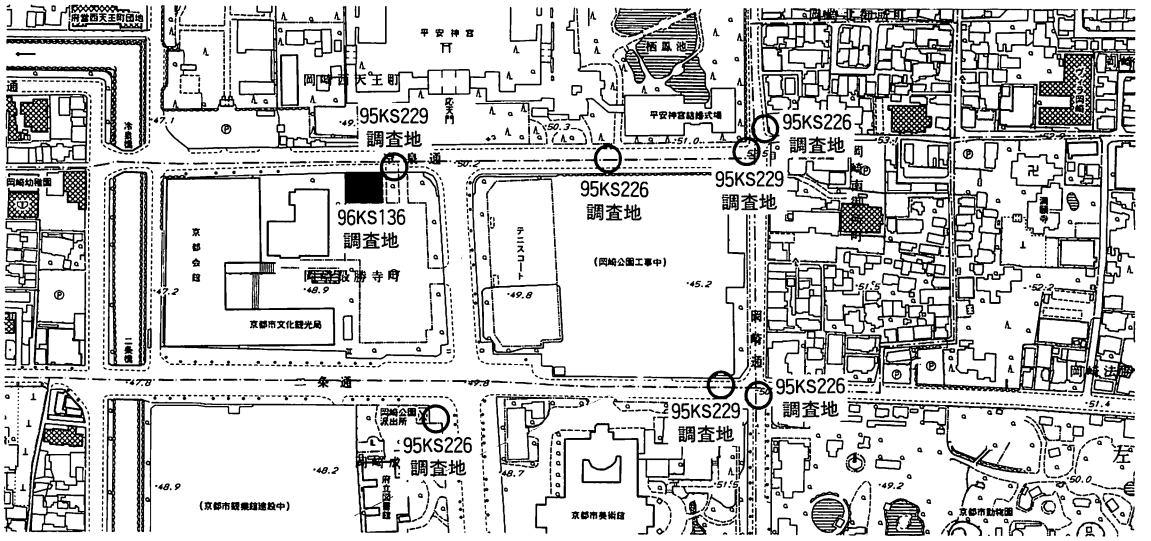


図46　調査位置図（１：5,000）

No.1地点では、地表下0.72mで径0.35m、深さ0.58mの柱穴1基と、東西幅1.1m、深さ0.42mと東西幅0.56m、深さ0.38mの土壙を2基確認した。遺物が出土せず時期を決定することができなかったが、検出地点が成勝寺北限に相当することから、これに関連する可能性がある。

No.2地点では、二条通南歩道北端から10.5mで地山の北への下がりを確認した。従前の調査によりこの付近に二条大路末の南側溝が認められており、その南肩部と考えられる。肩部付近から平安時代後期の瓦が出土した。

No.3地点では、地表下1.08mで、幅0.9m以上、深さ0.22m以上の東西方向の溝状遺構を2条確認した。時期の特定はできないが、確認地点が二条大路末の路面に想定されるため、1991年の調査[註1]で確認した築地状の施設に伴う可能性もある。

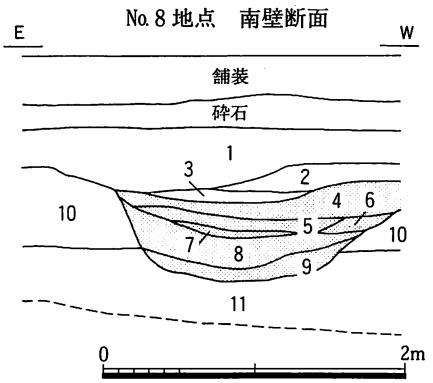
No.4地点では、No.3地点の遺構のつづきを部分的に確認した。またその上層において19世紀代の伊万里や京焼系陶器を多量に含む遺物包含層を確認した。

No.5地点では、地表下1.14mで幅1.0m前後、深さ0.22m以上の南北溝を1条確認した。遺物の出土はほとんどなかったが、法勝寺西限を画する車道の西側溝に関わるものと考えられる。

No.6地点では、地表下1.26mで幅0.95m以上、深さ0.15mの南北溝を1条確認した。位置的な関係や形状からNo.5と同一の溝と考えられる。

No.7地点では、地表下1.33mで東西幅0.26m、深さ0.1mの小規模な南北溝を1条確認した。遺物の出土はなかったが、西側溝を踏襲したものと考えられる。

No.8地点では、地表下0.75～1.0mで幅1.9m、深さ0.55mの南北溝を1条確認した（図版29-1、図47）。溝の東西両肩の地表からの深さが異なり、法勝寺寺域内に想定される東方が0.25m高い。溝内の堆積は底から粗砂、砂泥、泥土、粗砂となっており、少なくとも2度の顕著な水の流れがあったことがうかがえる。各層からの遺物の出土が少なく時期を限定できないが、1981年の調査[註2]事例から、中世まで存続していたと考えられる。位置関係から、この溝は法勝寺西限を画する車道の東側溝に想定できる。



1　灰褐色砂泥（10YR 4/1）
2　暗灰黄色砂泥　粗砂混（2.5Y 4/2）
3　暗オリーブ褐色砂泥　粗砂やや多い（2.5Y 3/3）
4　黒褐色砂泥　粗砂・礫多い（10YR 3/2）
5　黒褐色砂泥　泥土・粗砂混（10YR 3/1）
6　褐灰色粗砂　泥土混（10YR 4/1）
7　黄灰色泥土（2.5Y 4/1）
8　黒褐色砂泥　泥土・粗砂ブロック混（10YR 3/1）
9　褐灰色粗砂　泥土混（10YR 5/1）
10　黄灰色粗砂（2.5Y 6/1）
11　にぶい黄色粗砂　礫1cm（2.5Y 6/3）

図47　No.8地点断面図（1：50）

No.9地点では、No.8地点の南北溝東肩部と同様に、地表下0.75m前後で遺構面を確認した。岡崎動物園の北西角から東へ3.8m地点より、東西幅2.7m（九尺）の地山に近い黄褐色粗砂層の高まりを確認した。高まりは約0.1mの高さがあり、位置的な関係から法勝寺西限築地の痕跡と考えられる。高まりの東では東西幅1.2m、深さ0.18mと東西幅0.7m、深さ0.55mの土壙を2基確認した。西側の浅い土壙から炭化物が出土した以外、両者とも顕著な遺物は認められなかった。

冷泉通　主要な遺構は、神宮道交差点西側、平安神宮社務所前、岡崎道交差点で検出した。

冷泉通での層序は、岡崎道寄りで地山までの土層が徐々に岡崎道に向かって厚くなる傾向にあるが、地表下約0.25mまでが道路舗装、次いで近代整地土（厚さ0.2m）、時期不明の褐色泥砂（厚さ0.5m）があり、その下面が平安時代の遺構面である。さらに下層は古墳時代の流路ないしは遺物包含層である。岡崎道交差点部では、地表下0.25mまでが道路舗装、次いで道路建設時の盛土（厚さ約0.5m）、それ以下は厚さ0.1m程の薄い整地土が5層認められ、いずれの上面も非常に堅く締まっていることから路面整地土と考えられる。その下層はにぶい黄褐色泥砂あるいは砂であり、平安時代以前の堆積層と考えられる。

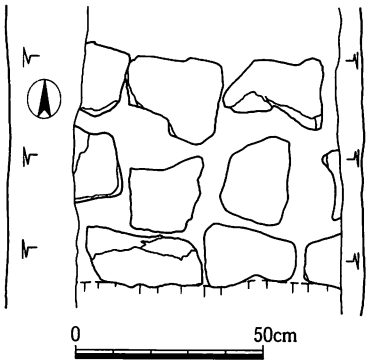


図48　No.10地点　雨落溝（1：20）

No.10地点では、地表下0.45mで建物基壇に伴う東西方向の雨落溝を1条確認した（図版29-2、図48）。調査区内では溝の北側の石列を検出した。比較的偏平な河原石を3列に敷き並べている。

No.11地点では、地表下0.65mで幅1.0m以上、深さ0.1m以上の南北方向の溝を1条確認した。1991年の調査[註3]でもこの南延長で同規模の溝を確認していることから、最勝寺の東限を画する溝と考えられる。

No.12地点では、地表下0.7mで東西幅0.26m、深さ0.1mの柱穴を1基検出した。また、地表下0.4mで東西幅0.5m、深さ0.5mのものと、東西幅0.85m以上、深さ0.6mの土壙2基を重複して確認した。下層では平安時代以前の腐植土層を確認した。

No.13地点では、地表下0.65mで、幅1.2m以上、深さ0.55m前後の東西溝を1条確認した。溝の堆積は3層あり、第2層から平安時代後期の瓦とともに14世紀末から15世紀前半の土師器皿が出土した。溝の開削された時期は、少なくともそれよりさかのぼると考えられ、1994年の調査[註4]で確認した東西溝の東延長にあたることから、最勝寺の北限に関連したものと考えられる。

No.14地点では、地表下0.6mで流路の堆積と考えられる層を数層確認したが、遺物の出土は認められなかった。

No.15地点では、地表下0.42mで幅1.17m以上、深さ0.36mの南北溝が1条あり、それに切られて東側に幅0.53m以上、深さ0.2m以上の南北方向の溝状遺構がある。前者から平安時代後期の瓦片と時期不明の土師器片が出土した。検出位置から車道の西側溝に関連するものと考えられる。

No.16地点では、地表下0.55mで幅0.3m以上、深さ0.25mの南北溝を1条確認した。これはNo.15地点の溝より少し東に位置することから同じ溝ではないが、これも車道西側溝に関連するものと考えられる。

No.17地点では、地表下0.53mで幅0.64m、深さ0.4mの南北溝を1条確認した。No.16地点の溝の南延長にあたり同一のものと考えられる。

No.18地点では、地表下1.24mで掘形内に偏平な花崗岩が据えられた遺構を確認した。南北幅0.4m、深さ0.11mの底部が平坦な掘形で、花崗岩はそれとほぼ同じ大きさであった。花崗岩の上面は平坦で、確認面より上には突出していなかった。時期は不明である。

No.19地点では、地表下0.8mで南北幅2.2m、深さ0.4mの土壙を1基検出した。中には径0.3～0.5mの河原石がぎっしり詰まった状態であった。江戸時代後半の伊万里染付が出土した。その北では地表下1.0mで、南北幅2.3m以上、深さ0.37mの落込みを1基確認したが、遺物の出土は認められなかった。

遺　物（図版30、図49）

出土した遺物は、弥生時代から江戸時代にわたるが、平安時代と江戸時代のものが全体の圧倒的多数を占める。全体量が少なく、いずれの時期の資料も良好なものは少ない。

（1）は複弁八葉蓮華文軒丸瓦。二重の圏線の間に大きい珠文を密に配する。瓦当部裏面上部に溝をつけ丸瓦を差し込み、上下に粘土を付加して接合している。瓦当面に糸切り痕が残る。焼成は軟質。No.20地点出土。（2）は均整唐草文軒平瓦。瓦当面中央部に外縁から上向きに花文を配し、花文から左右に唐草を三反転させる。瓦当部は折曲げ式で瓦当面に布目痕が残り、顎部の折曲げ部を強くヨコナデしている。京都近郊の産。No.9地点出土。法勝寺跡出土瓦[註5]に類例がある。（3）は連巴文軒平瓦の左半分の破片。中央寄りに巴文、端に「X」字状文を配し、それらの文様の間の上縁に「V」字状文、下縁近くに珠文がある。瓦当部は折曲げ式で瓦当面に布目が残る。山城産。No.21地点出土。類例は広隆寺旧境内出土瓦[註6]に求められる。

ま と め

本調査では、平安時代以前から江戸時代にかけての遺構を検出した。とりわけ、六勝寺の地割に関連する遺構群が目立つ。また、最勝寺の寺域内No.10地点で、建物基壇に付属する石組雨落溝を確認できたことは、これまで少なかった最勝寺の伽藍配置に関する手がかりとして極めて重要な発見といえる。ここでは、六勝寺の地割について少しふれる（図50）。

まず、二条大路末に関しては、今回の調査でNo.1地点の柱穴・土壙やNo.2地点の二条大路末南側溝と考えられる東西溝の南肩を検出した。これらの成果は二条大路末の幅が約51m（十七丈）で平安京の二条大路とほぼ同規模であり、位置もその東延長にあたるとした前年の成果[註7]を裏付けるものとなった。ただし、この東の1991年の調査[註8]では、作り替えと考えられる築地痕跡や古墳の墳丘、大規模な湿地の存在することが明かとなっており、同じ幅に造られていたとは考え難く、場所によって一定でなかった可能性があることを指摘しておく。

また最勝寺の北限については、No.13地点検出の東西溝と1994年の調査[註9]の東西方向の溝と考えら

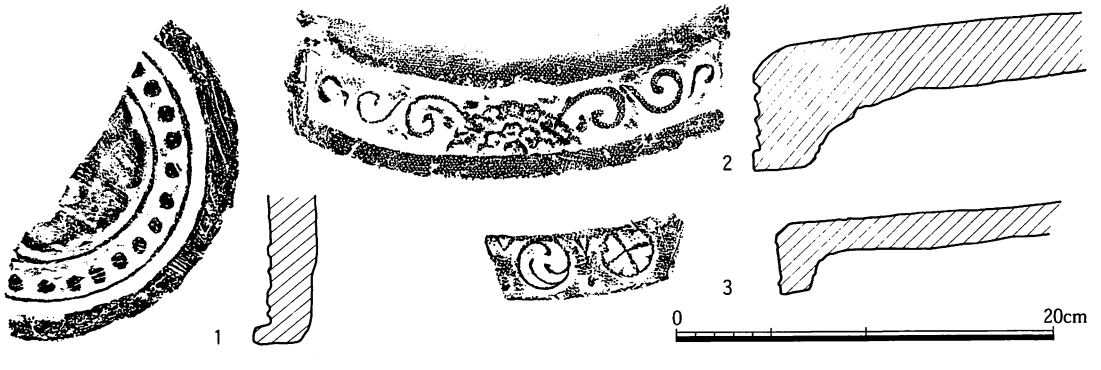


図49　瓦拓影・実測図（1：4）

れる遺構とがほぼ一直線となり、一連の溝であると考えられる。この溝は1976年の調査[註10]で検出された築地と側溝の南約12mに位置する。1976年のものを最勝寺北限を画する東西道路の北側溝とその築地・内溝であると考えれば、№13地点の東西溝を最勝寺の北限に想定できる。この溝は現段階では平安時代後期までさかのぼるかどうか検討が必要であるが、最勝寺の北限を画する東西道路は、幅四丈（約12m）となる。このことから、最勝寺の寺域の南北幅は四十二丈（約126m）となり、やや南北に長い長方形であったと考えられる。

岡崎道では、車道の両側溝と考えられる南北溝を確認した。東側溝に想定されるものは、幅1.9m、深さ0.55mと大きく、最勝寺西限を画する築地の内溝とほぼ同規模である。一方、西側溝に想定されるものは、近接ないしは重複して少なくとも4条の溝を確認した。いずれも遺物の出土がなく、どの溝が平安時代後期までさかのぼるか断じ難いが、南北築地に伴う2条ずつの時期の異なる溝と考えれば、車道の幅は八丈（約24m）となり、平安京の大路並みの幅であったことがうかがえる。

二条通と岡崎道の交差点東には、法勝寺西大門が想定されるが本調査ではそれを裏付ける痕跡は発見されなかった。

本調査では、法勝寺と尊勝寺間の街区の規模・範囲また道路規模に関して重要な成果を得ることができ、六勝寺に関する貴重な手がかりとなった。今回のような調査は、伽藍配置や街区範囲、道路規模を解明するのに有効な調査方法の一つであり、各種の遺跡に関して新たな知見と成果が極めて濃密に得られるものと考えられる。今後もこのような調査の徹底と充実が図られることがのぞまれる。

（堀内明博・竜子）

註1　内田好昭・丸川義広・平方幸雄「最勝寺跡・岡崎遺跡」『平成3年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1995

註2　1981年京都市立岡崎動物園における発掘調査。未報告。

註3　註1と同じ。

註4　尾藤徳行・吉村正親「最勝寺跡・岡崎遺跡（94ＫＳ257）」『京都市内遺跡立会調査概報　平成6年度』京都市文化観光局　1995

註5　上村和直・辻　裕司『法勝寺発掘調査概報　昭和61年度』京都市文化観光局　1987

註6　平田　泰・小檜山一良「広隆寺旧境内1」『平成3年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1995

註7　堀内明博・上村和直・吉村正親「尊勝寺跡・最勝寺跡・岡崎遺跡（95ＫＳ62）」『京都市内遺跡立会調査概報　平成7年度』京都市文化市民局　1996

註8　註1と同じ。

註9　註7と同じ。

註10　梶川敏夫・渡辺和子「尊勝寺跡推定地第Ⅲ次発掘調査概要」『六勝寺跡』京都市埋蔵文化財年次報告1976－Ⅱ　京都市文化観光局文化財保護課　1977

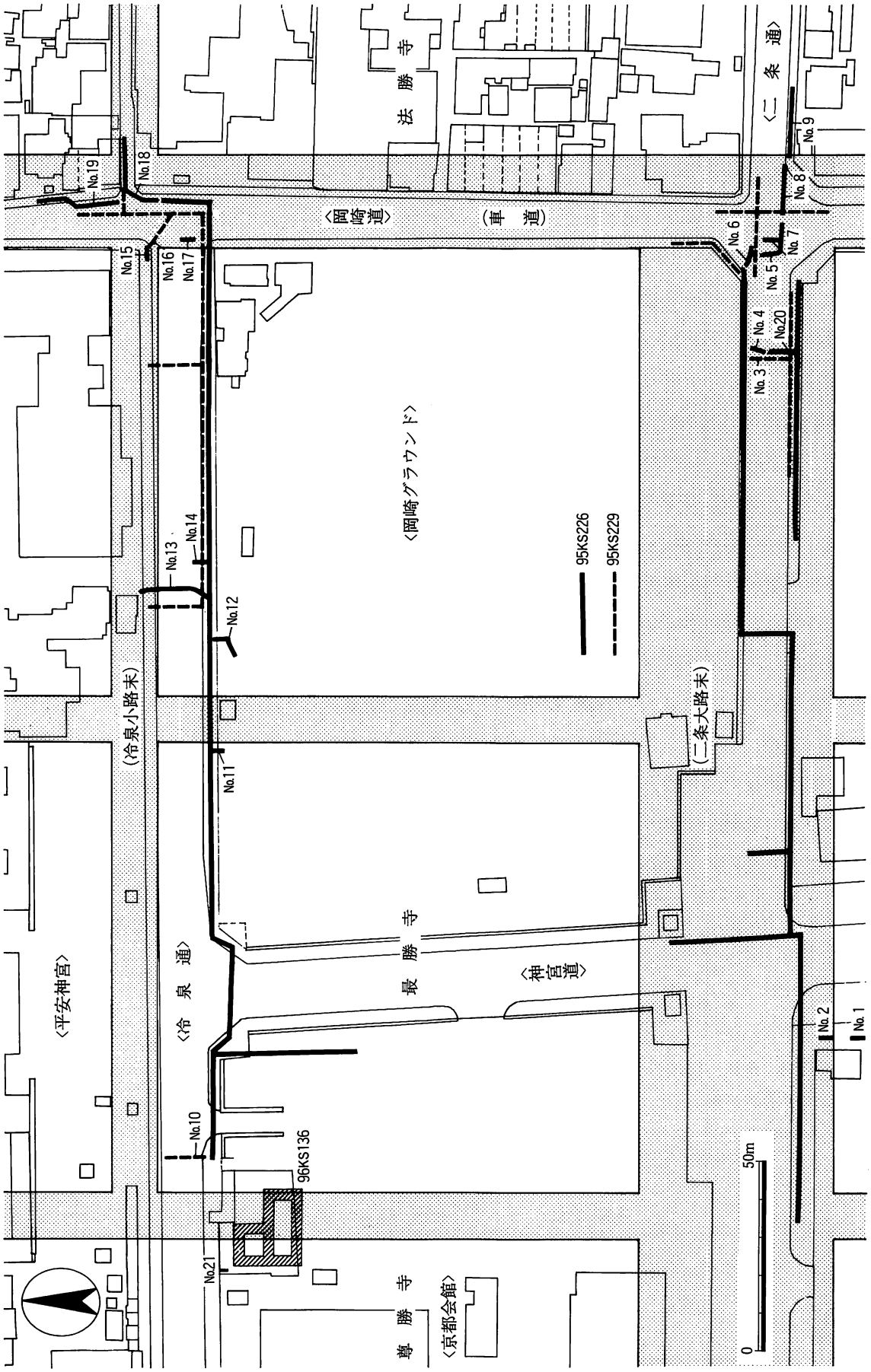


図50　調査区位置図（1：1,500）

(2) 尊勝寺・最勝寺（96ＫＳ136）

調査経過（図46・50）

調査地は左京区岡崎最勝寺町13番地であり、今回店舗の建替え工事が計画されたため、調査を実施した。当地は尊勝寺と最勝寺の間の南北道路にあたり、前面歩道の共同溝布設工事に伴う調査[註1]でも、路面状の遺構を検出している。1993年の試掘調査[註2]では、工事掘削深度を地表下1.0mまでとすることで工事が許可された。しかし、その後の埋設管引込み工事の際、掘削深より浅い箇所で瓦溜が検出された。このため、基礎掘削工事に際して1996年７月３・４日に調査を実施し、南北方向の溝と路面状遺構を検出した。

遺構・遺物（図版30-１、図51）

層序は、地表下0.9～1.0mまで近現代層、次に厚さ約0.2mの耕作土層、以下が遺構面となる。

路面状遺構は幅約12mで、南北約９m分を検出した。No.１地点では厚さ0.05～0.1mの路面を３面、No.２地点では0.05～0.06mの路面を少なくとも２面確認した。路面には多量の瓦片が混入していた。また、路面の西側には室町時代の土師器を含む幅0.5mの南北溝を検出した。その西では、路面は認められず、溝の東肩を路面の西端と考える。なお、この溝より西側の耕作土層以下は暗褐色泥砂の整地層（第13層）であり、南壁断面ではこれを切り込んで３基の土壙を検出した。これら土壙は溝になる可能性がある。一方、路面東端は時期不明の大きな落込みによって切られており、掘削範囲内では確認できなかった。

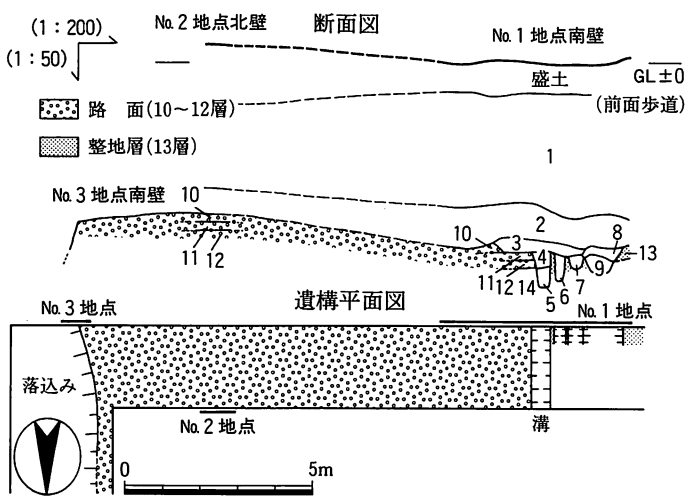
出土遺物は大部分が瓦で、他には小片の土師器皿が少量ある。

ま と め

今回の調査で、尊勝寺と最勝寺の間の路面状遺構が確認できたことは、今後両寺の寺域を含めた六勝寺の地割を決定する定点の一つとなると考える。（竜子）

註１　堀内明博「六勝寺・岡崎遺跡」『平成７年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1997

註２　「試掘調査一覧表」『京都市内遺跡試掘調査概報　平成５年度』京都市文化観光局　1994



1　黒褐色泥砂（粗砂混）
2　黒褐色砂泥（耕土）
3　黒褐色泥砂（砂混）
4　暗オリーブ褐色砂泥（粗砂混）
5　黄褐色泥土（黒褐色泥土ブロック混）
6　暗褐色砂泥
7　暗褐色砂泥
8　にぶい黄褐色砂泥（オリーブ褐色泥砂混）
9　にぶい黄褐色泥砂（マンガン粒含）
10　にぶい黄褐色粗砂（泥砂混）
11　灰黄褐色粗砂（泥砂・礫混）
12　黒褐色砂泥（粗砂混）
13　黒褐色砂泥（粗砂・マンガン粒含）
14　褐灰色泥土

図51　遺構平面・断面図（１：200）

(3) 歓喜光院（96ＫＳ111・130）

調査経過（図52）

左京区岡崎西天王町74番地（96ＫＳ111）と、聖護院円頓美町25-１・５・６番地（96ＫＳ130）でマンション建設が計画された。当地は岡崎遺跡と白河街区跡にあたる。ＫＳ111は1996年６月12日から20日に、ＫＳ130は1996年６月27日から７月１日に調査を実施した。

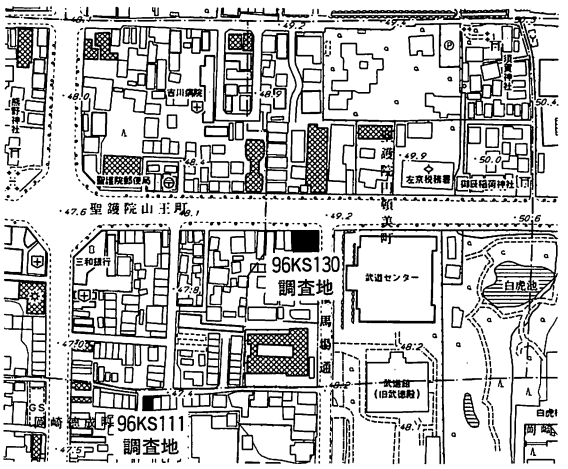


図52　調査位置図（１：5,000）

遺　構（図版31・32-１、図53・54）

ＫＳ111（図53）　No.１地点の地表下0.9mで、厚さ0.05～0.1mの路面を南北2.7mにわたって検出した。また、No.３・４地点においても地表下0.8～1.0mで、厚さ0.05mの路面を東西0.4mにわたって検出し、その南側でこれに伴う南側溝と考えられる東西溝を検出した。溝の幅は0.9m以上、深さ0.6mである。地表下1.1m以下は砂泥・粘土の無遺物層となる。

ＫＳ130（図54）　No.５地点の地表下0.8mで厚さ0.5mの鎌倉時代から室町時代、No.６地点の地表下1.0mで厚さ0.4mの鎌倉時代の遺物包含層を検出した。地表下1.3m以下は、暗褐色粗砂の無遺物層となる。No.７・10地点では、地表下1.0m以下が黒色砂泥となるが、遺物は検出していない。No.７・８・11地点では、地表下1.0mで幅2.7～2.8m、深さ1.0mの東西溝を約10mにわたって検出した。平安時代後期から鎌倉時代の遺物が出土した。地表下1.1m以下は褐色細砂の無遺物層となる。No.９地点では、地表下0.5mで幅3.0m以上、深さ0.8m以上の土壙を検出した。埋土からは土師器が出土した。地表下1.1m以下は黄褐色細砂の無遺物層となる。

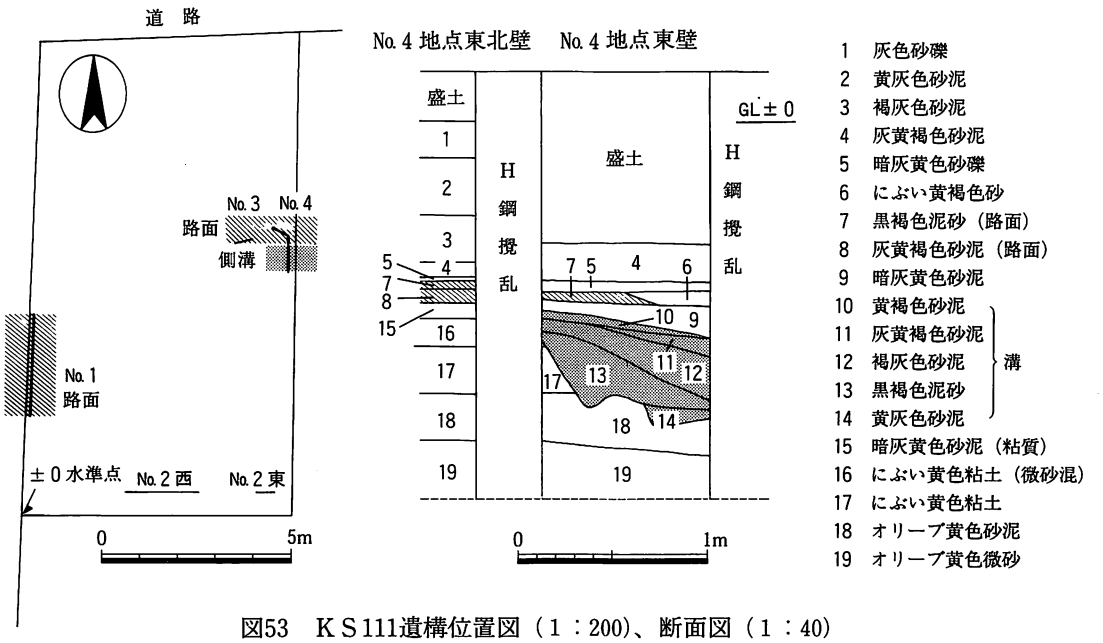
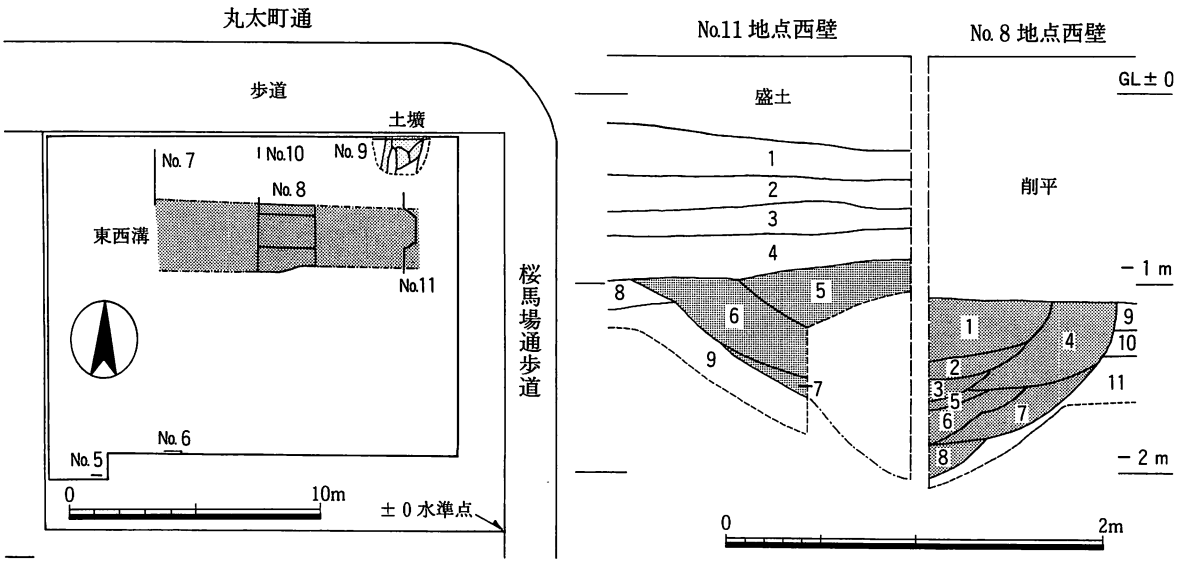


図53　ＫＳ111遺構位置図（１：200）、断面図（１：40）



No.11地点西壁

1 黒褐色砂泥（粗砂混）
2 黒褐色砂泥（粗砂多い）
3 黒褐色砂泥
4 黒褐色砂泥（粗砂多い）
5 黒褐色砂泥（粗砂混）
6 黒色砂泥（粗砂混）
7 黒褐色砂泥粘質（粗砂多い）
8 黒褐色砂泥粘質
9 黄褐色粗砂（砂泥混）

No.8地点西壁

1 にぶい黄褐色粗砂
2 黒褐色砂泥（粘質）
3 黒褐色砂泥（粗砂混）
4 黒褐色砂泥
5 灰黄褐色粘土
6 灰黄褐色砂泥（粘質）
7 黒褐色砂泥（粗砂混）
8 黒褐色砂泥（粗砂多い）
9 褐色細砂
10 明黄褐色細砂
11 にぶい黄色細砂

図54　ＫＳ130遺構位置図（１：300）、断面図（１：40）

遺　物（図版32-２、図55）

ＫＳ111では、路面から布目瓦が出土したが、時期は特定できなかった。

ＫＳ130では、No.９地点の土壙からは、平安時代前期の土師器皿（１）・杯（２～５）が出土した。また、No.７・８・11地点の東西溝より平安時代後期から鎌倉時代の土師器皿、須恵器擂鉢（６）、瓦器椀、軒丸・軒平瓦（７・８）などが出土した。

（４・５）は低い高台がつく。（７）は三巴文軒丸瓦である。巴文は右巻きで圏線が太く、外区の珠文は小さくて密である。瓦当部裏面上部に丸瓦を当て、上下に粘土を付加して接合している。播磨産である。（８）は半截華文軒平瓦の瓦当部右端の破片で、花文を外縁から下向きに配し、瓦当部成形は半折曲げ式である。平瓦部凹面にヘラ記号がみられる。山城産である。

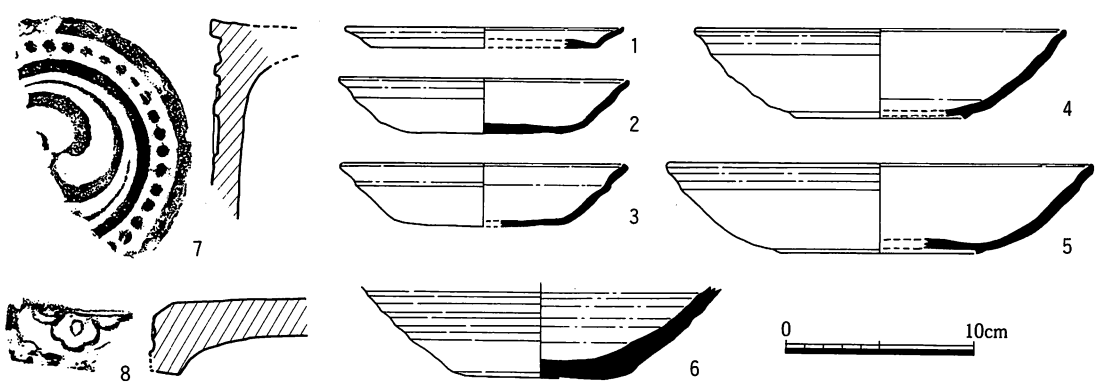


図55　遺物実測図（１：４）

まとめ（図56）

ＫＳ111で検出した路面と南側溝は、平安京の条坊を東に延長した白河街区復原図上の大炊御門大路末に位置し、尊勝寺北側の東西道路部分にあたる。また、当地の約120m東方、1976年の調査[註1]では平安時代後期の東西溝を２条検出している。北側の溝は幅3.5m、深さ0.5mで、南側の溝は幅2.8m、深さ0.6mである。さらに、南東約30mの1987年の発掘調査[註2]では、幅約3.5m、深さ約1.4mの平安時代から鎌倉時代の東西溝を16mにわたって検出している。これらの溝は、これまでの白河街区復原図とは必ずしも一致しておらず、今後の検討資料としたい。

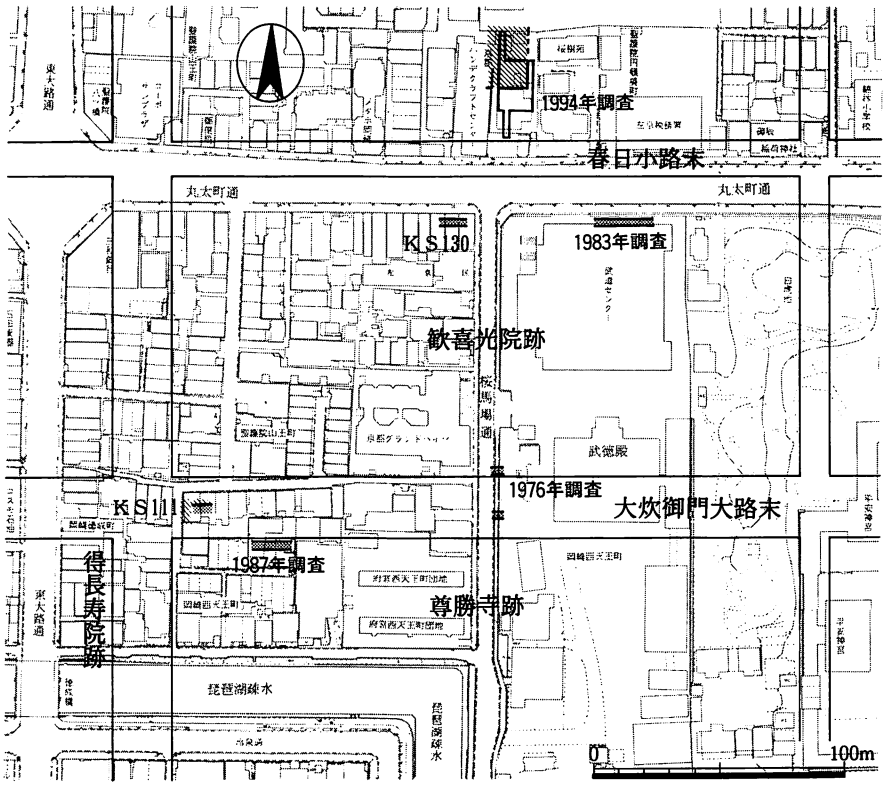


図56　関連調査地点図（１：3,000）

また、ＫＳ130で検出された東西溝は復原図上では歓喜光院跡の北半中央に位置している。この東方約50m地点における1983年の発掘調査[註3]では、同時期の幅3.0m、深さ1.5mの東西溝を24mにわたって検出している。これらの溝は一連のものであり、何らかの区画を示すものと考えられるが、その性格や位置付けについては今後に委ねたい。

No.９地点では平安時代前期の土壙を検出した。1994年の発掘調査[註4]においても同時期の土壙が検出されている。この周辺は平安時代後期に白河街区として開発されたことを考えると、それ以前の遺構として貴重な資料である。

（尾藤・竜子）

註１　平田　泰「六勝寺跡」『第３期配水管整備事業二条幹線工事に伴う立会調査概報』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1977

註２　上村和直「尊勝寺跡」『昭和62年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1991

註３　辻　裕司・鈴木廣司「尊勝寺跡」『昭和58年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1985

註４　吉村正親「白河街区跡」『平成６年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1996

4　下三栖遺跡（96ＴＢ183）

調査経過（図57）

伏見区横大路下三栖城ノ前町において油小路通共同溝が計画された。当地は、室町時代の下三栖城跡にあたるため、今までに数回の調査を実施した。外環状線より南側部分における、1993年度立会調査（93ＴＢ456）では、下三栖城跡に関係するものは確認できなかった。しかし、地表下４～６ｍの流れ堆積の砂泥・粗砂・砂礫層より弥生土器、古墳時代の土師器・須恵器などを採取している。

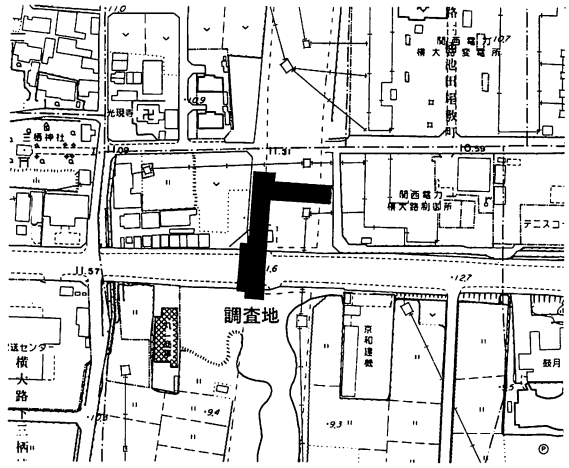


図57　調査位置図（１：5,000）

今回は、外環状線の北側への延長工事で、油小路通の西共同溝と、同工区から分岐して関西電力横大路変電所に至る東共同溝が計画された。掘削工事に伴い、1996年７月30日から９月20日まで立会調査を実施した。地表下約3.5mから、古墳時代の土師器、須恵器甕などが多量に出土した。

遺　構（図版33、図58・59）

No.１地点では、地表下2.2～4.8mで南北方向の大規模な流路を検出した。流路の埋土は15層に分層でき、微砂や粘土の水平堆積である。地表下2.6m以下の第４層からは瓦器椀が出土した。また、同地点西端では、地表下3.3m以下の流路肩部の砂礫層から、弥生土器あるいは土師器と考えられる土器小片が出土した。

No.２地点では、調査時には、地表下3.5mまで掘削されており、わずかに残った厚さ0.1mの第１層とその排土から、多量の土器類を採取した。第１層は大きな落込みの一部で、その南東部分を確認した。しかし、削平されていたこともあり、遺構の性格は不明である。

No.３地点では、地表下3.9mで土師器甕がほぼ完形で１個体出土した。

No.４・５地点では、地表下約３ｍの粘土層から古墳時代の土師器片、地表下5.8mの砂礫層より弥生土器片、古墳時代の土師器片が出土した。

以上のことから、調査地の旧地形はNo.２・３地点から南東方向に低くなっており、No.４・５地点やNo.１地点は流路の中であることが判明した。

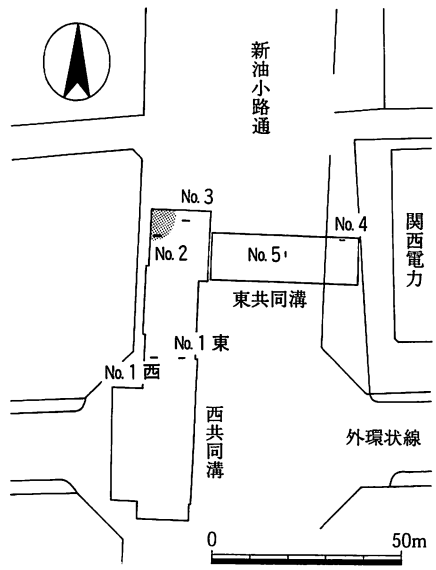


図58　遺構位置図（１：2,000）

遺　物（図版34・35、図60～62）

遺物は、弥生土器、古墳時代の土師器壷・甕・高杯、須

恵器壷・甕・杯、石製品臼玉などが出土している。遺物は整理箱で8箱出土している。

No.2地点出土土器（図60・61）

第1層から出土したものは（1・3・4・7・10・15・19・21・22・24～27・31・35・37・39）、他は排土から採取した。

古墳時代前期（庄内式併行期）の土器には、甕（1・2）・高杯（14・22）がある。（1）は、口縁部が強く外反し、端部は下方にわずかに拡張させ角張る。（2）の口縁部は類似する。調整は体部外面に縦方向のハケメを施すが、口縁外面にも一部ハケメが残る。（14）は体部が外弯し、外面中央に横位の2条の沈線がある。（22）は、柱部から裾部にかけてゆるやかに外弯している。この時期の土器は混入と考える。

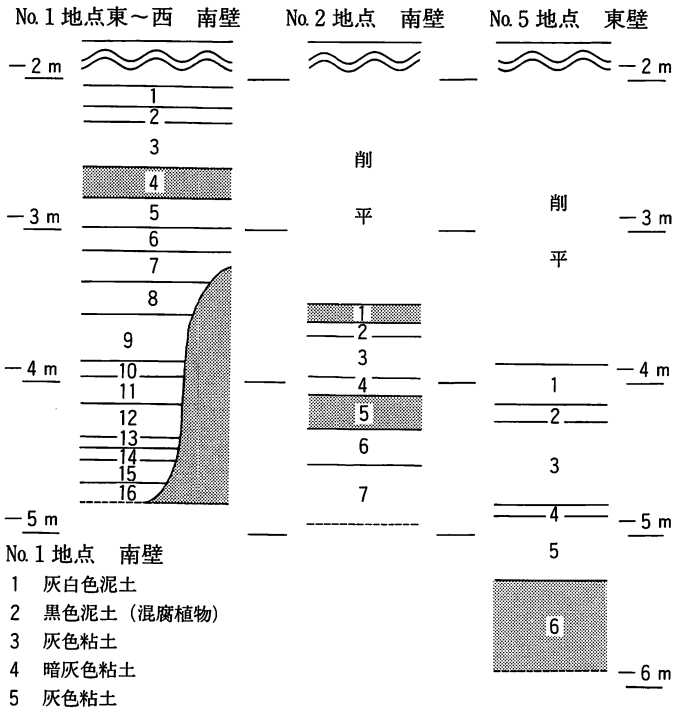


図59　遺構断面図（1：50）

古墳時代前期（布留式併行期）の土器としては、壷（4）・甕（3・5・6）・高杯（15）がある。（4）は、口縁部が少し外反し、端部は尖る。（3）は薄手で、口縁部が強く外反し、端部は丸くおさめる。（5）は口縁部が外反し、端部は上へつまみあげて尖る。体部は頸部の下で屈曲し、内面に斜めのヘラケズリを施す。（6）は、口縁が少し内弯し、端部は内側が肥厚し丸くおさめる。体部は丸く、内面は頸部まで横方向のヘラケズリを施す。（15）は体部が丸く椀状を呈し、端部は少し内傾し角張る。

古墳時代中期（初期須恵器併行期）の土器としては、土師器甕（7～11）・高杯（16～21・23～32）、須恵器壷（36・37）・甕（38・39）がある。（7・8）は端部が内側に拡張し、（9・11）は口縁外面が脹らみ、端部は外側に拡張する。（10）は口縁が外反し、端部は丸くおさめる。（16～18）は、体部が外上方に直線的に伸びて端部は丸い。底部と体部の境に稜をもたせる。（19）は、（16～18）と似ているが、稜をもたない。（20）は、体部と底部の境に強く稜がつく。（21）は、杯部が（20）と同じで、脚部は柱部が少し細く、裾部は広がり、端部は角張る。（23～29）は柱部が太く、裾部は広がる。（28）は柱部と裾部の境に円孔を4箇所穿つ。（30）は薄手で小型の脚部。（31・32）は柱部が垂直に近く、裾部の広がりが短い。（36）は体部で、横位の2条の沈線の

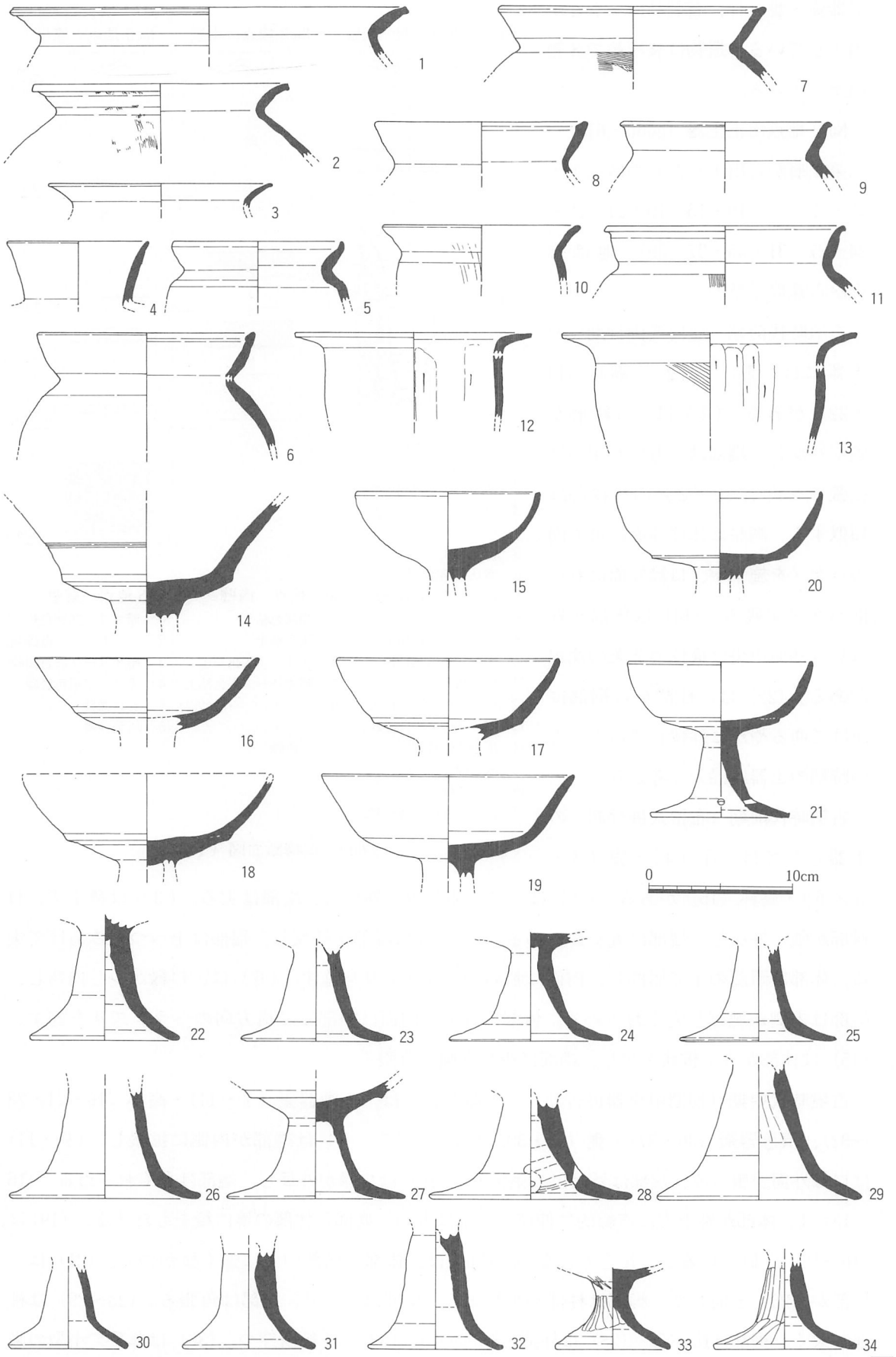

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
0
10cm
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34

図60　遺物実測図（1：4）

間に波状文を施す。瑤になる可能性がある。(37) は体部が球形で、口縁部は外上方に直線的に伸びて、横位の２条の稜の間に波状文を施す。稜と頸部の間に「Ｖ」字形のヘラ記号がある。(38) は、肩部が少し張り、口縁上半部が強く外反する。端部は丸い。端部外面の直下に横位の突帯がめぐる。(39) は口径39cm、胴径71cmの大型の甕。口縁は頸部から直線的に立ち上がり、上半部で外弯し端部は少し角張る。端部外面の直下に横位の突帯がめぐる。調整は、体部外面に平行条線のタタキメを施し、内面は当て具痕をナデ消している。

古墳時代中期（６世紀初頭）の土器としては、土師器鉢（12・13)、高杯（33・34)、須恵器杯蓋（35）がある。(12・13) は、口縁部が頸部で強く屈曲し、外上方に直線的に広がる。体部は、頸部からやや内傾気味に下がる。調整は、体部外面を右下がりのハケメ、内面縦方向のヘラケズリを施している。(33) は、杯底部内面が平らで、脚部は、外弯する柱部から裾部にかけて大きく広がる。調整は、柱部外面を縦方向のヘラミガキ、内面を横方向のヘラケズリを施し、裾部内外面をヨコナデしている。(34) は、脚部外面裾部まで縦方向のヘラミガキを施している。(35) は、天井部上半には回転ヘラケズリがみられ、天井部と体部の境に稜をもつ。

その他の遺物としては、臼玉（40)、線刻のある高杯（41）がある（図版35)。(40) は直径4.5㎜、厚さ3.0㎜、円孔の内径は2.0㎜である。形状は中央部がやや膨らむ低い円筒形を呈し、上下両面を平らにし、中央に円孔を穿つ。材質は滑石である。(41) は杯外面にヘラで線刻している。破片のため線刻の一部のみである。

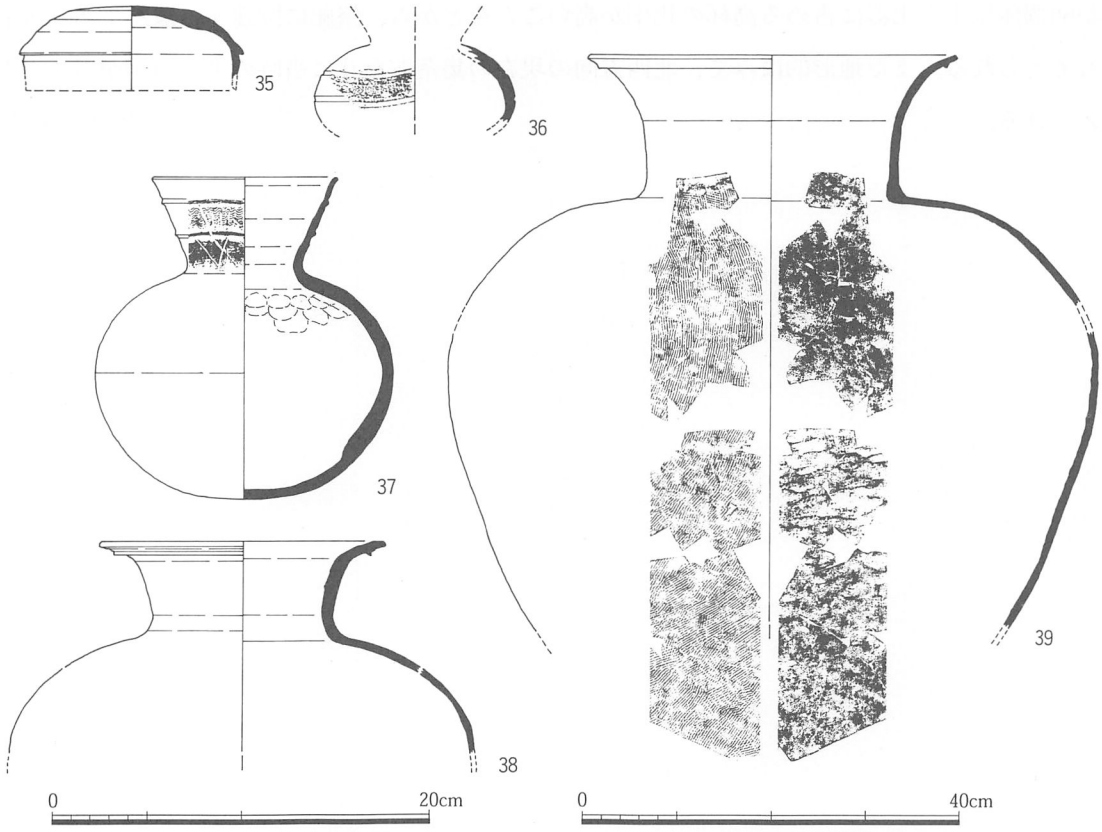


図61　遺物実測図（35～38は1/4、39は1/8）

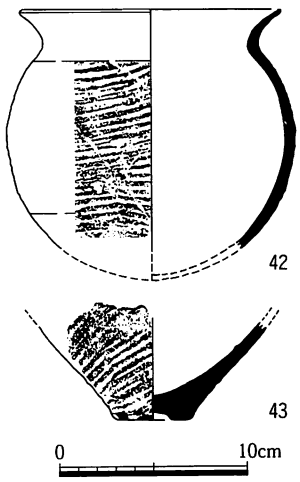


図62　遺物実測図（1：4）

No. 3 地点出土土器（図62）

土師器甕（42）は、外弯する口縁と丸い体部をもつ。口縁部内外面はヨコナデ。体部外面は、上部2/3に水平に近い平行条線のタタキメを施し、その下はタタキメを施した後ナデ消している。内面は、縦方向のヘラケズリである。庄内式併行期か。第1層より出土。

No. 5 地点出土土器（図62）

弥生時代後期の甕の底部（43）。内面に「くもの巣」状のハケメ、体部外面に螺旋状のタタキメを施す。内面に炭化物、体部外面に煤が付着する。第6層より出土。

ま と め

1890年（明治23年）測量の参謀本部陸軍部測量局作成の地形図をみると、当時の下三栖村は、北側には田圃が広がり、東・南・西側は湿地という半島状の地形に位置する村であった。また、半島の先端にある三栖神社から湿地の中を東に延びる一本道があり、現在の琵琶湖疎水の肥後橋から中書島へ続いている。この道がNo. 2 地点の北側の道路であり、調査地は、19世紀以前、低湿地であったことがわかる。

今回の成果は、古墳時代の遺物を多量に発見し、下三栖遺跡と指定されたことである。1993年の調査では地表下4～6mの流路の中から磨滅した遺物を採取し、今回は地表下約3.5mで完形のものは少ないが、比較的磨滅していない土器群が出土した。臼玉が出土したことや、土師器高杯が60個体以上と土器に占める高杯の比率が高いことなどから、祭祀に関連する遺跡である可能性も考えられる。また地形的にみて、北西方向の現在の集落あたりに当時の生活の場があったと考えられる。

（尾藤・竜子）

Ⅳ　主要な出土遺物

1　平安京左京四条四坊七町（96ＨＬ１）

調査地は中京区堺町通六角下る甲屋町386-5・6、387番地で、マンション建設工事に伴い、1996年４月１日から４日まで計７箇所で調査を実施した。

No.３地点では、地表下２ｍで南北３ｍ、東西２ｍ以上の江戸時代初期の落込みを検出した。No.４地点では、地表下2.1mの微砂層から弥生時代後期の甕が、正位の状態で出土した。他には、No.１地点で平安時代から室町時代にかけての遺物包含層を３層、No.２地点で室町時代と江戸時代の遺物包含層を各１層ずつ、No.７地点で鎌倉時代の土壙２基などを検出した。また、No.５地点で弥生時代後期の甕が出土した（図63）。

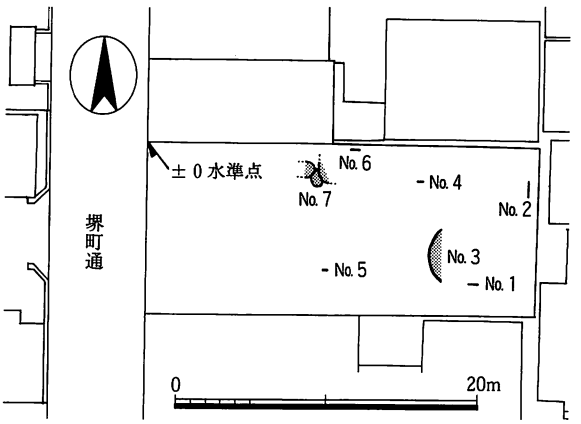


図63　遺構位置図（１：500）

遺　物（図版36-1～3、図64）

No.３地点の落込みからは、土師器皿、天目椀、唐津椀、志野鉢・椀・水滴、丹波摺鉢、備前筒形花入、輸入染付椀・皿、瓦器、塩壷蓋、砥石、鉄釘などが出土した。志野水滴（図版36-3）は、猿形をした頭部の破片で頭髪や手の指をヘラ描きの粗い直線で表し、右手を右頬にあてたしぐさを表現している。目・鼻・口に穴を穿ち、口は注口となっている。口と手には赤色の火色がみられる。胎土は黄色がかった白色である。

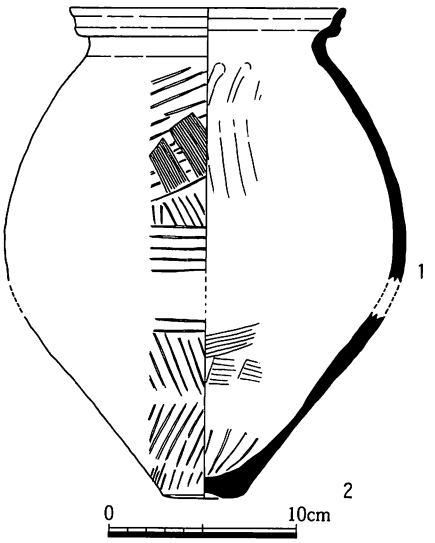


図64　遺物実測図（１：４）

No.４地点出土の甕（図版36-1・2、図64）は、接合しないが同一個体と考える。受口状口縁の甕で、体部外面は平行条線タタキメで成形し、のちにハケメを施す。

（竜子）

2　平安京左京六条四坊一町（96ＨＬ249）

調査地は、下京区東洞院通松原下る大江町547番地他で、住宅建設工事に伴い、1996年９月17日から19日の間に計４箇所で調査を実施した。

No.１地点では、地表下1.1mの鎌倉時代の土壙を検出した。No.２地点では、地表下1.6mで幅1.1

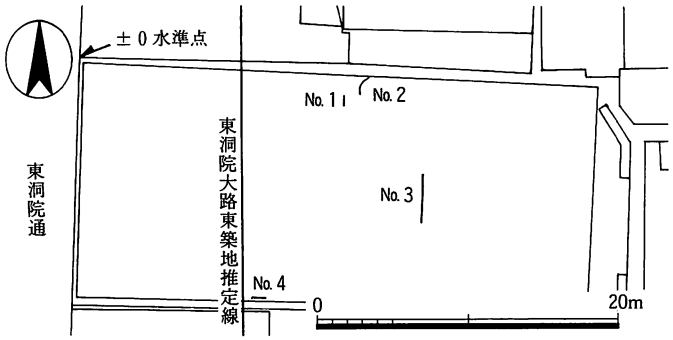


図65　遺構位置図（1：500）

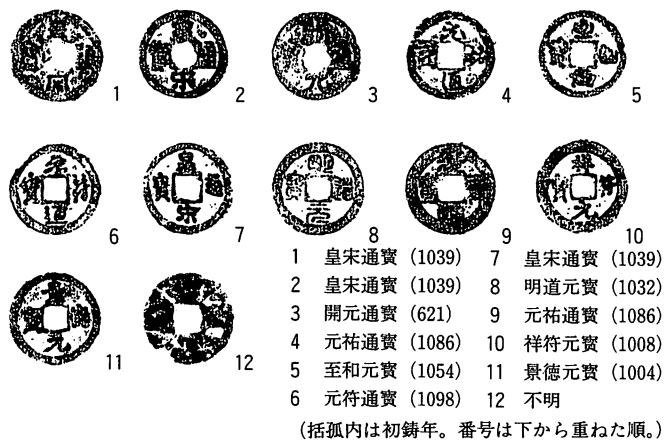


図66　銭貨拓影（1：2）

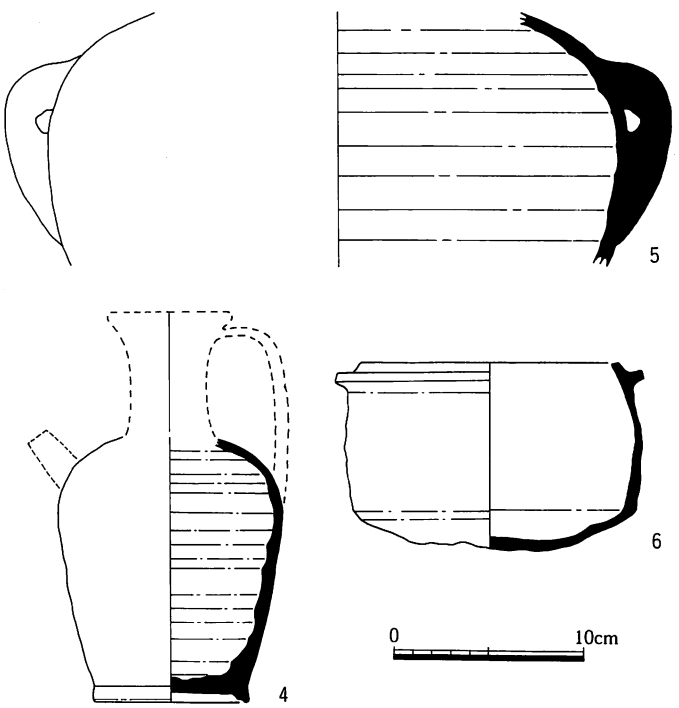


図67　遺物実測図（1：4）

m以上、深さ0.7mの平安時代の落込みを検出した。No.3地点では、地表下1.6mで幅0.7m、深さ0.3mの平安時代前期の土壙を検出した。また、No.4地点では、地表下2.1mで古墳時代の土器を含む流路を検出した（図65）。なお、当地西端で検出が予想された東洞院大路の路面・側溝は確認できなかった。

遺　物（図版36-4～6、図66・67）

No.1地点の土壙からは、土師器皿、瓦器羽釜（6）、陶器甕、青磁椀、鉄釘などが出土した。（6）は、口縁が内傾し、端部は平坦面をなす。鍔は短くわずかに上向く。体部外面には指オサエ、底部外面に粗いヘラケズリ痕が強く残り、煤が付着する。この羽釜は土壙内に正位に据えられ、12枚の銅銭を重ねた状態で底部に置いていた。銅銭は、初鋳が621年から1098年である（図66）。No.2地点の落込みからは、土師器皿、須恵器杯・甕、緑釉陶器（4）、灰釉陶器椀、重圏文軒丸瓦、平瓦などが出土した。（4）は体部のみであるが、他の類例から水注と考えられる。[註] 肩口の丸く張った水瓶形で、外面全面と底部に濃緑色の釉がかかる。底部は糸切りで貼付け高台。胎土は浅黄橙色で軟質に焼きあがっている。近江産である。No.3地点の土壙からは、土師器皿・甕、須恵器甕・鉢、緑釉陶器、灰釉陶器壷（5）、黒色土器などが出土した。（5）は肩口から胴部にかけて、縦に長い耳が付く。胎土は灰色に硬く焼き締まり、外面に淡緑色の釉が流下している。

（竜子）

註 『世界陶磁全集２　日本古代』 小学館　1979
群馬県山王廃寺出土（群馬県立歴史博物館収蔵）、長野県平出遺跡出土（平出遺跡考古博物館収蔵）

3　下鳥羽遺跡（95ＴＢ438）

調査地は、伏見区下鳥羽芹川町38番地で、工場建設工事に伴い1996年２月22・23・26日の３日間調査を実施した。

No.２地点では、地表下0.８mで幅東西1.5m、南北0.4m以上、深さ0.2m以上の落込みを検出した。No.３地点では、地表下0.8mで幅1.5m以上、深さ0.2m以上の落込みを検出した。他には、No.１地点で弥生時代と古墳時代の遺物包含層を検出した（図68）。

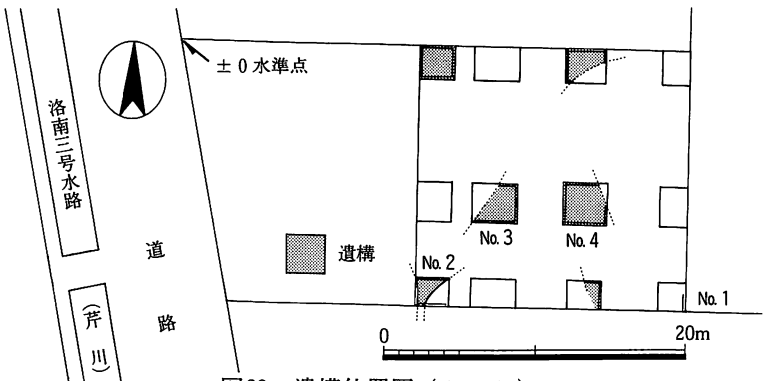


図68　遺構位置図（１：500）

遺　物（図版36-10、図69）

No.２地点の落込みから壷（７・８・10）・甕、No.３地点の落込みから壷・甕・蓋（11）、No.４地点では、壷（９）・甕などが出土した。いずれも弥生時代前期である。

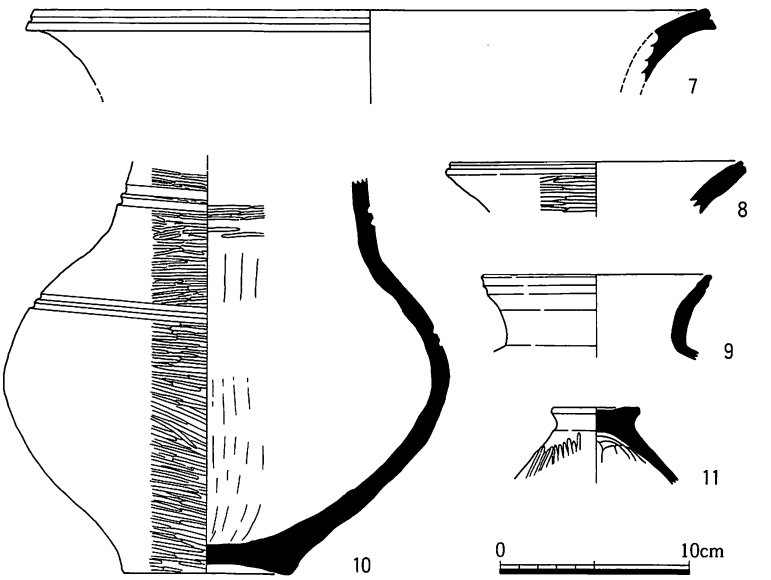


図69　遺物実測図（１：４）

（７）は外傾する面をもった口縁端部に横方向の沈線が１条めぐる。端部を除き内外面ともにヘラミガキを施す。（８）は丸くおさめた口縁端部に横方向の１条の沈線がめぐる。調整は内外面ともにヘラミガキを施す。（９）は外弯する口縁部にややつまみ上げて尖った端部がつく。口縁外面の端部直下に、横方向の２条の沈線がめぐる。外面はヨコナデ、内面は横方向のハケメののちヨコナデを施す。(10) は口縁部を欠く。外面は底部を含め全面ヘラミガキを施し、頸部と体部上半にそれぞれ２条の横方向の沈線がめぐる。内面は体部を縦方向のヘラケズリ、頸部はユビオサエののち粗い横方向のヘラミガキを施す（図版36-10）。(11) は天井部中央を２本の指で押さえ浅く窪ませ、頸部は強く指で押さえてくびれさせ、体部外面は頸部の少し下から丁寧な縦方向のヘラミガキ、内面は全面丁寧なヘラミガキを施す。鉢の可能性もある。　（竜子）

調査一覧表

Ⅰ　1996年　1～3月期(平成7年度)

平安宮（HQ）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
大蔵	上・千本通一条下る西中筋町19-57	2/15	巡回時、工事終了。	HQ425	1
大蔵	上・仁和寺街道六軒町西入四番町110-3	2/21・22	地表下0.26mまで盛土。	HQ435	1
大蔵	上・仁和寺街道六軒町西入四番町110-2	2/21・22	地表下0.26mまで盛土。	HQ436	1
大蔵	上・七本松通一条下る三軒町71-14	3/12	巡回時、工事終了。	HQ467	1
大蔵	上・浄福寺通中立売下る菱丸町183	1/31, 2/28, 3/4	地表下0.35mで江戸の包含層。	HQ411	1
大蔵	上・上長者町通浄福寺西入新柳馬場頭町512の一部	3/13	地表下0.4mまで盛土。	HQ470	1
茶園	上・松屋町通中立売上る下鏡石町209-1	3/18・19	地表下0.2mまで盛土。	HQ481	1
大宿直	上・中立売通智恵光院東入多門町433-1	3/13	地表下0.35mで江戸の包含層、陶器椀。	HQ464	1
正親司	上・仁和寺街道御前東入鳳瑞町225	3/18・19	地表下0.25mまで盛土。	HQ478	1
宴の松原	上・六軒町通出水下る東入七番町330	2/6・7	地表下0.35mまで盛土。	HQ424	1
宴の松原	中・聚楽廻西町163-62	3/18	地表下0.25mまで盛土。	HQ479	1
縫殿寮	上・浄福寺通上長者町下る長谷町198	3/25	巡回時、工事終了。	HQ495	1
縫殿寮	上・浄福寺通上長者町下る長谷町198	3/25	巡回時、工事終了。	HQ496	1
職御曹司	上・智恵光院通出水上る天秤丸町191	2/6・7	地表下1.0mで江戸の包含層、桟瓦。	HQ414	1
職御曹司	上・智恵光院通出水上る天秤丸町179-2, 181-1	3/29	地表下0.7mで江戸の包含層。	HQ504	1
内裏	上・下立売通千本東入中務町490-108	1/30・31	地表下1.5m以下、明黄褐色砂泥の無遺物層。	HQ410	1
内裏	上・下長者町通千本東入二本松町10-8	3/21	地表下0.2mまで盛土。	HQ486	1
内膳司	上・出水通千本東入西神明町342	3/1	地表下0.65mまで盛土。	HQ442	1
内膳司	上・出水通千本西入尼ヶ崎横町358-3	2/27	巡回時、工事終了。	HQ444	1
中和院	上・下立売通千本西入稲場町452	3/27	掘削なし。	HQ502	1
左兵衛府	上・日暮通下立売上る天秤町584	3/4・19	地表下1.1mまで盛土。	HQ453	1
西雅院	上・日暮通丸太町上る西入西院町747-11	1/11, 2/19	地表下2.0m以下、褐色泥砂の無遺物層。	HQ385	1
内匠寮	上・御前通下立売下る下之町407-1	1/22・24	地表面で黒色泥砂の無遺物層。	HQ397	1
朝堂院	中・聚楽廻中町41-9	3/4・5	地表下0.18mで平安の土壙、瓦多量。	HQ454	1
典薬寮	中・聚楽廻松下町22	11/22・23	地表下0.25mまで盛土。	HQ396	1
大膳職	上・松屋町通丸太町上る三丁目664-2	1/26・29	地表下0.8mまで盛土。	HQ406	1
大膳職	上・松屋町通丸太町上る三丁目664-1・4	2/13	巡回時、工事終了。	HQ426	1
大膳職	上・松屋町通丸太町上る三丁目664-1	2/27・28	地表下0.4mまで盛土。	HQ443	1
大炊寮	上・丸太町通松屋町東入左馬松町783	3/13・21・26	地表下0.55mで近世の包含層。	HQ469	1
太政官	上・浄福寺通丸太町下る東入主税町999	3/11・13・14・18	平安の瓦多量。**本文3ページ。**	HQ465	1
右馬寮	中・西ノ京右馬寮町11-23	3/25	巡回時、工事終了。	HQ497	1
式部省	中・聚楽廻南町30	3/21・22	地表下0.4mで江戸の包含層、桟瓦。	HQ487	1

平安京左京（HL）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
一条大路	上・一条通智恵光院東入鏡石町8	2/19	地表下0.2mまで盛土。	HL428	2
一条三坊十一町	上・室町通出水下る勘解由小路町148-8	3/11・26・27	No.1　地表下1.5mで室町の包含層。No.2　-1.7mで15～16世紀の包含層。排土より瓦質の脚部。	HL461	3
三条一坊　八町	中・二条通堀川西入二条城町541	3/4・27	地表下1mまで攪乱。	HL455	2
三条一坊　十町	中・西ノ京職司町67-4・74	1/19・23	地表下1.5mまで盛土。	HL393	2
三条二坊　四町	中・新シ町通姉小路下る上一文字町310	3/26・29	地表下0.71m以下、オリーブ黄色泥土の無遺物層。	HL498	2
三条二坊十一町	中・油小路通御池下る式阿弥町	3/29, 4/1・3	No.1　地表下1.33mで室町の落込み、東西溝か。No.3　-1.2mで平安末期の包含層、灰釉陶器。-1.39m以下、灰色粘土の無遺物層。	HL505	2
三条三坊　二町	中・釜座通押小路下る下松屋町734他	3/28, 4/2	地表下0.73mで近世の包含層。-1.73m以下、にぶい黄褐色粗砂の無遺物層。	HL501	3
四条一坊　四町	中・壬生御所ノ内町27-13	2/23・26	地表下1.13m以下、平安後期湿地堆積。	HL439	4
四条一坊十二町	中・壬生坊城町14-1・2(一部)6	1/29, 2/20	地表下0.8mまで攪乱。	HL408	4

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調　査　概　要	調査No.	図版
四条二坊　十町	中・醒ヶ井通蛸薬師上る亀屋町～醒ヶ井通六角下る越後屋町地先	1/30・31, 2/5	地表下0.9mで包含層、土師器片。	HL407	4
四条二坊十一町	中・油小路通錦小路上る山田町519	3/12・14・19・25	No.1　地表下0.85mで室町・近世の落込み。-1.33m以下、黄灰色泥砂の無遺物層。No.2　-1.7mで平安中期の包含層を切って室町～桃山の土壙、土師器皿に金箔付着。No.3　-1.2mで鎌倉の落込み、土師器皿。	HL462	4
四条三坊　四町	下・四条通新町西入郭巨山町13	1/11・17～19	地表下0.6mで焼土層、1.43m以下、灰黄褐色粗砂礫の無遺物層。	HL384	5
四条三坊十三町	下・四条通烏丸東入長刀鉾町28	2/23	地表下0.5mまで盛土。	HL440	5
四条四坊十三町	中・寺町通錦小路下る東大文字町301他	1/12・16・18・19・23	No.1　地表下0.35m以下、路面3、室町の整地層、平安後期・鎌倉の包含層。No.2　-1.72mで弥生の包含層。-1.84m以下、暗灰黄色砂泥の無遺物層。	HL386	5
五条一坊　八町	中・壬生賀陽御所町77-1他	3/5・6・11	地表下1.32mで江戸の包含層。-1.58mで壬生大路路面2。	HL452	4
五条二坊　八町	下・四条通堀川西入唐津屋町517、519	1/12・22	地表下0.5mで江戸の包含層、陶器、瓦。	HL387	4
五条四坊十五町	下・仏光寺通寺町西入大黒町262	3/19	地表化1mまで遺構、遺物検出できず。	HL477	5
五条四坊十六町	下・綾小路通御幸町西入足袋屋町318	3/5	地表下1.17m以下、オリーブ褐色砂礫の無遺物層。	HL451	5
六条二坊　三町	下・猪熊通五条下る柿本町596-2・3・4、698-1	2/2・14	地表下1.5mまで盛土。	HL413	4
六条二坊　八町	下・松原通堀川西入北門前町751	3/5・7・8	No.2　地表下0.6mで平安後期の井戸、灰釉陶器椀、須恵器蓋。No.3　-0.4m以下、鎌倉末期の包含層、室町の東西方向の濠、土師器、陶器、瓦質盤。-0.84m以下、にぶい黄褐色砂泥の無遺物層。	HL456	4
六条三坊　一町	下・松原通西洞院東入薮下町12	3/21	地表下0.43m以下、近世の包含層、路面。-1.12m以下、鎌倉の包含層、路面。	HL484	5
六条三坊十一町	下・烏丸通五条下る大阪町375・377	3/18・19・27	地表下1.18mで鎌倉～室町の包含層。-1.31m以下、褐色粗砂礫の無遺物層。	HL474	5
六条四坊十四町	下・五条通木屋町西入西橋詰町、都市町地先	3/25	巡回時、工事終了。	HL493	5
七条二坊十一町	下・中筋通正面下る丸屋町122	1/22・23・24, 2/5	No.1　地表下1.59m以下、平安後期～末期の包含層。No.2　-1.6m以下、平安前期・平安末期～鎌倉の包含層、須恵器杯・甕、土師器皿、黒色土器椀。-2.75m以下、灰色砂の無遺物層。排土から布留式土器壺口縁、胴体部。No.3　-2.52m以下、流路堆積を切って古墳前期の土壙。	HL394	6
七条二坊十三町	下・油小路通七条上る米屋町178	3/13・14・18・19	No.1　地表下0.45m以下、平安中期・鎌倉の包含層。-2.03m以下、平安の流れ堆積。　No.2　-0.68m以下、整地層3。-1.1m以下、平安前期～鎌倉の包含層。	HL471	6
七条二坊十六町	下・油小路通六条下る西若松町267	1/29～31	地表下0.8m以下、平安後期の包含層、緑釉陶器、白磁椀。	HL405	6
八条一坊　七町	下・観喜寺町他	11/21・29, 2/26	地表下3.7mまで盛土。	HL328	6
八条一坊　九町	下・七条通大宮西入和気町12	1/17・29	地表下0.73m以下、鎌倉・近世の包含層。-1.5m以下、淡灰色砂の無遺物層。	HL391	6
八条三坊十六町	下・七条通一筋南の通、烏丸通～東洞院	2/7・9・15・19	地表下0.95mまで撹乱。	HL423	7
八条三坊十六町	下・不明門通七条下る東塩小路町711	3/29, 4/1・9	No.1　地表下1.83m以下、暗オリーブ色砂礫の無遺物層。排土より鎌倉～室町の土師器、瓦器鍋片。No.2　-0.52mで池状堆積。	HL506	7
九条二坊　四町	南・西九条川原城町1	3/21・25	地表下0.5mで平安の包含層、須恵器片。	HL490	6

平安京右京（HR）

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調　査　概　要	調査No.	図版
北辺三坊　四町	北・大将軍南一条町11-2	3/21・22	地表下0.8mで黒褐色泥砂層。	HR488	8
一条三坊　一町	北・大将軍西鷹司町　府立体育館	95/12/7, 1/5	地表下1.75m以下、灰黄褐色砂泥の無遺物層。	HR358	8

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
三条一坊　一町	中・西ノ京星池町15	3/22	地表下0.84m以下、暗灰色砂礫の無遺物層。	HR485	9
六条四坊　四町	右・西院六反田町11	1/18, 2/13・22	地表下0.6m以下、褐色砂泥の無遺物層。	HR392	10
七条一坊　八町	下・朱雀分木町43、45-1	2/28, 3/5	地表下0.7m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。	HR445	13
七条一坊十六町	下・西七条西八反田町10	3/29, 4/1・3	地表下0.45mで平安の包含層、土師器、緑釉陶器、瓦。	HR507	13
七条二坊　三町	下・西七条市部町117	3/26・27	地表下0.67m以下、褐色砂礫の無遺物層。	HR494	13
七条二坊　十町	下・西七条比輪田町4	1/16・22・24	No.1　地表下0.9mで包含層、布目瓦。No.2 -0.44mで近世の包含層。-1.56m以下、湿地堆積。	HR388	13
七条二坊十三町	下・西七条北月読町79	3/18・21	地表下0.66m以下、砂礫層、佐井川に関連。	HR480	13
八条二坊　七町	下・西七条石井町37	2/19・21	地表下0.4m以下、湿地堆積。	HR429	13
九条一坊十四町	南・唐橋西寺町33-5	3/26・27	地表下0.06mで平安の包含層、土師器、瓦。	HR500	13
九条三坊　一町	南・吉祥院西ノ庄東屋敷町46, 47	3/21	地表下0.4mまで盛土。	HR489	12
九条三坊十二町	南・吉祥院新田壱ノ段町5	1/29, 2/8・13	地表下1.2m以下、氾濫堆積。	HR409	12
九条四坊　一町	南・吉祥院宮ノ東町7	1/10・12・16	地表下1.6m以下、にぶい黄褐色泥砂の無遺物層。	HR383	12

洛北地区（RH）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
岩倉忠在地遺跡	左・岩倉忠在地町309　洛北中学校	3/22・26	地表下1mまで盛土。	RH491	
河上瓦窯跡	北・西賀茂丸川町57	3/7・22	地表下0.2m以下、包含層2、土師器片。-0.6mで土壙、土師器片。	RH463	
相国寺旧境内	上・今出川通烏丸東入相国寺門前町	2/14・15・19	地表下0.13m以下、時期不明の路面2、包含層3、瓦、土師器片。-0.7mで瓦を含む東西溝。	RH427	
植物園北遺跡	北・上賀茂薮田町46-1	3/5・6	No.1　地表下0.8mで古墳前期（庄内）の落込み。No.2　-0.13mで弥生の包含層。	RH449	
植物園北遺跡	北・上賀茂池端町18-6	3/5	地表下0.82mまで遺構、遺物検出できず。	RH450	
植物園北遺跡	北・上賀茂岩ヶ垣内町9-2	3/6	地表下0.38mで包含層、土師器片。	RH459	
植物園北遺跡	北・上賀茂高縄手町5	3/22	地表下0.5mまで遺構、遺物検出できず。	RH492	
幡枝古墳群	左・岩倉幡枝町1057-6	2/1・8・16・20・27・29	平安・江戸の落込み。古墳確認できず。	RH412	
室町殿跡	上・室町通今出川上る築山南半町241	3/6	地表下0.2mまで盛土。	RH458	

太秦地区（UZ）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
広隆寺旧境内	右・太秦東蜂ヶ岡町10	1/25, 2/13	地表下1.0mまで盛土。	UZ402	
散布地	右・嵯峨広沢西裏町36-1	3/11・27	地表下1.3m以下、湿地堆積。	UZ466	
広沢古墳群	右・嵯峨釣殿町～嵯峨広沢町地内	3/28, 4/2・9・11・17	No.2　地表下1.0mで黒色砂泥と黄褐色砂泥の互層の整地層。No.4　-1.05m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。	UZ503	
山越古墳群	右・嵯峨広沢町～山越西町	2/19, 3/5・11	地表下1.52m以下、明黄褐色砂泥の無遺物層。	UZ431	

北白川地区（KS）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
岡崎遺跡・最勝寺跡	左・岡崎最勝寺町95	1/23・24・26・29～31	地表下0.45m以下、整地層5、凝灰岩混入。-0.91mで古墳の包含層、土師器甕片。	KS395	
岡崎遺跡・最勝寺跡・尊勝寺跡	左・岡崎最勝寺町～成勝寺町	'95/8/30～96/7/23	二条大路末、車道の東側溝、法勝寺西限、成勝寺北限に関わる遺構・遺物。**本文36ページ。**	KS226	

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
岡崎遺跡・最勝寺跡・尊勝寺跡・成勝寺跡	左・岡崎最勝寺町地先	'95/9/20～96/6/7	最勝寺の伽藍の一部と考えられる建物跡、寺域境界溝、冷泉小路末、二条大路末、車道の路面・側溝、法勝寺西限、成勝寺北限などに関わる遺構・遺物。**本文36ページ。**	KS229	
岡崎遺跡・成勝寺跡	左・岡崎成勝寺町9	2/1・13・15・16	地表下0.74mで包含層、土師器片。-1.08m以下、黄褐色粗砂の無遺物層。	KS417	
岡崎遺跡・尊勝寺跡	左・岡崎最勝寺町13	3/13・14	地表下1.7mまで盛土。	KS468	
岡崎遺跡・尊勝寺跡	左・岡崎最勝寺町13	3/14	地表下0.18mで江戸以降の包含層。	KS472	
岡崎遺跡・尊勝寺跡	左・岡崎最勝寺町13	3/19・27	地表下1.8mまで盛土。	KS475	
岡崎遺跡・法勝寺跡	左・岡崎法勝寺町29	1/8・9	No.1　地表下1.0m以下、古墳の落込み、平安後期の包含層、土師器高杯・甕・皿、須恵器蓋、軒平瓦。No.2　-0.9m以下、古墳の包含層、平安後期の包含層、土壙、流れ堆積。-2.18m以下、灰黄色微砂の無遺物層。	KS382	
小倉町別当町遺跡	左・北白川別当町70　北白川小学校	1/26・29・30, 3/6	地表下1.15m以下、平安中期の包含層。-2.21m以下、褐色砂泥の無遺物層。	KS400	
北白川廃寺	左・北白川上別当町4	1/29	巡回時、工事終了。	KS401	
白河街区跡	左・岡崎東天王町地先	'95/5/18, 12/21, 1/9	地表下1.1mで褐色粗砂の無遺物層を切って古墳～平安末期の南北流路。幅8m、深さ1.55m以上、南側で幅13m。	KS069	
白河北殿跡	左・東丸太町31	1/29	地表下0.65m以下、流れ堆積。-1.0m以下、極暗褐色砂礫の無遺物層。	KS404	
法成寺跡	上・寺町通広小路上る染殿町680	3/4	巡回時、工事終了。	KS447	

南・桂地区（MK）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
大薮遺跡	南・久世大薮町176-2	2/20・22	地表下0.3m以下、褐色砂泥の無遺物層。	MK433	
上久世遺跡	南・久世上久世町438-1、441-1、442-2	2/19, 6/27, 7/1	地表下0.45mまで盛土。	MK430	
中久世遺跡	南・久世殿城町508	'95/12/14・1/11	地表下0.5m以下、明黄褐色砂泥の無遺物層。	MK372	

洛東地区（RT）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
安祥寺下寺跡	山・安朱中小路町　京阪山科駅	2/20・3/19	地表下1.5mまで盛土。	RT432	
勧修寺旧境内	山・勧修寺西北出町112、113	2/5	地表下0.8mまで盛土。	RT422	
祇園遺跡	東・祇園町北側地内	3/19・21・25, 4/3	地表下0.43mで室町の包含層。	RT476	
中臣遺跡	山・西野山中臣町155	2/1	地表下0.8mまで盛土、耕土。	RT415	
中臣遺跡	山・栗栖野打越町12-12	2/1	地表下0.65mまで盛土、耕土。	RT416	
中臣遺跡	山・西野山中臣町155	2/1	地表下0.28mまで盛土。	RT418	
中臣遺跡	山・西野山中臣町155	2/1	地表下0.28mまで盛土。	RT419	
中臣遺跡	山・西野山中臣町155	2/1	地表下0.28mまで盛土。	RT420	
中臣遺跡	山・西野山中臣町155	2/1	地表下0.28mまで盛土。	RT421	
中臣遺跡	山・勧修寺西金ヶ崎212-6	3/19・21	地表下0.9m以下、暗褐色粘土の無遺物層。	RT482	
中臣遺跡	山・栗栖野打越町12-13	3/27	地表下0.28mまで盛土。	RT499	
山科本願寺跡	山・西野離宮町	'95/6/5, 1/11・17・19・24	No.4　地表下2.5mでオリーブ褐色砂礫の無遺物層を切って室町の土壙。No.5　-2.95m以下、流れ堆積。	RT092	
山科本願寺跡	山・西野今屋敷町2-10	1/9, 17, 2/28	地表下0.65mで包含層、土師器片。-1.35m以下、にぶい黄褐色粘土の無遺物層。	RT389	

鳥羽地区（TB）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
上鳥羽遺跡	伏・上鳥羽鴨田,上鳥羽町田	3/6・7・14・19・28, 4/1・3～5・8～10	No.1　地表下1.18m以下、近世以降の包含層。-1.53m以下、流れ堆積。No.8　-1.14mで弥生～古墳の土器片。No.11　-0.8mで南下がりの落込み。	TB457	
下鳥羽遺跡	伏・下鳥羽芹川町38	2/22・23・26	No.1　地表下0.57m以下、弥生の包含層。-0.82m以下、褐色粘土の無遺物層。No.2　-0.65mで時期不明の南北溝、湿気抜き。-1.35mで弥生前期の住居跡と思われる落込み、壷、甕。**本文53ページ。**	TB438	
鳥羽離宮跡	伏・竹田小屋ノ内町23	1/17	地表下0.83mで包含層、土師器片。	TB390	
鳥羽離宮跡	伏・竹田踞川町16他23筆	1/25・26	地表下1.76m以下、湿地状堆積、流れ堆積。	TB399	
鳥羽離宮跡	伏・竹田小屋ノ内町32-1	2/26	地表下0.37mの旧耕土まで遺構、遺物検出できず。	TB441	
鳥羽離宮跡	伏・竹田田中殿町53-6	3/4	巡回時、工事終了。	TB448	
鳥羽離宮跡	伏・竹田小屋ノ内町～竹田浄菩提院町地先	3/14	地表下1.25mまで攪乱。	TB473	

伏見・醍醐地区（FD）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
伏見城跡	伏・京町十丁目1-2	2/21・22	地表下0.3m以下、鎌倉・江戸の包含層。-1.3m以下、暗褐色砂泥の無遺物層。	FD434	
伏見城跡	伏・京町四丁目165-1	2/22	地表下0.55mまで盛土。	FD437	
伏見城跡	伏・深草大亀谷東安信町81	3/7	地表下0.3mまで盛土。	FD460	

長岡京地区（NG）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
長岡京跡	南・久世東土川町180-5・6他	1/25・2/5	地表下0.7mまで盛土。	NG403	
長岡京跡	西・大原野上里男鹿町,大原野上里南ノ町地先	3/19	地表下1.05mまで氾濫堆積。	NG483	
長岡京跡・東土川遺跡	南・久世東土川町	2/28,3/19・25	地表下1.0mまで攪乱。	NG446	
長岡京跡・上里遺跡	西・大原野上里紅葉町,上里男鹿町他	'95/11/21～96/7/30	No.7　地表下1.3m以下、褐色砂泥の無遺物層。	NG329	

II　1996年　4～12月期(平成8年度)

平安宮（HQ）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
兵庫寮	上・中立売通七本松西入東町39	5/31	巡回時、工事終了。	HQ100	1
大蔵	上・仁和寺街道七本松東入白竹町189-11	4/4	地表下0.1mまで盛土。	HQ013	1
大蔵	上・千本通中立売上る西仲筋町19-84	7/4・5	地表下0.6mで包含層、土師器片。	HQ159	1
大蔵	上・仁和寺街道七本松東入一番町93-7	9/3	地表下0.35mまで盛土。	HQ229	1
大蔵	上・千本通中立売上る玉屋町45	10/21・30	地表下1.1mまで盛土。	HQ359	1
大蔵	上・中立売通千本東入丹波屋町351-1, 353-1, 355-1	8/21	地表下1.07mで平安の包含層。-1.57m以下、黄褐色粘土の無遺物層。	HQ204	1
茶園	上・松屋町通一条下る下鏡石町211	5/9・13	地表下0.2mまで盛土。	HQ068	1
茶園	上・松屋町通一条下る下鏡石町209-3	12/16	地表下0.3mまで盛土。	HQ387	1
内教坊	上・松屋町通中立売下る神明町446-1	6/12・14	地表下0.2mで灰黄褐色砂礫層。	HQ110	1
内教坊	上・松屋町通中立売下る神明町440-11	8/1	巡回時、工事終了。	HQ180	1
正親司	上・御前通仁和寺街道下る下堅町188	10/1・14	地表下1.15m以下、黄灰色砂礫の無遺物層。	HQ269	1
右近衛府	上・御前通下立売上る二丁目仲之町299-3	8/19	地表下0.23mまで盛土。	HQ193	1
図書寮	上・下長者町通七本松西入鳳瑞町239	8/9・13	地表下0.25mまで盛土。	HQ196	1
図書寮	上・下長者町通七本松西入鳳瑞町244-3	11/13・27	地表下0.6mまで盛土。	HQ341	1
図書寮	上・御前通下立売上る三町目東入三助町281-2	11/13	掘削なし。	HQ342	1
宴の松原	上・六軒町通下長者町下る七番町308-7	7/2	地表下0.4m以下、包含層2、土師器片。	HQ160	1
宴の松原	中・聚楽廻西町60-1	9/25, 10/2	地表下0.75m以下、黄灰色砂礫の無遺物層。	HQ253	1
宴の松原	上・下長者町通六軒町西入利生町294-18	10/2・4	地表下0.5m以下、黄褐色砂礫層。	HQ278	1
掃部寮	上・下長者町通六軒町西入利生町294-39	7/4	地表下0.1mまで盛土。	HQ158	1
掃部寮	上・六軒町通出水上る七番町地先	7/29, 10/3・4・15	地表下0.4mまで盛土。	HQ178	1
内蔵寮	上・千本通出水上る弁天町313-2	6/6・10	地表下1.64mまで撹乱。	HQ101	1
左近衛府	上・上長者町通松屋町東入東堀町615	4/22	地表下0.1mまで盛土。	HQ042	1
左近衛府	上・日暮通出水上る金馬場町178	10/16・18	地表下0.2mまで盛土。	HQ302	1
左近衛府	上・大宮通下長者町下る清元町740-8、748-2	10/18, 11/14	地表下0.3mまで盛土。	HQ307	1
内裏	上・出水通浄福寺東入田村備前町235-4	7/5	地表下0.35mまで盛土。	HQ156	1
内裏	上・土屋町通出水上る西神明町320	7/29・31	地表下0.3mで包含層、土師器片。	HQ179	1
内裏	上・下立売通千本東入中務町490-103	8/23	巡回時、工事終了。	HQ214	1
内裏	上・出水通浄福寺下る田村備前町240-6	10/9	地表下0.2mまで盛土。	HQ288	1
内膳司	上・千本通出水上る弁天町315-8	11/27	巡回時、工事終了。	HQ364	1
真言院	中・聚楽廻西町126-6	5/20	地表下0.28mまで盛土。	HQ075	1
左兵衛府	上・松屋町通下立売上る一町目625-5	12/3・10	地表下0.3mまで盛土。	HQ369	1
西雅院	上・智恵光院通丸太町上る西院町747-12	5/1・7	地表下0.17m以下、黄褐色泥砂の無遺物層。	HQ065	1
西雅院	上・智恵光院通椹木町上る中務町486	7/25	掘削なし。	HQ173	1
典薬寮	中・聚楽廻松下町3-36	8/9	地表下0.3mまで盛土。	HQ194	1
典薬寮	中・西ノ京車坂町2-21	11/14	地表下0.4mで黒色砂泥層。	HQ344	1
豊楽院	中・聚楽廻中町54-5	6/17・20	地表下0.15mまで盛土。	HQ117	1
豊楽院	中・聚楽廻西町188-9	12/3	地表下0.17mまで盛土。	HQ371	1
朝堂院	上・千本通二条下る東入主税町803-4	5/27・28	地表下0.3mまで盛土。	HQ087	1
朝堂院	上・千本通丸太町下る東入主税町1145	8/12・13	地表下0.35mで包含層、土師器片。	HQ197	1
朝堂院	中・聚楽廻南町24	8/21	地表下2mまで盛土。	HQ208	1
朝堂院	中・聚楽廻中町41-3	9/11・12	地表下0.35m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。	HQ234	1
朝堂院	中・聚楽廻東町10	10/1・15	地表下0.85mまで盛土。	HQ270	1
朝堂院	中・聚楽廻中町41-2	11/11・12	地表下0.15mまで盛土。	HQ337	1
朝堂院	中・聚楽廻東町17-23	11/14	地表下0.35mまで盛土。	HQ343	1
朝堂院	中・聚楽廻中町～聚楽廻西町地先	12/16・20	地表下0.5mで整地層。	HQ386	1
内舎人	上・下立売通千本東入中務町486-14	12/3	地表下0.25mで近世の包含層、陶器、染付。	HQ370	1
陰陽寮	上・竹屋町通千本東入主税町1124-3	6/10～12	地表下0.5mで凝灰岩片。-0.93mで江戸の包含層。	HQ104	1
主水司	上・日暮通丸太町上る西入西院町747-24	5/10	掘削なし。	HQ060	1
大炊寮	上・日暮通竹屋町上る四町目802-32	4/12・15	地表下0.4mまで盛土。	HQ024	1
宮内省	上・竹屋町通千本東入主税町1242-2	6/21・24	地表下0.1mまで盛土。	HQ123	1
右馬寮	中・西ノ京右馬寮町10-36	4/8・9	地表下0.2mまで盛土。	HQ016	1
右馬寮	中・西ノ京右馬寮町11-22・28	4/25・26	地表下0.3mまで盛土。	HQ053	1
右馬寮	中・西ノ京右馬寮町11-24	9/20	地表下0.3mまで盛土。	HQ251	1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
治部省	中・西ノ京内畑町1-11	5/31	地表下0.2mまで盛土。	HQ092	1
治部省	中・西ノ京内畑町1-19	8/22	地表下0.75m以下、黄灰色砂泥の無遺物層。	HQ211	1
式部省	中・聚楽廻南町30	4/1・2	地表下0.26mで包含層、布目瓦。	HQ004	1
式部省	中・聚楽廻南町30	4/3・4	地表下0.35mまで盛土。	HQ009	1
式部省	中・西ノ京式部町～西ノ京小堀町地内	4/8・22, 5/7・9	地表下1.0m以下、オリーブ褐色泥砂の無遺物層。	HQ015	1
式部省	中・西ノ京小堀町2-72・73	9/4	地表下0.4mまで盛土。	HQ230	1
兵部省	中・西ノ京内畑町34他	4/25	地表下0.5mまで盛土。	HQ052	1
兵部省	中・西ノ京内畑町32-8	8/6	巡回時、工事終了。	HQ191	1

平安京左京（HL）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
北辺二坊　二町	上・黒門通中立売下る榎町380	4/30	巡回時、工事終了。	HL056	2
北辺二坊　二町	上・黒門通中立売下る榎町378-1	8/23	巡回時、工事終了。	HL213	2
北辺二坊　四町	上・葭屋町通中立売上る福大明神町121, 123	5/27～31, 6/4	地表下0.65mで室町の土壙、土師器多量。排土より唐津片。	HL079	2
北辺二坊　四町	上・堀川通、今出川通～中立売通	8/2, 10/18・22, 12/25	地表下1.1mで包含層、土師器片。	HL188	2
北辺三坊　五町	上・烏丸通一条下る龍前町589	11/5～7・11	地表下1.3mで包含層、土師器片。-1.55m以下、灰黄褐色粗砂礫の無遺物層。	HL327	3
一条二坊　一町	上・上長者町通猪熊西入杉本町455	4/9・12	地表下0.56mで平安の包含層。	HL019	2
一条二坊　三町	上・下立売通黒門西入橋西二丁目652, 653	10/28, 11/6・14	地表下1.15mで平安の包含層、須恵器、緑釉陶器。	HL317	2
一条二坊　九町	上・下長者町通油小路西入紹巴町21-1	12/4	地表下0.98mで土壙、瓦器羽釜、須恵器甕。-1.15m以下、暗褐色粘土の無遺物層。	HL373	2
一条三坊　一町	上・中長者町通新町西入仲之町284	10/31, 11/7・11	No.1　地表下1.1mで室町の包含層。No.2　-1.32mで土壙2、布目瓦。-1.46m以下、褐色粘土の無遺物層。	HL324	3
一条三坊　九町	上・室町通上長者町下る清和院町556	10/7・9	地表下1.1m以下、黒褐色砂礫の無遺物層。	HL281	3
一条三坊十四町	上・京都御苑3	5/17, 6/3・4・6	No.2　地表下0.72m以下、室町・桃山の包含層。No.3　-0.85mで近世の土壙。No.4　-0.65mで平安～室町の包含層。-1.65m以下、褐色粘土の無遺物層。	HL077	3
二条二坊　十町	中・東堀川通竹屋町上る七丁目12	7/2・15	地表下1.14mで池状堆積。	HL134	2
二条三坊十二町	中・烏丸通二条上る蒔絵屋町257-2	4/18・22	地表下1.1mで近世の包含層、土師器。	HL034	3
二条三坊十二町	中・両替町通二条上る北小路町110	8/1	地表下0.9mで焼土層。	HL186	3
二条三坊十三町	中・東洞院通二条上る壺屋町504-1・2, 505-1・2、506-2	10/29・30, 11/6	No.1　地表下1.53mで包含層、瓦質の火舎。No.2　-1.38mで落込み、瓦器羽釜、須恵器。-1.51m以下、オリーブ褐色粘土の無遺物層。No.3　-2.7mで江戸前期の土壙、織部椀、唐津鉢、志野皿、白磁椀、青磁椀、塩壷。	HL319	3
二条三坊十四町	中・車屋町通夷川上る少将井御旅町335-2	5/14・16・17・20	No.3　地表下0.3mで近世の流れ堆積。-1.1m以下、鎌倉・室町の包含層。-2.0m以下、褐色粘土の無遺物層。No.4　-1.76mで江戸前期の土壙、象牙製の秤の棹、銅製品、陶器、染付陶器。	HL072	3
二条三坊十五町	中・東洞院通丸太町下る三本木町450	5/9・31	地表下0.92mで江戸の包含層。	HL059	3
二条四坊　五町	中・高倉通二条上る天守町766	5/21・24	No.1　地表下0.92m以下、平安末期・鎌倉・室町の包含層。-1.7m以下、オリーブ褐色微砂の無遺物層。No.2　-1.1mで平安の包含層。-1.47mで平安中期の土壙、土師器、黒色土器、須恵器。	HL081	3
二条四坊　五町	中・夷川通高倉東入天守町575	7/10・16	地表下0.82で室町の土壙、-1.32mで鎌倉の土壙。-1.5m以下、黄褐色粘土の無遺物層。	HL165	3
二条四坊　十町	中・丸太町通柳馬場東入四丁目	10/29	地表下0.85mまで盛土。	HL321	3
二条四坊十四町	中・麩屋町通夷川上る笹屋町471-2	10/15	地表下1.5mで平安の落込み、土師器高杯、緑釉陶器椀、須恵器壷。	HL293	3

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調　査　概　要	調査No.	図版
二条四坊十五町	上・御幸町通丸太町下る毘沙門町537-3	11/18	地表下0.6mまで盛土。	HL350	3
三条二坊　二町	中・猪熊通御池上る最上町380	7/9	No.1　地表下0.6m以下、平安末期・鎌倉の包含層、土師器、磁器、軒丸瓦。No.2　-1.2mで平安後期の湿地堆積、土師器、緑釉陶器、黒色土器、灰釉陶器、須恵器。	HL143	2
三条二坊　十町	中・油小路通押小路下る押油小路町259、258-1	7/8・15	地表下1.56m以下、江戸の池状堆積。	HL138	2
三条二坊十二町	中・東堀川通三条上る姉東堀川町78-1・4・5	6/17・24	地表下0.85m以下、流れ堆積。	HL119	2
三条三坊　二町	中・釜座通押小路下る下松屋町177	8/20～22	地表下1.4mで室町の包含層、土師器、陶器。	HL199	3
三条三坊　三町	中・新町通御池上る中之町41-6	6/5・11・14	地表下1.38m以下、流れ堆積。	HL099	3
三条三坊　三町	中・新町通押小路下る中之町45	8/21	地表下1.88mで室町の包含層、陶器、瓦器鍋。2.0m以下、黄褐色微砂の無遺物層。	HL205	3
三条三坊　四町	中・新町通三条上る町頭町115、117	6/28	地表下0.9mまで盛土。	HL132	3
三条三坊　九町	中・二条通烏丸西入東玉屋町486	11/6	地表下1.5mまで近世の包含層。	HL329	3
三条四坊　二町	中・高倉通御池上る柊町570	9/2・4・9	地表下1.64mで鎌倉～室町の包含層、土師器、陶器、瓦器。-1.9m以下、黄褐色粘土の無遺物層。	HL227	3
三条四坊　二町	中・東洞院通押小路下る船屋町412	10/11・29・30	地表下1.48mでにぶい黄褐色粘土の無遺物層を切って落込み、土師器、布目瓦。	HL289	3
三条四坊十五町	中・寺町通御池上る上本能寺前町470	4/15・17	No.1　地表下0.43m以下、平安後期・江戸の包含層、高杯、白磁椀。-1.98m以下、流れ堆積。No.2　-0.95m以下、平安・室町の包含層。-1.7m以下、暗灰黄色砂礫の無遺物層。	HL031	3
三条四坊十六町	中・押小路通柳馬場東入橘町623	10/28	地表下0.6mまで盛土・焼土層。	HL314	3
四条一坊十六町	中・三条通大宮西入上瓦町50-1	6/12・13・19	地表下1.4m以下青灰色砂泥と粗砂の互層堆積。敷地全体に広がる。土師器、須恵器。	HL108	4
四条二坊　一町	中・三条通猪熊西入御供町283、285	4/19	地表下1.55mで室町の包含層、土師器。	HL045	4
四条二坊　四町	下・四条通大宮東入立中町499	5/30・31, 6/3・4・7	No.1　地表下0.38mで包含層、土師器。-0.8mで時期不明の土壙、土師器片。No.2　-0.75mで近世の土壙。	HL091	4
四条二坊　五町	中・堀川通、錦小路通～四条通東側	8/1, 9/6・11・12, 10/2	No.1　地表下0.37m以下、路面10、桃山～江戸の包含層6。No.5　-0.59mで桃山～江戸の堀川小路路面5、包含層4。	HL187	4
四条二坊　八町	中・岩上通三条下る下八文字町712、714、717-1他	4/10・19	地表下2.1m以下、氾濫堆積。	HL022	4
四条二坊十三町	中・錦小路通油小路東入空也町490、492	10/26・29	No.1　地表下1.3mで平安後期・鎌倉の土壙、落込み、土師器、青磁皿・椀、白磁四耳壺、高杯脚部、須恵器甕。-1.8m以下、黒褐色粘土の無遺物層。No.2　-1.19m以下、平安中期～後期・鎌倉の包含層。	HL315	4
四条三坊　五町	中・錦小路通室町西入天神山町291	5/13	地表下0.3mまで盛土。	HL063	5
四条三坊　七町	中・室町通六角下る鯉山町523	7/25・29, 8/5・7	地表下2.8mで平安中期の落込み、室町・江戸の土壙。No.4　平安末期～鎌倉の包含層。79HK-QYで発掘調査済み。	HL170	5
四条四坊　一町	中・六角通東洞院東入滕屋町183-1・9・10	10/8・11・15・16	地表下1.83mで弥生の南北方向の流路、流路を切って平安中期・鎌倉・江戸の土壙。	HL283	5
四条四坊　二町	中・蛸薬師通東洞院東入泉正寺町337、339-1・3	7/9・15・22・26	地表下1.3mで江戸の包含層。	HL140	5
四条四坊　五町	中・錦小路通柳馬場西入中魚町484	10/2・7	巡回時、工事終了。	HL263	5
四条四坊　七町	中・堺町通六角下る甲屋町386-5・7、387	4/1・4	No.1　地表下1.2m以下、平安～鎌倉・室町の包含層。No.2　-0.9m以下、室町・江戸の包含層。No.3　-2.0mで桃山～江戸の土壙。No.4　-2.13mで弥生～庄内の甕1個体。No.5　-2.33mで弥生～庄内の甕1/4個体。No.7　-2.33mで鎌倉の土壙。**本文51ページ。**	HL001	5
五条一坊　三町	中・壬生辻町18-29・35	10/1・15	地表下0.3mで中世の包含層、土師器、須恵器、瓦。-0.45mで中世の土壙。	HL272	4
五条一坊十五町	下・大宮通綾小路下る綾大宮町41, 42, 45, 45-1, 47	12/3・10	地表下0.9mで灰黄褐色砂礫層。	HL372	4

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調　査　概　要	調査No.	図版
五条二坊　一町	下・猪熊通四条下る松本町260	9/11	No.1　地表下1.0mで江戸の井戸状遺構、染付、白磁。-1.3mで平安の包含層。No.2　-1.3mで室町の包含層。	HL236	4
五条二坊　二町	下・綾小路通猪熊西入丸屋町558、558-3・4・5	7/9～12	平安～江戸の遺構を多数検出。全面調査。**本文9ページ。**	HL145	4
五条二坊　三町	下・大宮通仏光寺下る五坊大宮町99	9/19	地表下1.1mで平安後期の包含層、土師器皿、数珠玉。	HL248	4
五条二坊十四町	下・西洞院通仏光寺下る本柳水町770	5/31	No.1　地表下0.92mで黒褐色砂泥の無遺物層を切って室町の土壙。No.2　-0.79mで室町の包含層。-1.1m以下、流れ堆積、西洞院川の跡か。	HL093	4
五条二坊十六町	下・西洞院通四条下る妙伝寺町719、721	7/9	地表下0.52mで黄褐色砂泥の無遺物層を切って土壙、土師器片。	HL139	4
五条三坊　六町	下・新町通高辻上る岩戸山町434-2	7/4・15・22	地表下1.3m以下、平安、鎌倉末期～室町の包含層、灰釉陶器、緑釉陶器。	HL137	5
五条四坊　十町	下・仏光寺通麩屋町西入仏光寺東町116	6/10	地表下1.03m以下、鎌倉・室町の包含層、土壙、落込み、土師器、瓦器、陶器。-2.24m以下、灰色砂礫の無遺物層。	HL106	5
五条四坊　十町	下・綾小路通麩屋町西入塩屋町56	9/27, 10/1	地表下1.2mで包含層、土師器、陶器。	HL258	5
五条四坊十五町	下・寺町通仏光寺上る中之町559他	6/10, 7/29	地表下2.06mで平安末期～鎌倉の包含層。-2.14m以下、褐色粗砂礫の無遺物層。	HL107	5
六条一坊　二町	下・中堂寺坊城町31-2	9/3・9	地表下0.8m以下、にぶい黄褐色砂礫の無遺物層。	HL228	4
六条二坊　一町	下・大宮通松原下る東側西門前町416	4/23・25, 5/1	No.1　地表下1.34m以下、平安の包含層、須恵器、緑釉陶器。No.2　-1.1m以下、灰オリーブ色粗砂の無遺物層。	HL050	4
六条二坊　二町	下・五条通猪熊西入柿本町592-2	12/18・25	地表下0.45mで包含層、土師器片、高杯の脚部。	HL390	4
六条三坊　二町	下・新町通五条上る材木町145	8/6～8	地表下1.09m以下、平安中期～後期。室町の包含層、白色土器、瓦器、青磁、瓦。-2.3m以下、灰オリーブ色砂泥の無遺物層。	HL189	5
六条三坊　三町	下・新町通五条下る蛭子町110-1・2	7/11	地表下1.29m以下、平安末期～鎌倉。室町の包含層、土師器、瓦器。	HL147	5
六条三坊　十町	下・万寿寺通烏丸西入御供石町350-2、352	11/22・28・29, 12/2	No.2　地表下1.2mで鎌倉の包含層、青白磁合子。-1.34mでオリーブ褐色砂泥の無遺物層を切って弥生の落込み、甕。No.3　-1.7mで江戸（18世紀後半）の水溜遺構。	HL352	5
六条三坊十二町	下・烏丸通六条下る北町182	5/13・15	地表下0.82mで江戸以降の包含層。1.23m以下、時期不明の六条大路路面3。	HL064	5
六条四坊　一町	下・東洞院通松原下る大江町547他	9/17～19	地表下1.09m以下、平安前期～後期の土壙、包含層、鎌倉の包含層。-1.85m以下、灰オリーブ色細砂の無遺物層。瓦器羽釜内から12枚の銅銭、鎌倉。**本文51ページ。**	HL249	5
六条四坊　二町	下・間ノ町通五条上る朝妻町115	6/26・27, 7/4	地表下0.47m以下、近世の包含層。	HL128	5
六条四坊　三町	下・高倉通五条下る堺町25、26	6/12	地表下1.65m以下、江戸の池状堆積。土師器皿、陶器。	HL113	5
六条四坊　九町	下・富小路通松原下る本上神明町457、457-1・2	11/15・21	地表下2.3mまで近世以降の盛土。	HL345	5
六条四坊十二町	下・富小路通五条下る本塩竈町550、546-2～4	10/3・15・24	地表下1.8mまで焼瓦を含む土壙。	HL268	5
六条四坊十三町	下・西木屋町通五条下る平居町72-1・3	5/28・29・31	地表下1.1m以下、流れ堆積。	HL089	5
七条一坊十一町	下・諏訪開町31	10/16・18	地表下0.4m以下、氾濫堆積。	HL301	6
七条二坊　一町	下・黒門通五条下る柿本町595	4/18・22	地表下1.4m以下、褐色粗砂の無遺物層。	HL032	6
七条二坊　五町	下・七条通猪熊東入西八百屋町135-1	7/8・9・17	地表下1.2mで包含層、土師器、布目瓦。	HL142	6
七条二坊十六町	下・西洞院通六条下る西側町491	4/18・22	No.1　地表下0.6m以下、桃山～江戸の包含層。No.2　-1.15mで西洞院川の西肩、鎌倉～室町。	HL036	6
七条三坊　二町	下・西洞院通花屋町下る西洞院町465-1・2	6/24・27	地表下1.13m以下、流れ堆積。	HL129	7
七条三坊十一町	下・烏丸通七条下る常葉町754	7/15	地表下0.3mまで盛土。	HL152	7
七条三坊十三町	下・烏丸通下珠数屋町下る橘町地先	8/21	地表下1.7mで鎌倉～室町の包含層、白磁皿。	HL203	7
七条四坊十二町	下・土手町通七条上る納屋町406、406-1、423-1	8/19・22	地表下1.3m以下、流れ堆積。	HL198	7
七条四坊十三町	下・三ノ宮通七条上る下三ノ宮町299	4/23・26	地表下0.8m以下、鴨川の流れ堆積。	HL043	7
八条一坊　二町	下・観喜寺町6-12	11/25	地表下1.0mまで盛土。	HL362	6

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
八条一坊　八町	下・観喜寺町３　大内小学校	6/19・24, 7/1	No.1　地表下0.57mで近世の東西溝。護岸の板杭列。No.2　-1.8mで鎌倉の土壙。No.3　-1.1mで八角形の木組井戸、鎌倉、曲物内から平瓦、銭。	HL122	6
八条二坊　二町	下・大宮通木津屋橋下る中之町24-1、26、28、30	10/1・3	地表下0.65mで平安末期～鎌倉の土壙群。-1.4m以下、灰色砂礫の無遺物層。	HL273	6
八条二坊十四町	下・油小路通塩小路下る東油小路町553他	6/17, 7/2, 8/5	地表下2.65m以下、流れ堆積。	HL120	6
八条三坊　七町	下・木津屋橋通新町東入東塩小路町690-6	4/18・5/27	No.1　地表下0.6m以下塩小路路面５。-1.05mで平安の包含層、緑釉陶器、黒色土器椀。No.2　-0.66m以下、鎌倉～室町。平安中期の包含層、緑釉陶器、白磁、須恵器。-1.64m以下、流れ堆積。No.3　平安後期～末期・平安中期の土壙、塩小路南側溝か。	HL035	7
八条四坊十一町	下・上之町15～西之町197	8/20, 12/16	地表下1.03m以下、室町の土師器を含む流れ堆積。	HL201	7
八条四坊十一町	下・下之町6-3	12/18	地表下0.4mまで撹乱。	HL389	7
八条四坊十二町	下・西之町108-3, 東之町33-2他	5/31	地表下0.95mで包含層、土師器片。	HL094	7
九条一坊　三町	南・八条内田町55	11/11・18	地表下0.5mで中世の包含層、土師器片。-0.85m以下、流路状堆積。	HL331	6
九条二坊　一町	南・東寺東門前町63、64	4/25, 5/1	地表下0.56mで包含層、染付。	HL054	6
九条二坊　五町	南・西九条川原城町111	6/13・17	地表下0.73m以下、流れ堆積。	HL115	6
九条三坊　九町	下・東塩小路釜殿町他２	12/6	地表下0.9m以下、流れ堆積。	HL375	7
九条三坊十三町	南・東九条烏丸町39	6/12	地表下0.4mで江戸の耕作土。	HL112	7
九条三坊十三町	南・東九条烏丸町30-4	10/1	No.1　地表下0.54mで暗褐色粘土の無遺物層を切って平安後期～鎌倉の落込み。No.2　-0.55m以下、平安後期・末期の包含層。	HL262	7
九条四坊　二町	南・東九条東山王町27　山王小学校	9/19	地表下0.33mまで盛土。	HL254	7

平安京右京（HR）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
一条大路	上・一条通六軒町西入三条殿町384-1	8/1・2	地表下0.2mまで盛土。	HR181	9
一条大路	上・一条通七本松西入東町35	11/22, 12/2	地表下2.4m以下、黄灰色砂泥の無遺物層。	HR358	9
北辺三坊　四町	北・大将軍一条町24-1	9/17～20	No.1　地表下0.34mで鎌倉～室町の包含層。-0.6mで平安後期の整地層。No.3　-0.7mで室町の土壙。	HR242	8
北辺四坊　一町	右・花園猪ノ毛町2-6	7/9	地表下0.45mで暗褐色泥砂層。	HR144	8
一条二坊十二町	中・西ノ京円町19-5	10/4・7～11	地表下0.6mで平安前期の溝、柱穴、土壙、遺物多量。**本文13ページ。**	HR285	9
一条二坊十六町	北・大将軍東鷹司町93	9/18	地表下0.34m以下、平安・鎌倉の包含層、青磁。-0.9mで古墳と思われる土師器。	HR247	9
一条三坊十一町	中・西ノ京馬代町7、6-4・5	7/16	地表下0.8mで黒褐色砂泥の旧耕作土。排土から緑釉陶器片。	HR155	8
一条三坊十一町	中・西ノ京馬代町13-4	11/25	地表下0.05mまで盛土。	HR360	8
二条大路	中・西ノ京栂尾町地先	11/15・18	地表下0.32mで５cm大の礫を多数含む層、路面の可能性有り。	HR347	9
二条四坊十三町	右・太秦安井西沢町17-2	7/22～24	地表下1.23m以下、明赤褐色砂泥の無遺物層。	HR167	8
三条一坊　三町	中・西ノ京栂尾町1-6	10/22	地表下0.9mまで盛土。	HR306	9
三条一坊　四町	中・西ノ京栂尾町～壬生朱雀町地先	11/7・27	地表下2.0mまで撹乱。	HR330	9
三条一坊　四町	中・西ノ京栂尾町1-7	11/25, 12/10	地表下1.5m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。	HR334	9
三条一坊　七町	中・西ノ京星池町17-50他　JR二条駅西口	8/26	地表下0.6m以下、黄褐色砂泥混礫の無遺物層。	HR218	9
三条一坊　十町	中・西ノ京永本町19-18	4/5	地表下1.2m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。	HR010	9
三条四坊　二町	右・山ノ内御堂殿町7-1	7/25・26	No.1　地表下0.48mで平安の包含層。No.2　-0.45m以下、黄灰色粘土の無遺物層。	HR174	8
三条四坊　六町	右・山ノ内五反田町3-1	6/17・19・24	地表下0.6mで平安の包含層、土師器。	HR118	8
四条一坊　四町	中・壬生御所ノ内町39、39-3	7/8・10・17	地表下0.8m以下、黄褐色砂礫の無遺物層。	HR141	11
四条二坊十一町	右・西院東淳和院町14-3	4/15・22	地表下0.3mまで盛土。	HR026	11

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調　査　概　要	調査No.	図版
四条二坊十一町	右・西院東淳和院町25	10/1・18	地表下0.75mで江戸の包含層。	HR271	11
四条三坊　四町	右・西院春日町17-1	4/18・25, 5/1	地表下0.5mで平安の包含層。	HR030	10
四条三坊　四町	右・西院春日町7-1	12/12・13	地表下0.65mまで盛土。	HR382	10
四条三坊　七町	右・西院下花田町5-1～8	8/1・2・6	地表下0.35mで近世の包含層。	HR185	10
四条三坊十四町	右・山ノ内赤山町7-2, 39-1, 8	4/1・3	地表下0.67mで鎌倉～室町の包含層。	HR005	10
四条四坊十二町	右・山ノ内池尻町地内	6/4～7・11	No.1　地表下0.8m以下、明黄褐色砂泥の無遺物層。No.5　-0.8mで包含層、土師器片。	HR098	10
五条一坊　三町	中・壬生松原町28-26・27・23	12/13・18	地表下0.64mで灰黄褐色砂礫の流れ堆積。	HR383	11
五条一坊　九町	中・壬生森前町10-8・9・15・16	6/12・17	地表下1.0mで近世の包含層。	HR109	11
五条二坊十三町	右・西院西平町7-1・2	8/23	地表下0.2mまで盛土。	HR217	11
五条三坊　九町	右・西院坤町63-1・65・66	11/21・22・25・26・28	西院城に関係すると思われる室町の溝、土壙、近世の井戸状遺構。**本文21ページ。**	HR357	10
五条四坊　四町	右・西院清水町3-2	12/16・25	地表下1.1m以下、湿地状堆積。	HR384	10
五条四坊十二町	右・西院月双町2	7/26・30	No.1　地表下0.9mで時期不明の包含層、土師器片。No.2　-0.75mで弥生の土壙、土器片。	HR175	10
五条四坊十五町	右・西院東貝川町51	7/1・3・9・17	No.2　地表下1.07mで平安の土壙、須恵器、瓦器、磁器。-1.31mで弥生の包含層。調査区南側でNo.2の平安の包含層の続き、高杯の脚部、土師器、瓦器、瓦。	HR133	10
六条一坊十一町	下・中堂寺粟田町1-5の一部	10/31	巡回時、工事終了。	HR325	11
六条一坊十四町	下・中堂寺粟田町28	4/19・24	地表下1.25mまで遺構、遺物検出できず。	HR041	11
六条一坊十四町	下・中堂寺粟田町1-5の一部	10/1	地表下0.7mまで盛土。	HR274	11
六条二坊　三町	下・西七条赤社町31-1	6/24, 7/1	地表下0.76m以下、流路堆積。	HR124	11
六条二坊　三町	下・西七条東御前田町24外7筆, 赤社町20-1外8筆	11/19	地表下0.35mまで盛土。	HR355	11
六条三坊　三町	右・西院溝崎町11	7/10	地表下0.7mまで盛土。	HR146	10
六条三坊　三町	右・高辻通～五条、佐井通～西大路通他地内	4/8, 5/7・9・13・15・21	地表下0.6m以下、佐井川の堆積層。	HR017	10
六条三坊十二町	右・西京極北庄境町8・9	10/2・4	地表下0.7m以下、包含層、土師器、瓦片。	HR276	10
六条四坊十二町	右・西京極東大丸町11-2	10/15・21	地表下0.8mで湿地堆積。	HR298	10
六条四坊十五町	右・西京極葛野町38　光華女子学園	8/9	地表下2.3mまで遺構、遺物検出できず。	HR195	10
六条四坊十五町	右・西京極葛野町38　光華女子学園	10/7・15・18・31	地表下2.1m以下、褐色砂礫の無遺物層。	HR287	10
六条四坊十六町	右・西京極葛野町2	4/10・11・22	地表下2.2mで湿地堆積。	HR023	10
七条二坊　八町	下・西七条西石ヶ坪町5　七条第三小学校	11/19	地表下1.1m以下、氾濫堆積。	HR354	13
七条二坊　九町	下・西七条掛越町41	5/7・14	地表下0.6m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。	HR066	13
七条二坊　九町	下・西七条掛越町39-1・2、40-1・2	7/26・29	地表下1.0mで黄褐色砂泥の無遺物層。	HR177	13
七条四坊十一町	右・西京極北裏町27-1, 西京極西川町13-2の一部	11/12～14・18	No.1　地表下0.9m以下、平安前期～鎌倉の包含層2、須恵器、緑釉陶器、瓦器、白磁片。No.2　-1.3mで平安～鎌倉の東西溝状遺構、須恵器、緑釉陶器。No.3　-1.1mで平安の柱穴、土師器、黒色土器。	HR339	12
八条二坊　一町	下・西七条南中野町46	5/13・14・20・21	No.1　地表下1.1m以下、流路堆積。-1.47m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。No.2　-0.5mで平安の包含層、緑釉陶器、灰釉陶器。No.3　-0.7mで時期不明の土壙、陶器、磁器。	HR069	13
八条二坊　二町	下・西七条石井町61　七条小学校	7/16	地表下0.5mまで盛土。	HR161	13
八条二坊十二町	下・七条御所ノ内町90-2	5/16・17	地表下0.8m以下、湿地堆積。	HR070	13
八条二坊十二町	下・七条御所ノ内本町69	9/5・9	地表下0.85mで鎌倉の包含層、土師器皿、瓦。-1.13m以下、流れ堆積。	HR232	13
八条三坊　一町	下・西七条南月読町35	9/27, 10/1	地表下0.7mまで遺構、遺物検出できず。	HR265	12
八条四坊　三町	右・西京極中沢町～南・吉祥院西ノ庄向田町地先	10/17・18・21・24・25, 11/5	No.1　地表下1.3m以下、流れ堆積。No.2　-1.05m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。No.4　-0.9mで時期不明の落込み。	HR305	12
九条一坊十一町	南・唐橋花園町18-12	7/17	地表下0.4mまで盛土。	HR162	13
九条二坊十五町	南・吉祥院西ノ庄門口町2-1	10/4・7	No.1　地表下0.81mで平安の包含層、土師器、須恵器、黒色土器。No.2　-0.95mで平安の佐井大路東側溝、緑釉陶器、須恵器。No.3　No.2の溝の西肩。	HR286	13
九条三坊　十町	南・吉祥院西ノ庄西中町37-1他4筆	12/26	地表下0.7m以下、褐灰色砂礫の氾濫堆積。	HR395	12

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
九条三坊十二町	南・吉祥院西ノ庄猪之馬場町1	8/20・23	地表下1.4mで黄灰色砂泥の無遺物層。	HR206	12

洛北地区（RH）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
一条室町殿跡	上・室町通武者小路下る福長町532	8/30, 9/2・3	地表下1.95mで鎌倉～室町の包含層。	RH225	
出雲寺跡	上・上御霊前通寺町西入上御霊馬場町379-2	7/18	地表下0.5mで小穴、土師器片。-0.65m以下、暗褐色砂礫の無遺物層。	RH164	
北野遺跡	北・平野宮本町19-6　衣笠小学校	8/22, 9/3	No.3　地表下0.5mで時期不明の土壙、土師器片。No.5　-0.52mで飛鳥の土壙、須恵器蓋、土師器高台片。No.7　-0.2mで飛鳥の土壙、土師器皿。No.8　-0.6mで室町の包含層。	RH212	
北野遺跡・北野廃寺	北・北野下白梅町地先	7/4・5	地表下0.5m以下、黒色砂泥の無遺物層。	RH157	
北野遺跡・北野廃寺	上・一条通御前西入三丁目西町1-3	8/23・26	地表下0.8mで中世の包含層。-1.0m以下、黄褐色砂の無遺物層。	RH216	
北野遺跡・北野廃寺	北・北野紅梅町57	10/7	地表下0.4mで飛鳥の土壙2、室町後期の土壙3、土師器甕、格子目叩きの瓦。-0.6m以下、明褐色粘土の無遺物層。	RH282	
北野遺跡・北野廃寺	北・北野紅梅町47	10/16・17	地表下0.6mで平安の包含層、土師器。	RH299	
相国寺旧境内	上・室町通上立売上る室町頭町261	11/15・28	No.1　地表下0.82m以下、室町の包含層。-1.04mで土壙、時期不明。-1.25m以下、黒褐色粘土の無遺物層。No.2　-0.66mで井戸。-1.05mで室町の包含層。	RH340	
相国寺旧境内	上・室町通上立売上る柳図子町　室町小学校	12/12・13	地表下1.7mで室町の土壙、土師器、瓦。-2.0m以下、にぶい黄褐色粘土の無遺物層。	RH379	
植物園北遺跡	北・上賀茂榊田町33-1, 34	4/8・11	地表下0.25m以下、褐色砂泥の無遺物層。	RH018	
植物園北遺跡	左・下鴨前萩町5-1	8/30・9/2～5	縄文の土壙1、古墳前期の竪穴住居1、掘立柱建物1。**本文24ページ。**	RH224	
植物園北遺跡	北・上賀茂松本町84　西松本児童公園	10/2	地表下0.9m以下、褐色砂礫の氾濫堆積。	RH277	
植物園北遺跡	北・上賀茂石計町75-2	10/16・18	地表下0.87m以下、黄灰色砂泥の無遺物層。	RH300	
植物園北遺跡	北・上賀茂高縄手町95	10/17・28・30	地表下0.2mで耕作土。	RH318	
植物園北遺跡	北・上賀茂竹ヶ鼻町25	10/30	地表下0.2mまで盛土。	RH323	
植物園北遺跡	北・上賀茂高縄手町71	12/2・9	地表下0.5m以下、黄褐色泥砂の無遺物層。	RH367	
植物園北遺跡	左・松ヶ崎呼返町24	12/9	地表下0.2mまで盛土。	RH378	
室町殿跡	上・烏丸通寺ノ内上る相国寺門前町647-8	12/20	地表下1.1mまで撹乱。	RH391	
平安京跡隣接地	上・堀川通、中立売通～今出川通	4/9	地表下0.55mまで盛土。	RH020	
妙満寺窯跡	左・岩倉幡枝町743-7	9/18・25	地表下0.42mで岩盤。	RH246	
元稲荷窯跡	左・岩倉幡枝町601-74	6/27	地表下0.5mまで盛土。	RH131	

太秦地区（UZ）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
一ノ井遺跡	右・太秦垣内町3-11	7/26	地表下0.2mで平安後期の包含層、磁器。-0.48mで時期不明の落込み、土師器片。	UZ176	
円乗寺跡	右・御室竪町19　御室小学校	12/6・13	地表下0.42m以下、包含層2、土師器片。-0.62m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。	UZ377	
清水山古墳	右・西高瀬川南側、梅津街道～天神川通地内	9/27, 10/13・16・17・30, 11/5・6・18	No.2　地表下1.4m以下、黄灰色砂泥の無遺物層。No.3　-1.3mで落込み、遺物なし。No.6　-1.2mで東西方向の杭列。杭の間隔は0.4～1.6mで6本検出。西高瀬川の南限か。	UZ264	
常盤東ノ町古墳群・仁和寺院家跡	右・常盤一ノ井町7-3	5/10・15	地表下1.4m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。	UZ061	
仁和寺院家跡	右・常盤山下町6-4・16	6/13・17	地表下0.5mで室町の包含層。	UZ114	
仁和寺院家跡	右・宇多野御屋敷町1-18、1-8の一部	9/17～19	地表下0.6m以下、平安中期・後期の池状堆積、土師器、木片。	UZ237	
仁和寺院家跡	右・常盤御池町5-2	11/25・26	地表下0.25mで包含層、布目瓦。	UZ361	

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
法金剛院境内	右・花園寺ノ内町26-3	11/16	地表下0.3mで鎌倉～室町の包含層。-0.5mで平安の柱穴。-0.67m以下、灰白色粘土の無遺物層。	UZ348	
森ヶ東瓦窯跡	右・太秦和泉式部町12	5/8～10・13	地表下1.2mで江戸の包含層。-1.5m以下、褐色砂礫の無遺物層。瓦窯関係の遺構は検出できず。	UZ067	

北白川地区（KS）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
岡崎遺跡・延勝寺跡	左・北門前町地先	8/22・23・26	地表下1.0mまで攪乱。	KS210	
岡崎遺跡・尊勝寺跡	左・岡崎最勝寺町13　京都会館	4/30	地表下0.7mまで盛土。	KS055	
岡崎遺跡・尊勝寺跡	左・岡崎西天王町74	6/12・17・19・20	No.1　地表下1.03m以下、路面2。No.4　-0.84mで路面、-1.04で路面に伴う溝。路面は尊勝寺の北側の道路。**本文43ページ。**	KS111	
岡崎遺跡・尊勝寺跡	左・岡崎最勝寺町13	7/3・4・15	地表下1.0mで南北方向の路面3面以上、東西12m確認。尊勝寺と最勝寺の間の南北道路。**本文42ページ。**	KS136	
岡崎遺跡・尊勝寺跡	左・岡崎西天王町61-7・8	7/11	地表下0.4mまで盛土。排土中より布目瓦。	KS149	
岡崎遺跡・法勝寺跡	左・岡崎天王町40	8/27	地表下0.1mまで盛土。	KS221	
岡崎遺跡・法勝寺跡	左・岡崎南御所町7-1	11/28, 12/2	地表下0.6m以下、室町の包含層。-0.9m以下、流れ堆積。	KS365	
岡崎遺跡・白河街区跡	左・聖護院円頓美町25-1・5・6	6/27, 7/1	No.1　地表下0.77m以下、中世の包含層。No.2　-1.02mで鎌倉の包含層、時期不明の落込み。No.4　-1.1mで褐色細砂の無遺物層を切って平安後期～鎌倉の東西溝、No.7地点でも確認。**本文43ページ。**	KS130	
北白川廃寺	左・北白川東瀬ノ内町12	4/8～10	地表下0.54m以下、平安前期～中期の包含層。排土より縄文土器、瓦、緑釉陶器。	KS012	
北白川廃寺	左・北白川東瀬ノ内町	6/19	地表下0.85mまで盛土。	KS125	
北白川廃寺	左・北白川東瀬ノ内町25	6/19	地表下0.5mまで盛土。	KS126	
北白川廃寺	左・北白川大堂町14-1	9/10	巡回時、工事終了。	KS235	
北白川廃寺	左・北白川東瀬ノ内町13	9/24	掘削なし。	KS257	
北白川廃寺	左・北白川東瀬ノ内町52	11/5・21・28	西側道路面より＋0.51mで包含層、土師器片。	KS326	
京都大学教養部構内遺跡	左・吉田中大路町8-1	4/11・12	No.1　地表下1.65mで火山灰層。No.2　-0.4mで鎌倉・桃山の土壙。	KS027	
京都大学総合人間学部構内遺跡	左・吉田二本松町54-1・6、56-2	10/17・18	No.3　地表下0.3mで鎌倉の土壙、土師器皿。No.2で-0.7m、No.3で-0.3mで堀状遺構、敷地北西から南、東へL字形に続く、平安末期～鎌倉。	KS297	
京都大学北部構内遺跡	左・北白川西町地先	11/18・19	No.1　縄文後期の包含層3。No.2　縄文後期の包含層。**本文32ページ。**	KS346	
京都大学北部構内遺跡	左・田中樋ノ口町94	11/25・26	地表下0.78m以下、流れ堆積。	KS356	
白河街区跡	左・岡崎北御所町10	11/7・11	地表下0.45m以下、鎌倉の包含層2。白磁把手、陶器鉢、瓦器羽釜・鍋。	KS332	
白河北殿跡	左・東丸太町43-1	9/11・12	地表下0.72m以下、流れ堆積。	KS239	
白河北殿跡	左・聖護院川原町25-13・29、26-5・7	11/18	地表下0.3mまで盛土。	KS349	
白河南殿跡	左・吉永町274-2	8/26	地表下0.35mまで盛土。	KS220	

南・桂地区（MK）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
大藪遺跡	南・久世殿城町539-2	9/27, 10/1	地表下0.45mで旧耕作土。	MK266	
上久世遺跡	南・久世上久世町381	9/24, 10/1	地表下1.1m以下、青灰色泥土の湿地堆積。	MK252	
散布地	西・大原野上里北ノ里町, 大原野上羽町	5/23	地表下1.0m以下、黒褐色砂泥の無遺物層。	MK279	
徳大寺遺跡	西・桂徳大寺町　徳大寺児童公園	4/9	地表下1.2m以下、暗褐色砂礫の氾濫堆積。	MK021	

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
中久世遺跡	南・久世中久世町五丁目　中久南児童公園	4/15	地表下0.85m以下、褐色砂泥の無遺物層。	MK029	
中久世遺跡	南・久世中久世町	5/20, 6/3	地表下1.25m以下、オリーブ褐色細砂の無遺物層。	MK076	
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目83	7/22・24	地表下0.58mで近世の包含層、陶器。	MK168	
灰方古墳群	西・大原野灰方町394-2	4/2・4・5・30, 5/10	2箇所で古墳の石室を検出。土師質の陶棺の一部出土。発掘調査に切り替え。	MK008	
福西古墳群	西・大枝東長町1-126他	5/10・13	地表下1.2mまで遺構・遺物検出できず。	MK062	
松室遺跡	西・松室北河原町55-3・4	6/10	地表下0.6mまで盛土。	MK105	

洛東地区（RT）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
安朱遺跡	山・安朱桟敷町8-2	11/12・15	地表下1.09mで包含層、瓦器片。	RT336	
安朱遺跡	山・安朱桟敷町	6/14・17・19	地表下0.28mにて江戸の落込み。	RT116	
大宅廃寺	山・大宅中小路町地先	5/15・16	地表下0.6mで包含層、土師器皿。-0.98m以下、褐色粘土の無遺物層。	RT073	
大宅廃寺	山・府道大津淀線、椥辻道～名神高架下	11/12	巡回時、工事終了。	RT338	
芝町遺跡	山・四ノ宮奈良野町75-1の一部、76	4/25	地表下2.88m以下、褐色粘土の無遺物層。	RT051	
鳥辺野	東・渋谷街道、上馬町～今熊野阿弥陀ヶ峯町地内	5/29, 6/3・6・11・14・17・19	地表下0.2m以下、明黄褐色砂泥の無遺物層。	RT090	
中臣遺跡	山・勧修寺西金ヶ崎212-5	4/1	掘削なし。	RT002	
中臣遺跡	山・栗栖野打越町、栗栖野中臣町地先	4/4・10・11	地表下0.35mで落込み。-0.63m以下、明黄褐色粘土の無遺物層。	RT011	
中臣遺跡	山・椥辻番所ヶ口町37-9	4/10	地表下0.32mまで盛土。	RT014	
中臣遺跡	山・勧修寺東金ヶ崎町4-14	4/19	地表下0.5mまで盛土。	RT037	
中臣遺跡	山・西野山中臣町75	4/23	地表下0.31m以下、褐色粘土の無遺物層。	RT044	
中臣遺跡	山・西野山中臣町75	4/23	地表下0.31m以下、褐色粘土の無遺物層。	RT046	
中臣遺跡	山・西野山中臣町75	4/23	地表下0.31m以下、褐色粘土の無遺物層。	RT047	
中臣遺跡	山・西野山中臣町75	4/23	地表下0.31m以下、褐色粘土の無遺物層。	RT048	
中臣遺跡	山・栗栖野打越町地先	5/15	巡回時、工事終了。	RT074	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町277-2	5/21	地表下0.2mまで耕作土。	RT083	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町276-2	5/21	地表下0.2mまで耕作土。	RT084	
中臣遺跡	山・栗栖野打越町23-4	5/23	地表下0.3mまで盛土。	RT085	
中臣遺跡	山・勧修寺東金ヶ崎町49	6/7	掘削なし。	RT102	
中臣遺跡	山・西野山中臣町地先	6/19	地表下0.42m以下、にぶい黄褐色粘土の無遺物層。	RT121	
中臣遺跡	山・栗栖野打越町8-51	7/12	巡回時、工事終了。	RT150	
中臣遺跡	山・栗栖野打越町7-31	7/18	地表下0.32mでにぶい黄褐色泥砂の無遺物層を切って落込み、遺物なく時期不明。	RT153	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町277-5	7/25	巡回時、工事終了。	RT169	
中臣遺跡	山・栗栖野打越町32-4、321	8/9	地表下0.8m以下、褐色粘土の無遺物層。	RT192	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町277-6	8/29	地表下0.8m以下、褐色粘土の無遺物層。	RT223	
中臣遺跡	山・勧修寺西金ヶ崎246、247、248、255	9/6・9	地表下0.82mまで耕作土。1.02mで黒褐色粘土。	RT233	
中臣遺跡	山・栗栖野華ノ木町15-6	9/12・18	地表下0.42m以下、にぶい黄褐色粘土の無遺物層。	RT245	
中臣遺跡	山・栗栖野狐塚町5-1他	10/21	地表下1.2mまで盛土。	RT308	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町249、250	11/5	地表下1.03mまで盛土。	RT328	
法興院跡	中・中筋通竹屋町上る末丸町280他	9/4・19	地表下0.81mで桃山～江戸の土壙。	RT231	
法興院跡	中・中筋通竹屋町上る末丸町268	10/9	地表下0.43m以下、砂礫の流れ堆積。	RT284	
法住寺殿跡	東・JR東海道線北側、本町通～東大路通地内	8/20・23, 9/9・18・24, 10/17	No.2　地表下0.94m以下、整地層2、包含層、土師器片。No.5　-0.3mで灰白色粘土の無遺物層を切って土壙、土師器、陶器。	RT200	
法住寺殿跡	東・今熊野椥ノ森町45-6・7・8	9/19	地表下1.35mまで盛土。	RT255	
法住寺殿跡	東・今熊野池田町12　大谷高校	11/11, 12/2	地表下2.0mまで盛土。排土より須恵器壺、土師器。	RT335	
法住寺殿跡	東・東瓦町964	12/25	地表下1.15mで包含層、土師器片。	RT394	

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
法住寺殿跡・六波羅政庁跡	東・茶屋町519、520	4/3	地表下0.33mで包含層、土師器片。-0.46m以下、灰オリーブ色微砂の無遺物層。	RT006	
法性寺跡	東・本町十五丁目749	7/29, 8/6・7・22	地表下0.4m以下、黄色粘土の無遺物層。	RT171	
法性寺跡	東・本町十五丁目	9/25, 10/4・7・9・15	地表下0.72mで鎌倉～江戸の路面。-0.9m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。	RT259	
法性寺跡	東・本町十五丁目	10/15, 12/9・11・13・16	No.2　地表下0.3mで整地層、瓦器、瓦片。No.4 -0.13m以下、包含層、瓦片。-0.6m以下、灰色粘土の無遺物層。	RT294	
法性寺跡	東・本町十五丁目地先	10/24	地表下0.62m以下、明黄褐色粘土の無遺物層。	RT309	
山科本願寺跡	山・西野離宮町40-14・15・16	8/29, 9/3	地表下0.3mで中世の包含層、土師器皿、陶器甕。-0.44mで東西方向の溝、時期不明。-0.7m以下、暗褐色砂泥の無遺物層。	RT222	
六波羅政庁跡	東・妙法院前側町421、鐘鋳町412-1・2・3	9/11	地表下1.25mまで盛土。	RT240	
六波羅政庁跡	東・本町三丁目93-1・3・4・5他	10/2・7・11	地表下1.46mで江戸の包含層。-1.88m以下、褐色粗砂礫の無遺物層。	RT267	
六波羅政庁跡	東・石垣町西側51	10/11	地表下0.29m以下、包含層2、土師器片。-0.64m以下、褐色粘土の無遺物層。	RT290	

鳥羽地区（TB）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
上鳥羽遺跡	南・上鳥羽南花名町19	7/31	地表下0.93m以下、湿地堆積。	TB184	
唐橋遺跡	南・西大路通西側、九条通～十条通他地内	5/21～8/2	地表下1.0mで氾濫堆積。	TB078	
下鳥羽遺跡	伏・竹田松林町34	8/30	地表下0.86mで包含層、土師器片。	TB226	
下三栖遺跡	伏・横大路下三栖城ノ前町	7/～10/1	古墳時代の遺物が多量に出土。**本文46ページ。**	TB183	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町222-1	4/19	地表下0.4mまで盛土。	TB040	
鳥羽離宮跡	伏・竹田鳥川町58、58-1	5/21	地表下0.8mまで盛土・旧耕作土。	TB082	
鳥羽離宮跡	伏・竹田桶ノ井町51-5	5/27	地表下0.6mまで盛土・旧耕作土。	TB086	
鳥羽離宮跡	伏・中島中道町10-1、11-1・3、12-1・2	6/4	地表下1.1m以下、池の埋土か。	TB096	
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町73-2、小屋ノ内町14-1	7/29	地表下0.6mまで盛土。	TB172	
鳥羽離宮跡	伏・中島堀端町58-1の一部	8/7	地表下1.35mで包含層、黒色土器片。	TB190	
鳥羽離宮跡	伏・中島御所ノ内町37-2の一部	9/11	地表下0.4mまで盛土。	TB241	
鳥羽離宮跡	伏・中島中道町778-1	9/12・15	地表下0.9mまで盛土・旧耕作土。	TB244	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町149-3	9/17	地表下0.85mまで盛土。	TB250	
鳥羽離宮跡	伏・下鳥羽北ノ口町33-6	9/25, 12/13	地表下0.5mで耕作土。1.4m以下、粘土・微砂の湿地堆積。	TB260	
鳥羽離宮跡	南・上鳥羽火打形町41-4、44	9/27, 11/19	地表下1.3mまで盛土。	TB261	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町、竹田真幡木町地先	10/17・18	地表下1.3m以下、湿地堆積。	TB303	
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町53-1	10/17	地表下1.19m以下、湿地（池内）堆積。	TB304	
鳥羽離宮跡	伏・竹田田中殿町15-1	10/25	地表下1.8mまで盛土。	TB313	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町43-4	12/12	地表下0.77mで耕作土。以下、粘土層。	TB381	
深草遺跡	伏・深草塚本町地先	9/12・18, 10/1・2・4・7	地表下0.47m以下、砂泥層の流れ堆積。	TB243	
深草遺跡	伏・深草西浦町四丁目33-1・2・3、32-1の一部	10/11	地表下1.17mで室町の包含層。	TB291	

伏見・醍醐地区（FD）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
極楽寺跡	伏・深草野手町18-1・7	5/20・21・23・27	地表下0.6m以下、包含層4、土師器甕、須恵器杯。-1.18mで褐色細砂の無遺物層を切って平安中期の柱穴、黒色土器椀。方形の土壙、土師器甕、須恵器杯。	FD080	
伏見城跡	伏・京町大黒町138-1	4/2	地表下0.4mまで盛土。	FD003	
伏見城跡	伏・東大手町779	4/11・12・15・17・22	No.1　地表下1.88mで桃山～江戸の堀内堆積、染付皿、漆器椀。No.2　堀の石垣を南北8.3m以上確認。6段積み。	FD028	

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
伏見城跡	伏・桃山福島太夫西町8-1	4/17・19・22	地表下0.55mで褐色粘土の無遺物層を切って桃山の柱穴状遺構2、瓦。	FD033	
伏見城跡	伏・羽柴長吉西町8,8-3・4	5/1	巡回時、工事終了。	FD057	
伏見城跡	伏・両替町四丁目292-1他	5/2・13・14・16	No.1 地表下0.75mで時期不明の東西溝。No.4 -0.6mで時期不明の落込み。-0.9m以下、暗褐色粘土の無遺物層。	FD058	
伏見城跡	伏・西大手町322	5/13	地表下0.55mまで盛土。	FD071	
伏見城跡	伏・桃山水野左近東町73-2	6/4・5・10・13・20・25	地表下0.45m以下、褐色粘土の無遺物層。	FD095	
伏見城跡	伏・鷹匠町3	6/7・10・13	地表下0.4mで江戸の土壙、土師器、胞衣壷蓋。-0.88m以下、褐色砂泥の無遺物層。	FD103	
伏見城跡	伏・下油掛町159-1,161-1,車町299-7	7/2	地表下1.67mで江戸の包含層、染付。	FD135	
伏見城跡	伏・鍋島町～桃山町立売他地内	7/24・26・29	No.1 地表下0.3m以下、路面5。No.2 -0.25m以下、路面5。-0.68m以下、にぶい黄褐色微砂の無遺物層。	FD163	
伏見城跡	伏・周防町336-3の一部、336	7/24	地表下1.09mまで盛土。	FD166	
伏見城跡	伏・大亀谷内膳町21	7/29	巡回時、工事終了。	FD182	
伏見城跡	伏・銀座4丁目277	8/20・26	地表下1.07mで明褐色粘土の無遺物層を切って桃山～江戸の土壙、陶器鉢、染付椀・鉢、土師器、瓦、砥石。	FD202	
伏見城跡	伏・竹中町609	8/26	地表下0.85mまで盛土。	FD219	
伏見城跡	伏・京町通六丁目～四丁目地先	10/24,11/29,12/3・6	No.1 地表下0.3m以下、路面5。-0.47m以下、褐色粘土の無遺物層。No.2 -0.22m以下、路面7。-0.63m以下、黄褐色粘土の無遺物層。No.3 -0.26m以下、路面3、整地層2。	FD320	
伏見城跡	伏・柿本浜町423	11/7・11・12	地表下0.69mで近世の包含層、瓦、焙烙。	FD333	

長岡京地区（NG）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
長岡京跡	伏・府道京都守口線、納所交差点～大久保街道地内	4/2	地表下0.67mまで撹乱、盛土。	NG007	
長岡京跡	伏・羽束師菱川町地先	4/12・17	地表下1.15mまで灰色粗砂層。	NG025	
長岡京跡	西・大原野上里紅葉町～大原野上里勝山町地先	4/18・23,6/4・6・7・13・14	地表下1.3mで旧耕作土。	NG038	
長岡京跡	伏・久我森の宮町15-5	4/23,7/30	地表下0.66mで褐色砂泥層。	NG049	
長岡京跡	伏・羽束師志水町129-1・3	5/27	地表下0.85mまで盛土。	NG088	
長岡京跡	伏・羽束師古川町70	6/3・15・16	No.1 地表下0.8mで江戸の包含層。No.2 -0.7m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。	NG097	
長岡京跡	西・大原野上里勝山町地先	6/25・27,7/1・30	地表下1.13mまで撹乱。	NG127	
長岡京跡	伏・横大路西海道62-2	7/11・15	地表下0.53mで路面状遺構。	NG148	
長岡京跡	伏・葭島渡場島町32	7/15・8/19	地表下1.2mまで盛土。	NG151	
長岡京跡	西・大原野上里北ノ町669-1	7/15・16	地表下1.08mまで盛土。	NG154	
長岡京跡	西・大原野上里鳥町地先	8/21・23,9/9	地表下0.45m以下、湿地堆積。	NG209	
長岡京跡	伏・羽束師菱川町569-1	9/17,10/2	地表下1.55mの盛土・耕土下に灰色泥土層。	NG238	
長岡京跡	伏・羽束師菱川町地先	9/25,10/15	地表下1.0mの盛土下に旧耕土。	NG256	
長岡京跡	伏・羽束師菱川町487-1	10/2	地表下0.35mで灰褐色砂泥層。旧耕作土か。	NG275	
長岡京跡	西・大原野上里男鹿町,紅葉町地先	10/15・22,12/10	地表下1.5mまで盛土。	NG280	
長岡京跡	伏・羽束師菱川町334-1	10/11・16・18,11/15	地表下1.05m以下、黄灰色粘土層。	NG292	
長岡京跡	伏・納所星柳7-6	10/21	地表下1.2mまで盛土。	NG310	
長岡京跡	伏・久我西出町3-10・11	10/23,11/5	地表下1.36m以下、黄灰色砂泥の無遺物層。	NG311	
長岡京跡	伏・久我本町11-44	11/19・27	地表下0.4mまで盛土。	NG353	
長岡京跡	南・久世大薮町521-2、520-2・3	11/25	地表下0.1mまで盛土。	NG363	
長岡京跡	伏・羽束師菱川町地内	12/16・25	地表下1.1mまで盛土。	NG385	
長岡京跡・上里遺跡	西・大原野上里男鹿町地先	4/18・23,5/2・15・23	地表下1.3mまで盛土。	NG039	

報告書抄録

ふ り が な	きょうとしないいせきたちあいちょうさがいほう
書　　名	京都市内遺跡立会調査概報　平成８年度
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	本　弥八郎、吉本健吾、長戸満男、髙橋　潔、竜子正彦、尾藤徳行、堀内明博、近藤章子
編 集 機 関	(財)京都市埋蔵文化財研究所
所 在 地	〒602　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1　TEL075-415-0521
発 行 機 関	京都市文化市民局
所 在 地	〒604　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488　TEL075-222-3108
発 行 年 月 日	西暦1997年３月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積 m²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安宮跡太政官	京都府京都市上京区浄福寺通丸太町下る東入主税町	26100		35度０分51秒	135度44分53秒	1996. 3.11～3.18		医院・住宅
平安京跡左京五条二坊二町	京都府京都市下京区綾小路通猪熊西入丸屋町	26100		34度59分57秒	135度45分11秒	1996. 7. 9～7.12		マンション
平安京跡右京一条二坊十二町	京都府京都市中京区西ノ京円町	26100		35度０分56秒	135度44分６秒	1996.10. 7～11		マンション
平安京跡右京五条三坊九町西院城跡	京都府京都市右京区西院坤町	26100		35度０分０秒	135度43分48秒	1996.11.21～28		マンション

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安宮跡太政官	都城	平安	瓦溜・溝・土壙・整地層	瓦	
平安京跡左京五条二坊二町	都城	平安・江戸	建物・井戸・土壙	土器類・瓦・緑釉土塔	
平安京跡右京一条二坊十二町	都城	平安前期	溝・柱穴	土器類・金属製品	
平安京跡右京五条三坊九町西院城跡	都城・城郭	中世	溝・井戸	土器類・木製品	

ふ り が な	きょうとしないいせきたちあいちょうさがいほう
書　　名	京都市内遺跡立会調査概報　平成８年度
副 書 名	
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	本　弥八郎、吉本健吾、長戸満男、高橋　潔、竜子正彦、尾藤徳行、堀内明博、近藤章子
編 集 機 関	(財)京都市埋蔵文化財研究所
所　在　地	〒602　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1　TEL075-415-0521
発 行 機 関	京都市文化市民局
所　在　地	〒604　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488　TEL075-222-3108
発 行 年 月 日	西暦1997年３月31日

所収遺跡名	所　在　地	コード		北　緯	東　緯	調査期間	調査面積 m²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
植物園北遺跡	京都府京都市左京区下鴨前萩町	26100		35度２分53秒	135度46分15秒	1996. 8.30～9. 5		共同住宅
京都大学北部構内遺跡	京都府京都市左京区北白川西町	26100		35度１分32秒	135度47分20秒	1996.11.18～11.19		活断層調査
白河街区跡岡崎遺跡	京都府京都市左京区岡崎最勝寺町他	26100		35度０分42秒	135度47分５秒	1995. 9.20～1996. 6. 7		電気通信管路新設・撤去
白河街区跡岡崎遺跡	京都府京都市左京区岡崎最勝寺町	26100		35度０分42秒	135度47分５秒	1996. 7. 3～7.15		店舗

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
植物園北遺跡	集落	縄文～古墳	竪穴住居・掘立柱建物	土器類	
京都大学北部構内遺跡	集落	縄文	集石遺構・遺物包含層	土器類	
白河街区跡岡崎遺跡	寺院・集落	平安後期	溝・路面	土器類・瓦	
白河街区跡岡崎遺跡	寺院・集落	平安後期	溝・路面	土器類・瓦	

ふ り が な	きょうとしないいせきたちあいちょうさがいほう
書　　名	京都市内遺跡立会調査概報　平成８年度
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	本　弥八郎、吉本健吾、長戸満男、高橋　潔、竜子正彦、尾藤徳行、堀内明博、近藤章子
編 集 機 関	㈶京都市埋蔵文化財研究所
所 在 地	〒602　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1　TEL075-415-0521
発 行 機 関	京都市文化市民局
所 在 地	〒604　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488　TEL075-222-3108
発 行 年 月 日	西暦1997年３月31日

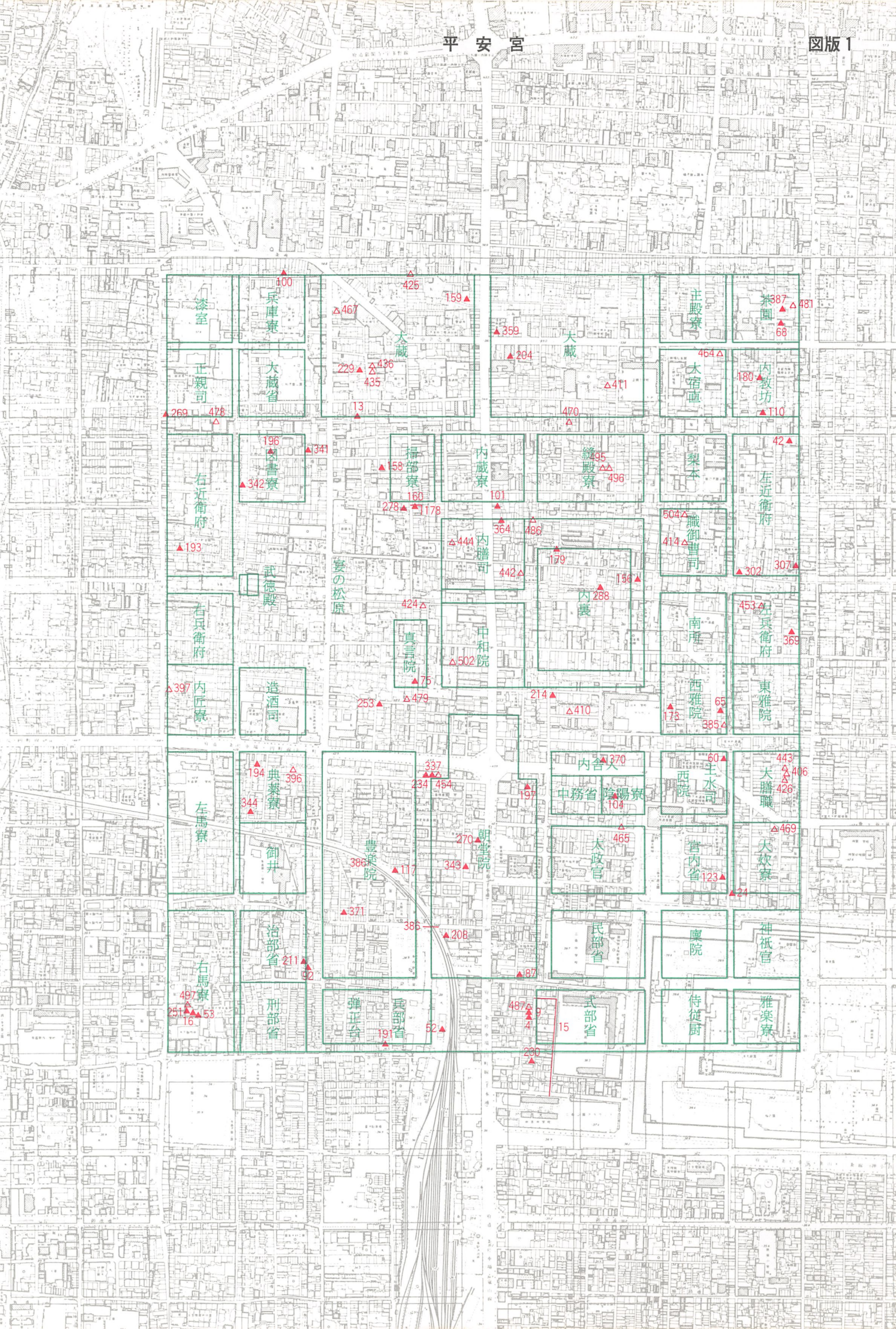
所収遺跡名	所 在 地	コード		北　緯	東　緯	調査期間	調査面積 m²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
白河街区跡 岡崎遺跡	京都府京都市左京区 岡崎西天王町	26100		35度０分47秒	135度46分54秒	1996. 6.12～ 7. 1		マンション
下三栖遺跡	京都府京都市伏見区 横大路下三栖	26100		34度55分26秒	135度45分11秒	1996. 7.31～ 9.20		土地区画整理
平安京跡 左京四条四坊七町	京都府京都市中京区 堺町通六角下る甲屋町	26100		34度59分40秒	135度45分59秒	1996. 4. 1～ 4. 4		マンション
平安京跡 左京六条四坊一町	京都府京都市下京区 東洞院通松原下る大枝町	26100		34度59分43秒	135度45分51秒	1996. 9.17～ 9.19		住宅
下鳥羽遺跡	京都府京都市伏見区 下鳥羽芹川町	26100		34度56分21秒	135度45分３秒	1996. 2.22～ 2.26		工場

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
白河街区跡 岡崎遺跡	寺院	平安後期～鎌倉	溝・路面	土器類・瓦	
下三栖遺跡	集落	古墳	遺物包含層	土器類	
平安京跡 左京四条四坊七町	都城	弥生～江戸	落込み・遺物包含層	土器類・砥石	
平安京跡 左京六条四坊一町	都城	古墳～鎌倉	流路・土壙	土器類・瓦・銭貨	
下鳥羽遺跡	集落	弥生～古墳	落込み・遺物包含層	土器類	

図　　版

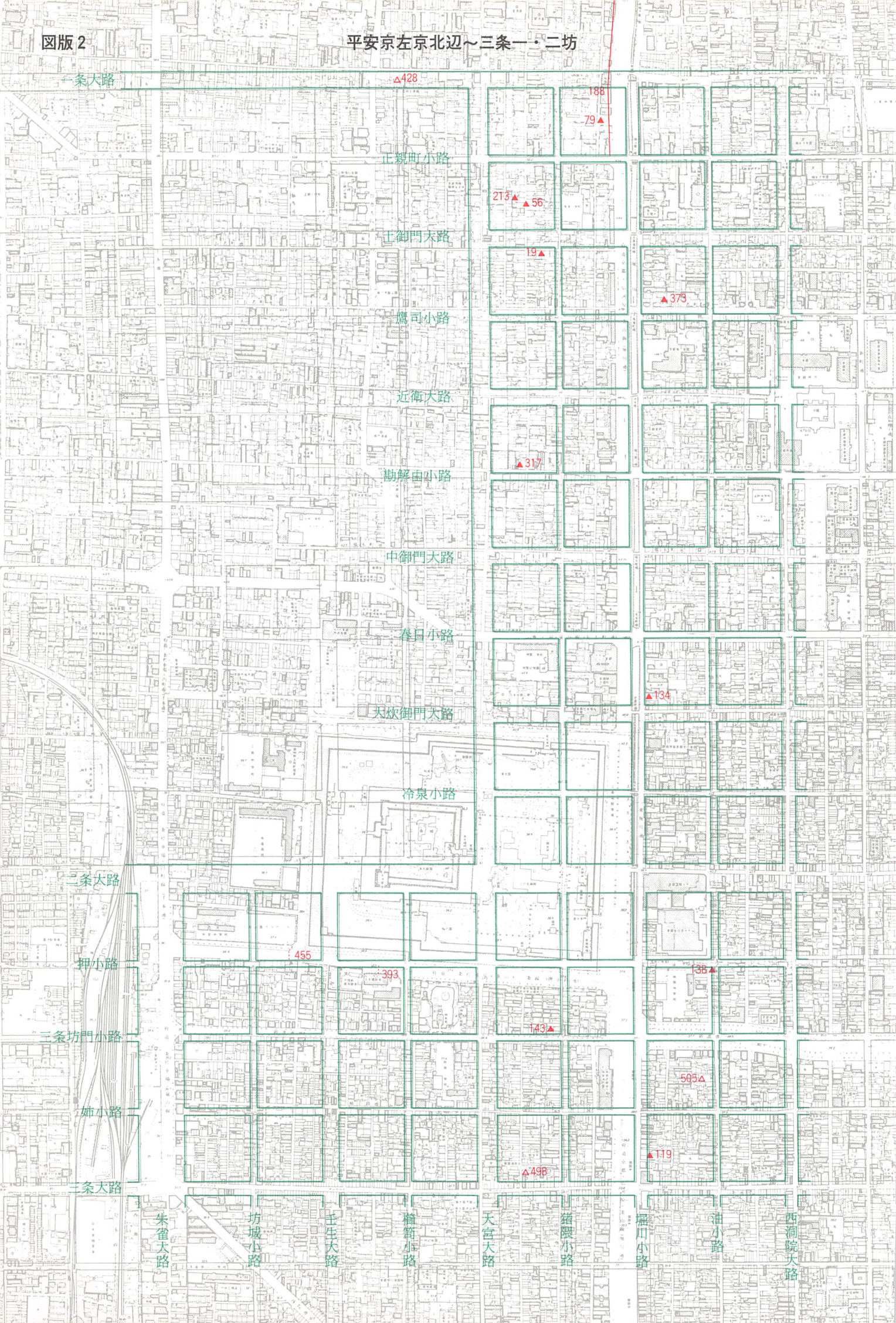
凡　例

△---------1995年度立会調査地点　▲———1996年度立会調査地点


平安宮
漆室
兵庫寮
大蔵
大蔵
主殿寮
茶園
正親司
大蔵省
大宿直
内教坊
右近衛府
内書寮
掃部寮
内蔵寮
縫殿寮
梨本
左近衛府
職御書司
内膳司
宴の松原
武徳殿
内裏
右兵衛府
真言院
中和院
南曹
左兵衛府
内匠寮
造酒司
西雅院
東雅院
左馬寮
典薬寮
内舎人
中務省
陰陽寮
西院
主水司
大膳職
御井
豊楽院
朝堂院
太政官
宮内省
大炊寮
治部省
民部省
虞院
神祇官
右馬寮
刑部省
弾正台
兵部省
式部省
侍従厨
雅楽寮

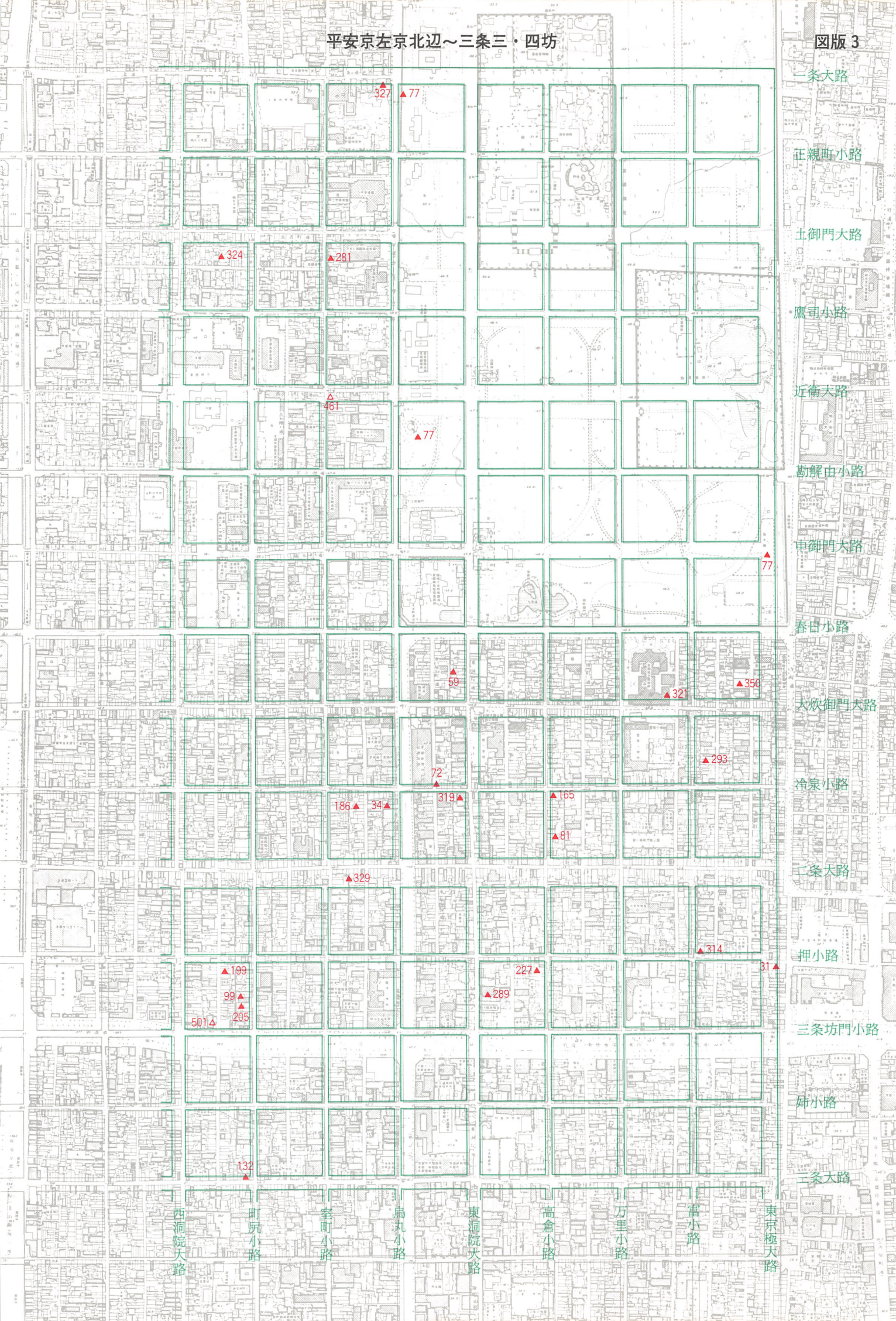
図版 2

平安京左京北辺～三条一・二坊



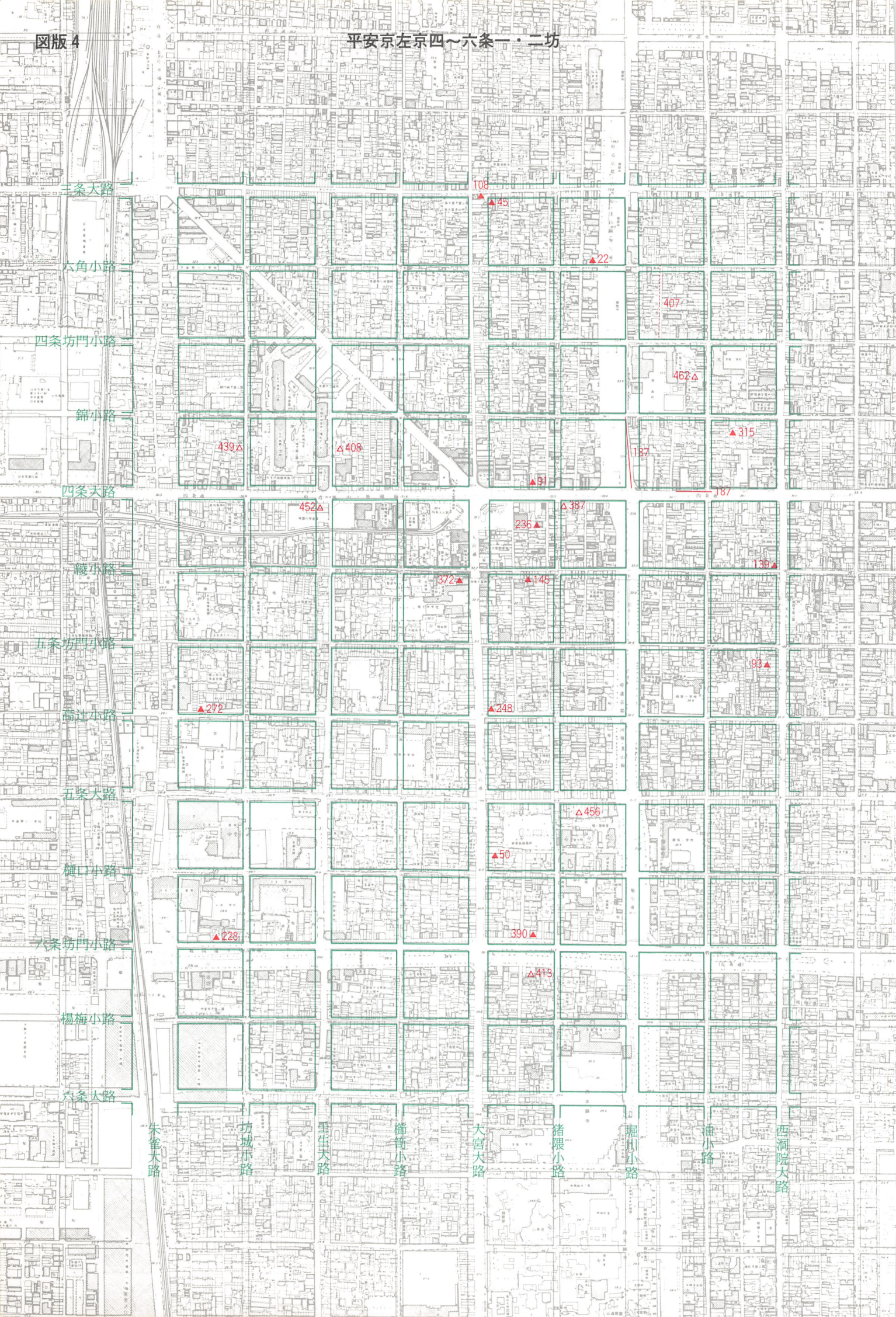
平安京左京北辺～三条三・四坊

図版 3

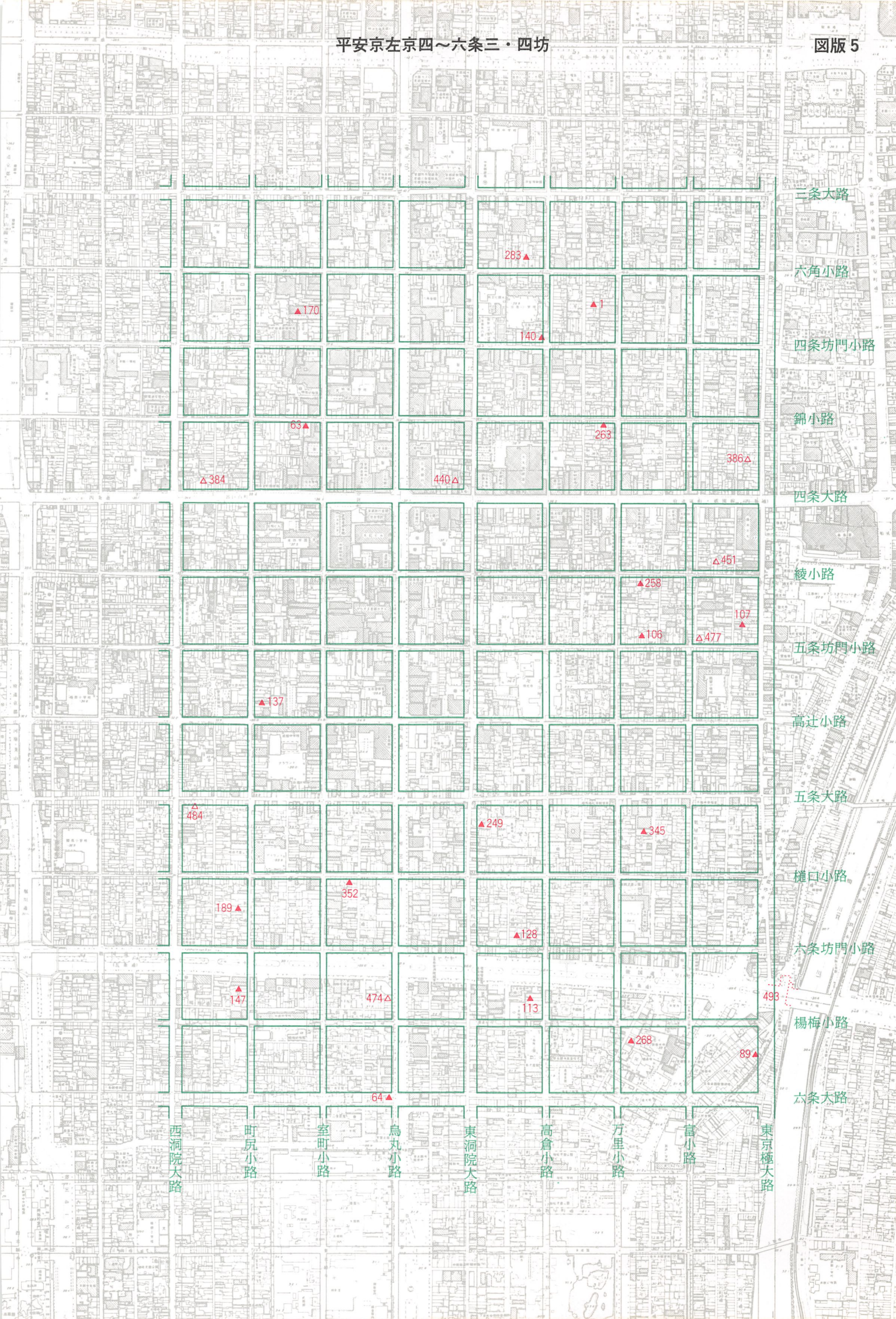


図版 4

平安京左京四～六条一・二坊

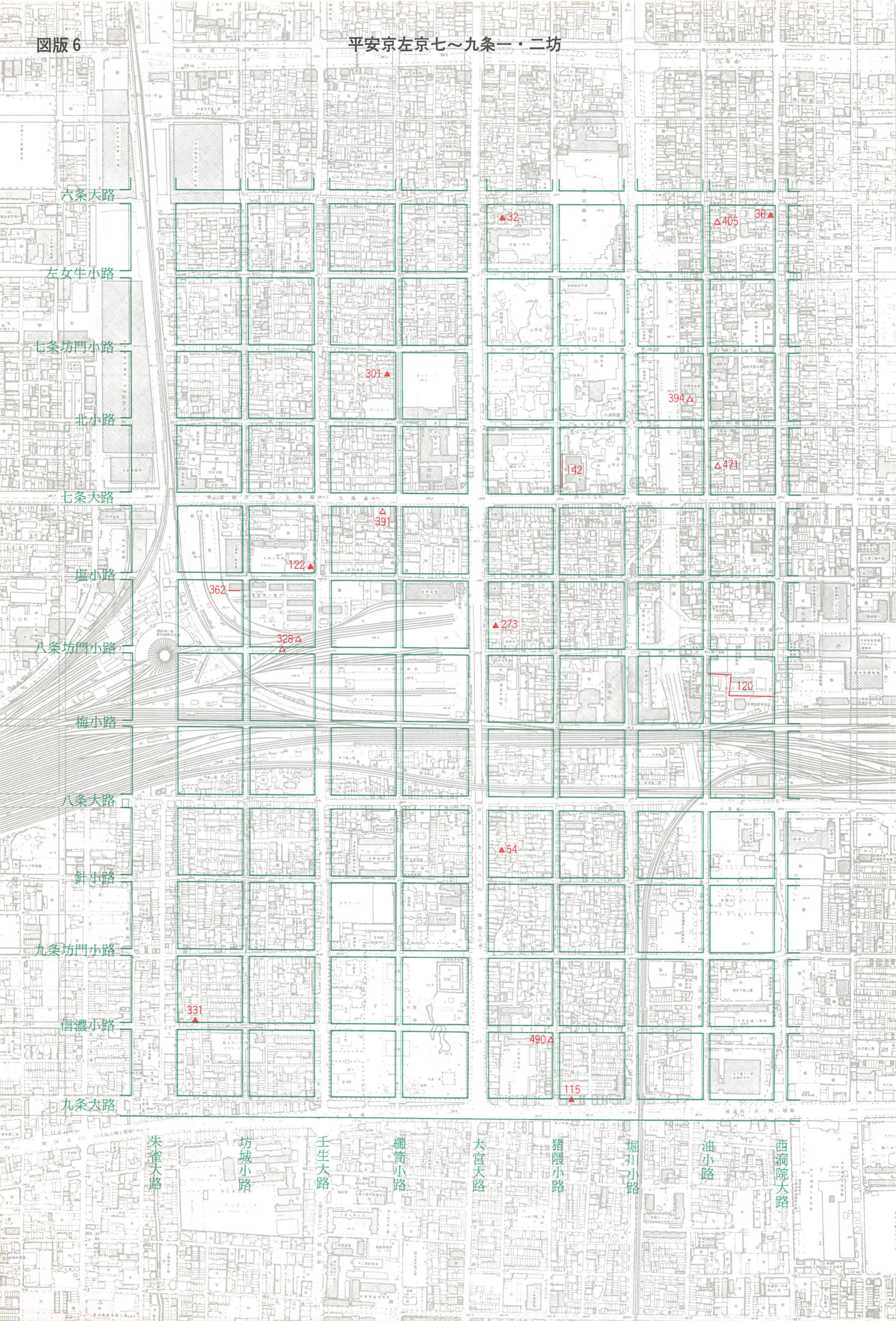


平安京左京四～六条三・四坊

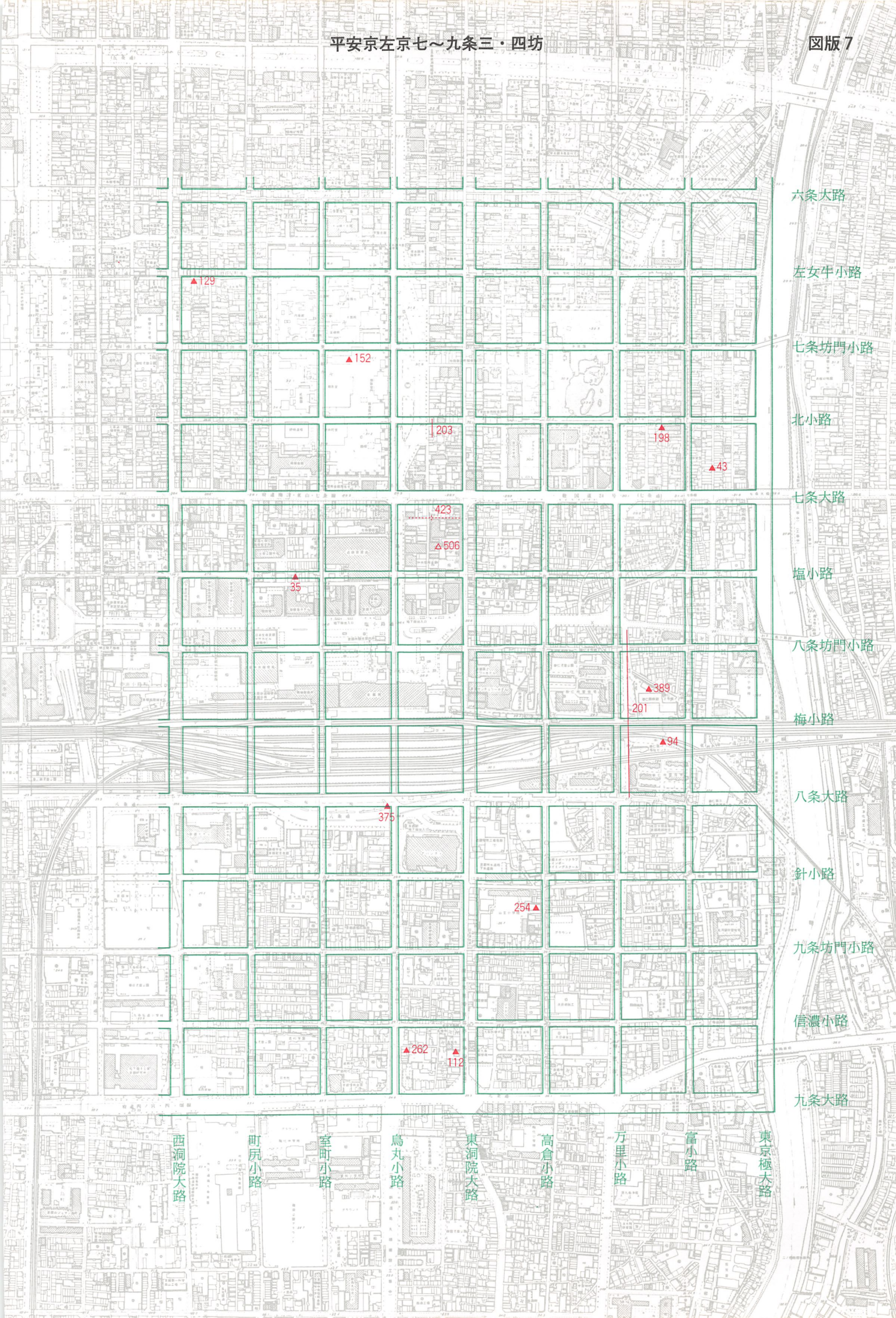


図版 6

平安京左京七～九条一・二坊

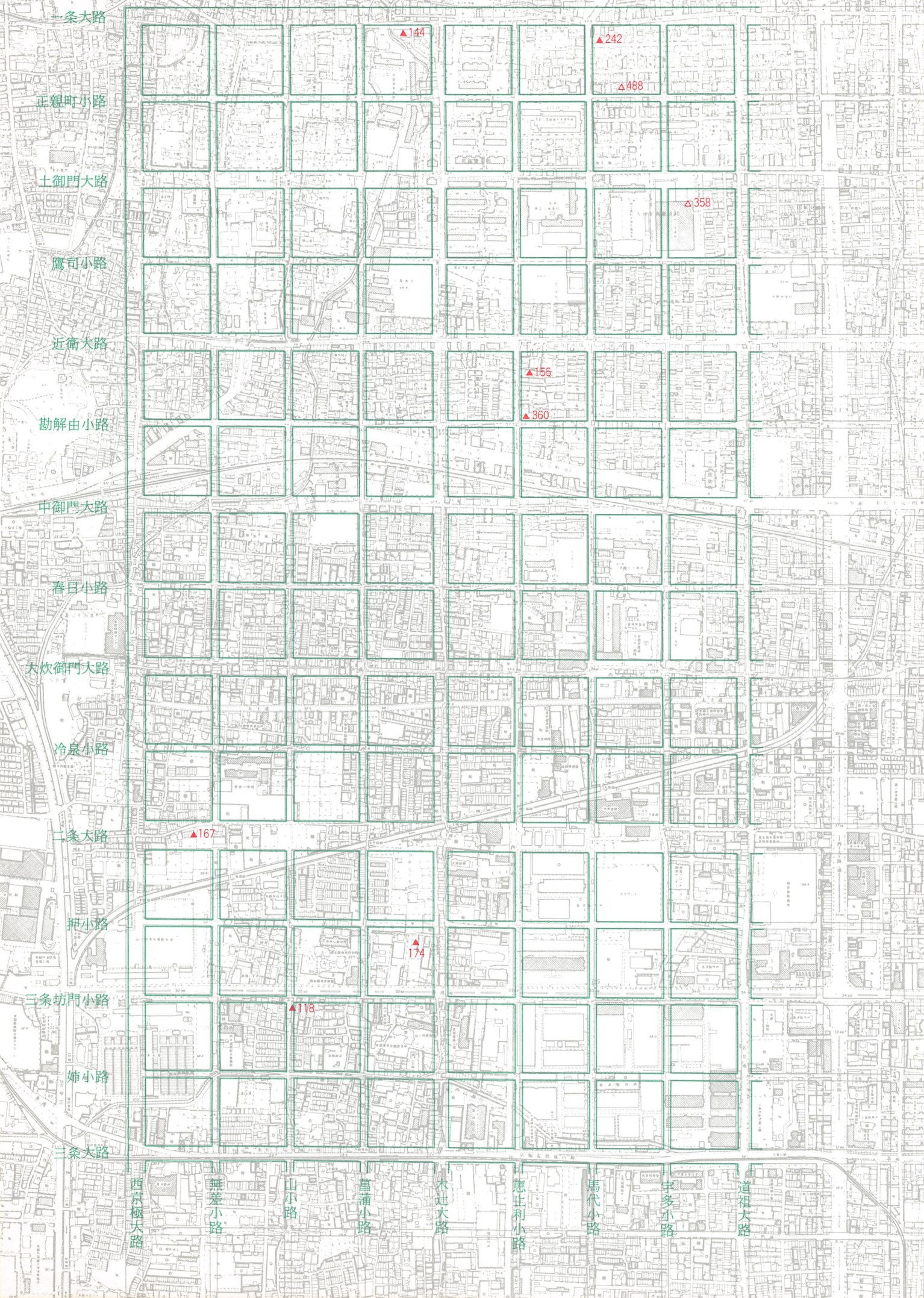


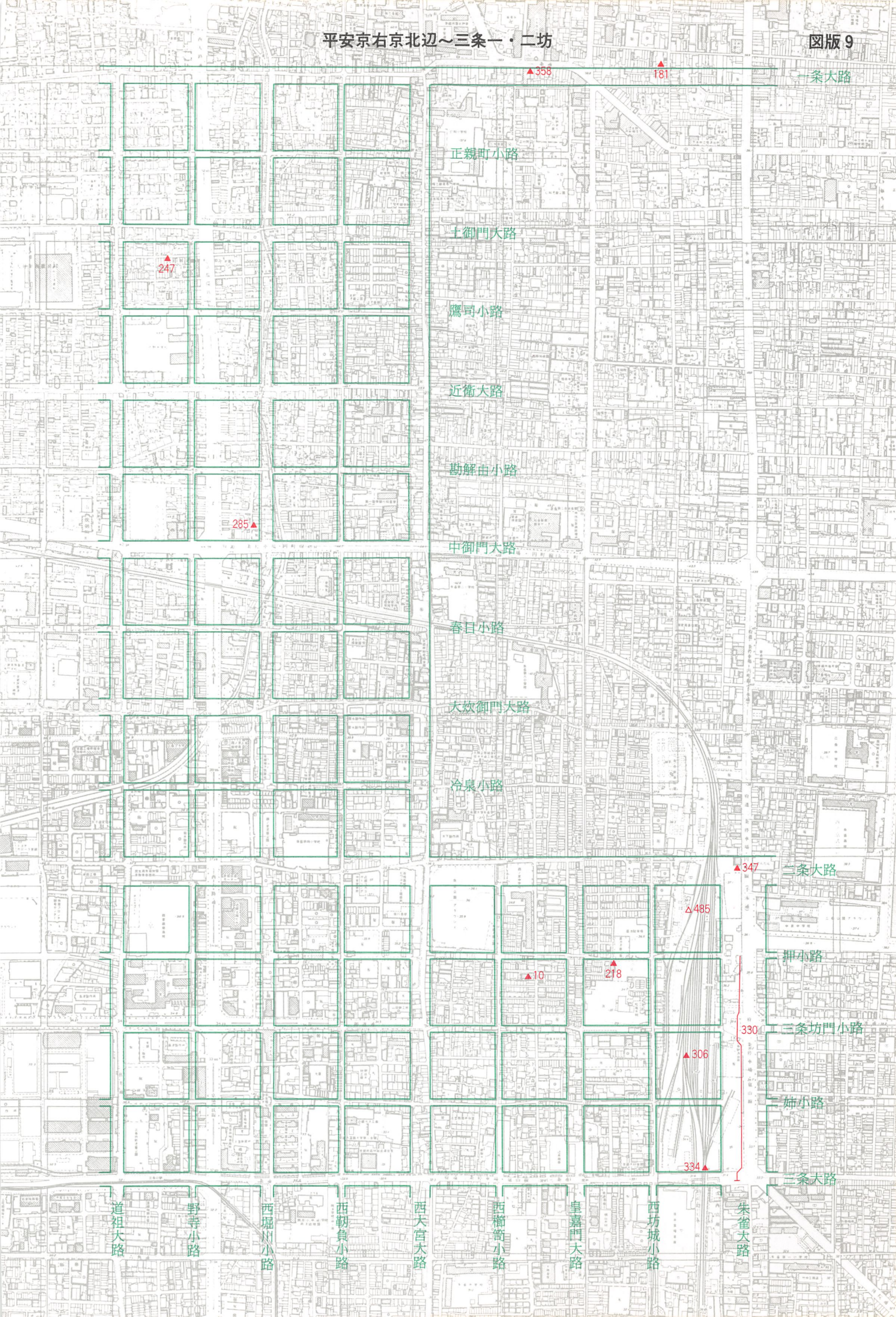
平安京左京七～九条三・四坊



図版 8

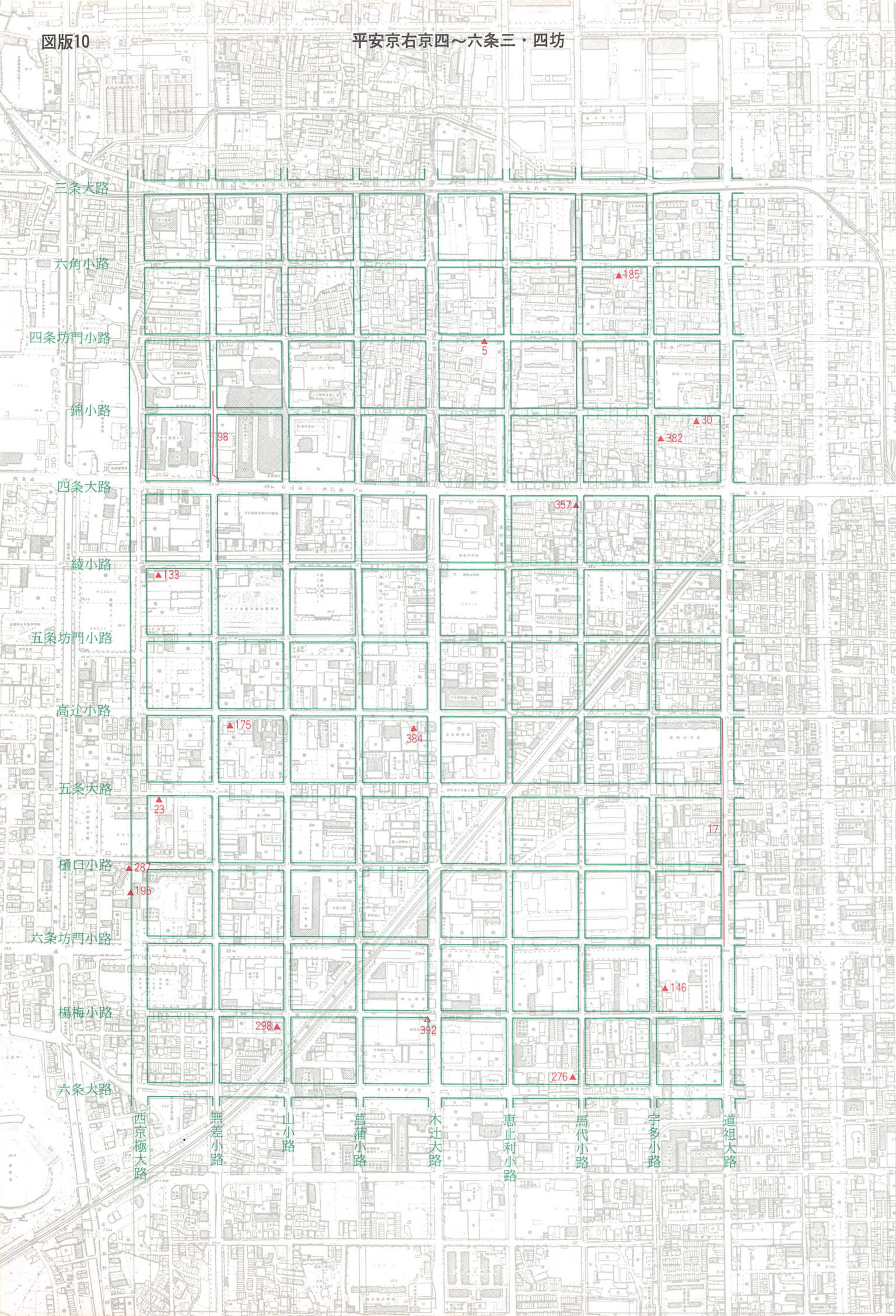
平安京右京北辺～三条三・四坊

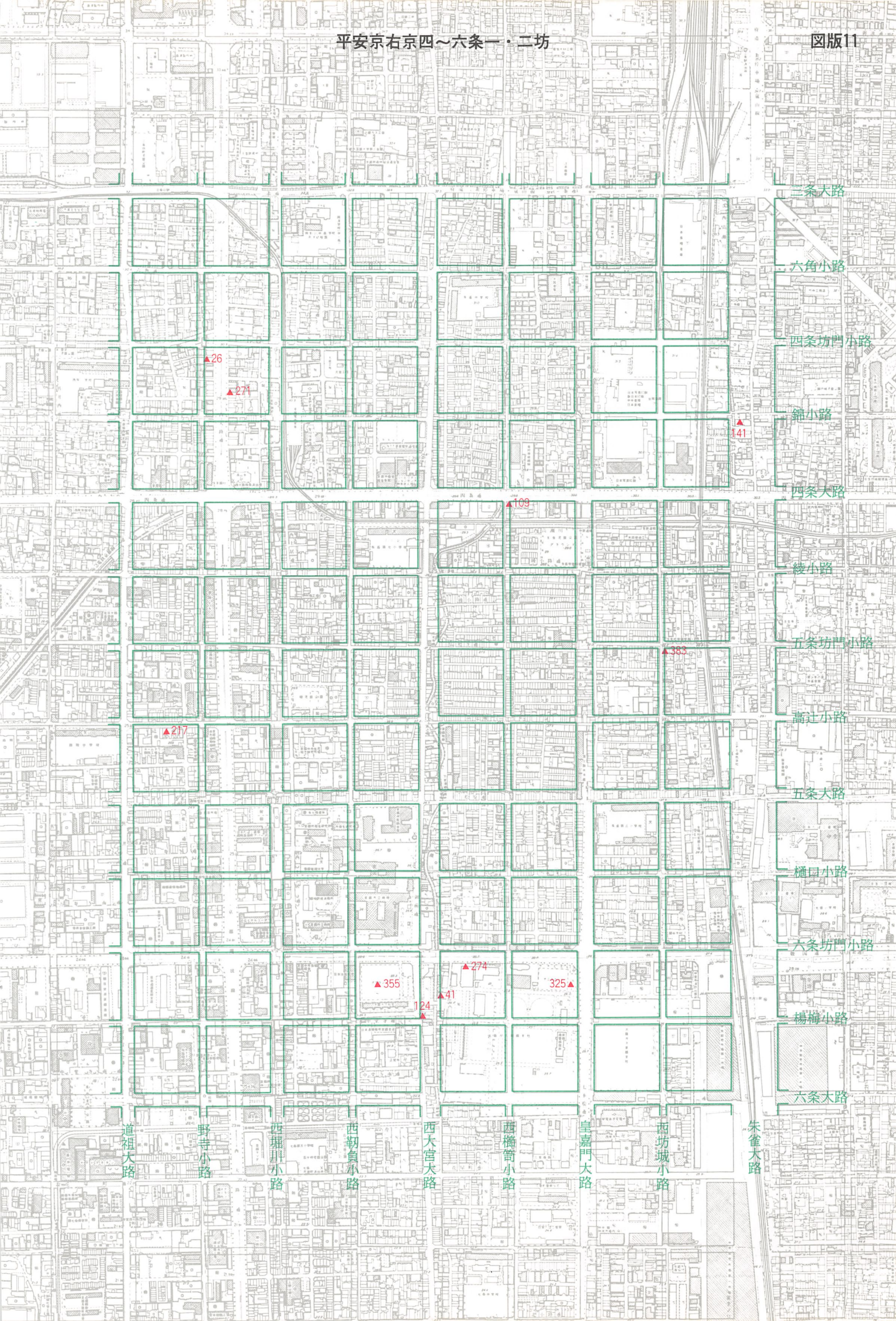



一条大路
358
181
正親町小路
土御門大路
247
鷹司小路
近衛大路
勘解由小路
285
中御門大路
春日小路
大炊御門大路
冷泉小路
二条大路
347
485
押小路
10
218
330
三条坊門小路
306
二条大路
334
三条大路
道祖大路
野寺小路
西堀川小路
西朝負小路
西大宮大路
西櫛笥小路
皇嘉門大路
西坊城小路
朱雀大路

図版10

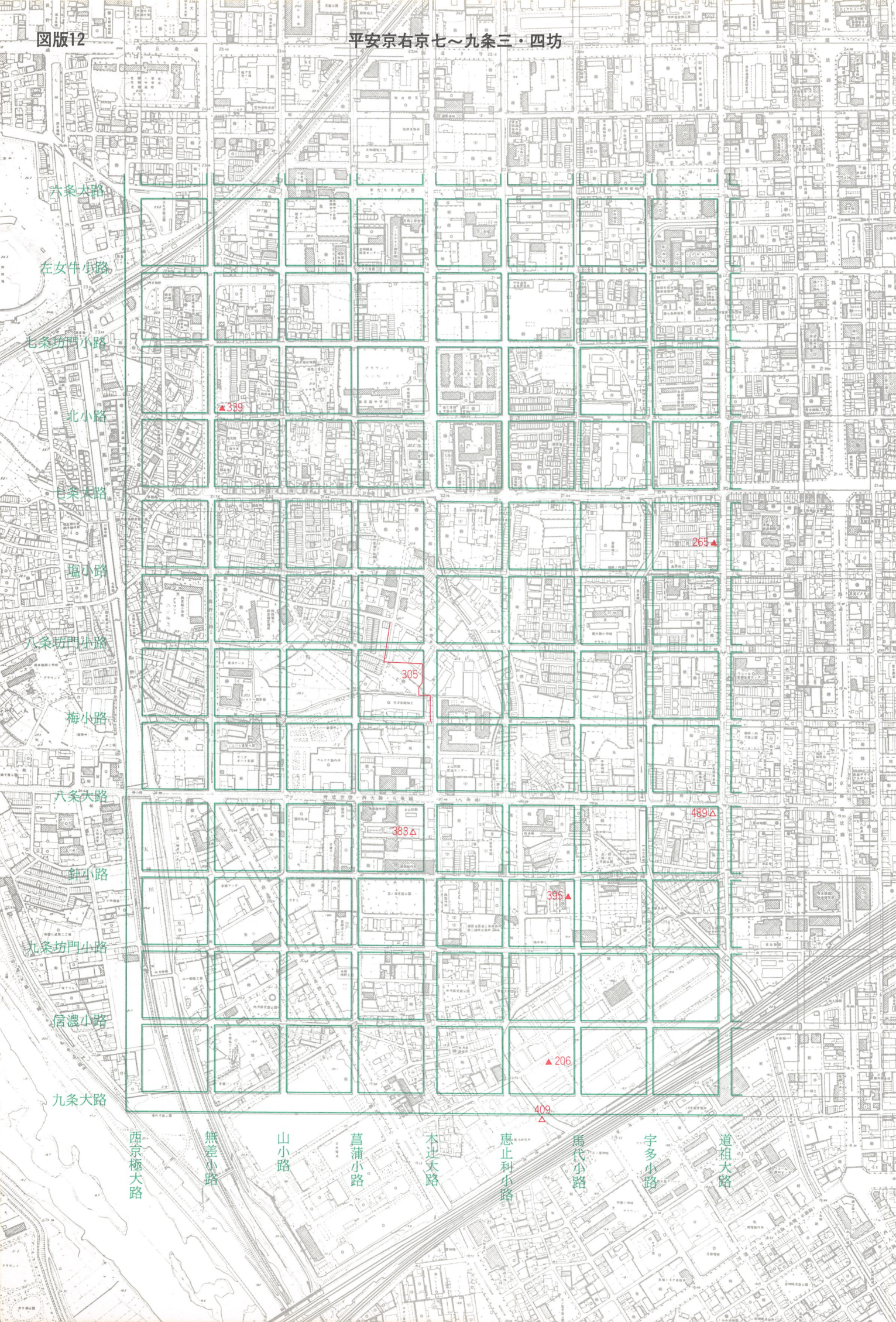
平安京右京四～六条三・四坊

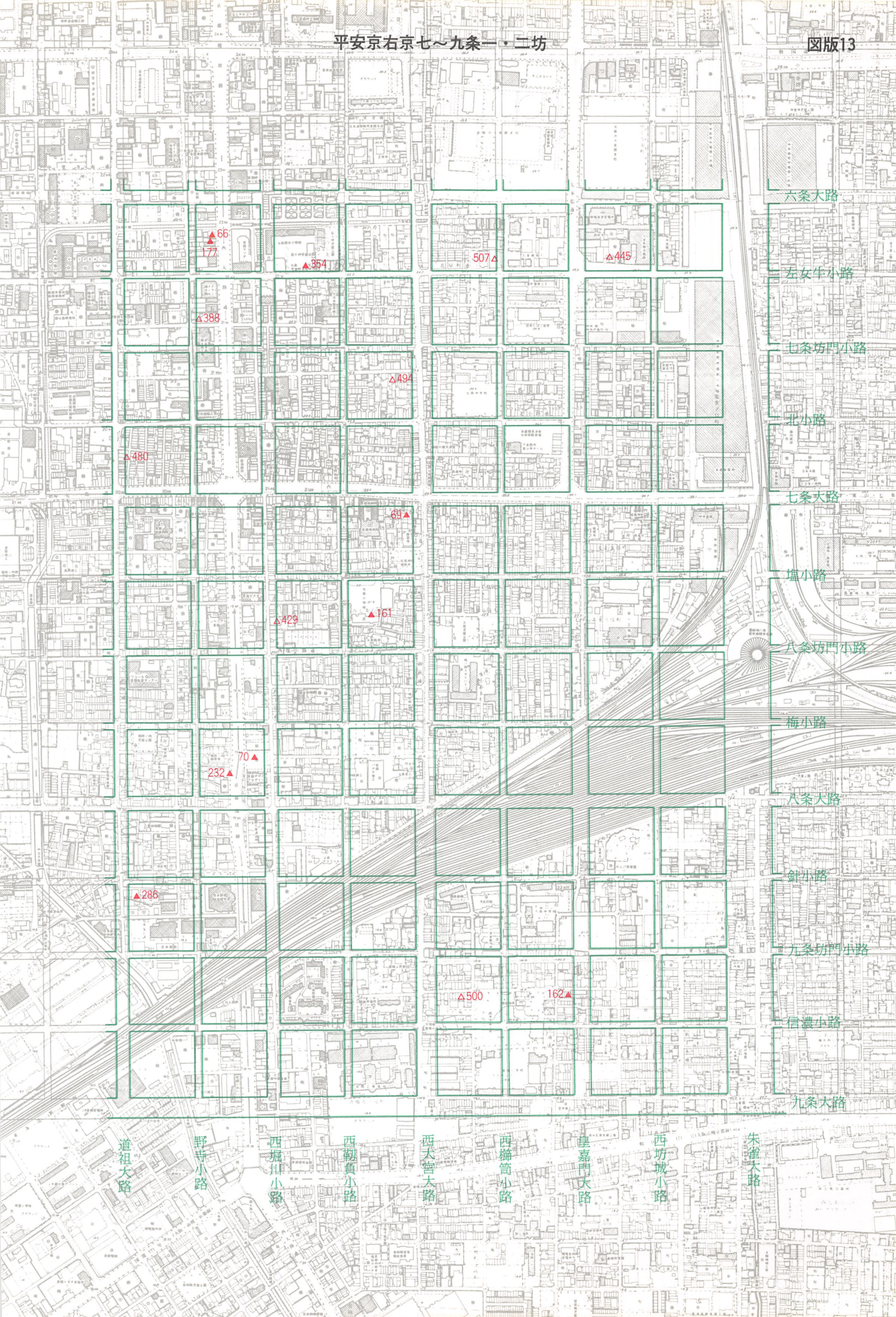



三条大路
六角小路
四条坊門小路
錦小路
四条大路
綾小路
五条坊門小路
富辻小路
五条大路
樋口小路
六条坊門小路
楊梅小路
六条大路
道祖大路
野寺小路
西堀川小路
西朝倉小路
西大宮大路
西櫛笥小路
皇嘉門大路
西坊城小路
朱雀大路
26
271
141
109
383
217
274
355
41
124
325

図版12

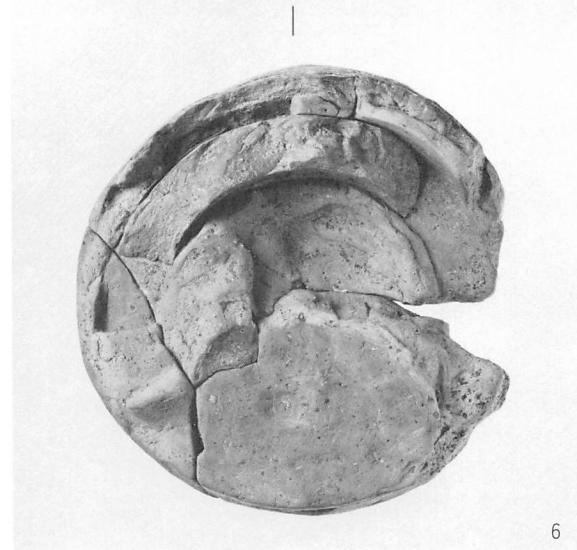
平安京右京七～九条三・四坊

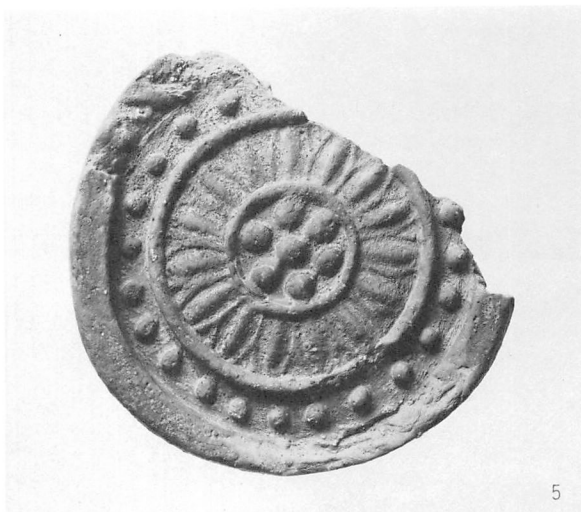



六条大路
左女牛小路
七条坊門小路
北小路
七条大路
塩小路
八条坊門小路
梅小路
八条大路
針小路
九条坊門小路
信濃小路
九条大路
道祖大路
野寺小路
西堀川小路
西鞨負小路
西大宮大路
西櫛笥小路
皇嘉門大路
西坊城小路
朱雀大路
66
177
354
507
445
388
494
480
69
429
161
70
232
286
500
162

1　No.3 地点　瓦溜遺物出土状況（東から）

2　軒丸瓦（2）





軒丸瓦（1，３～８）

9

10

11

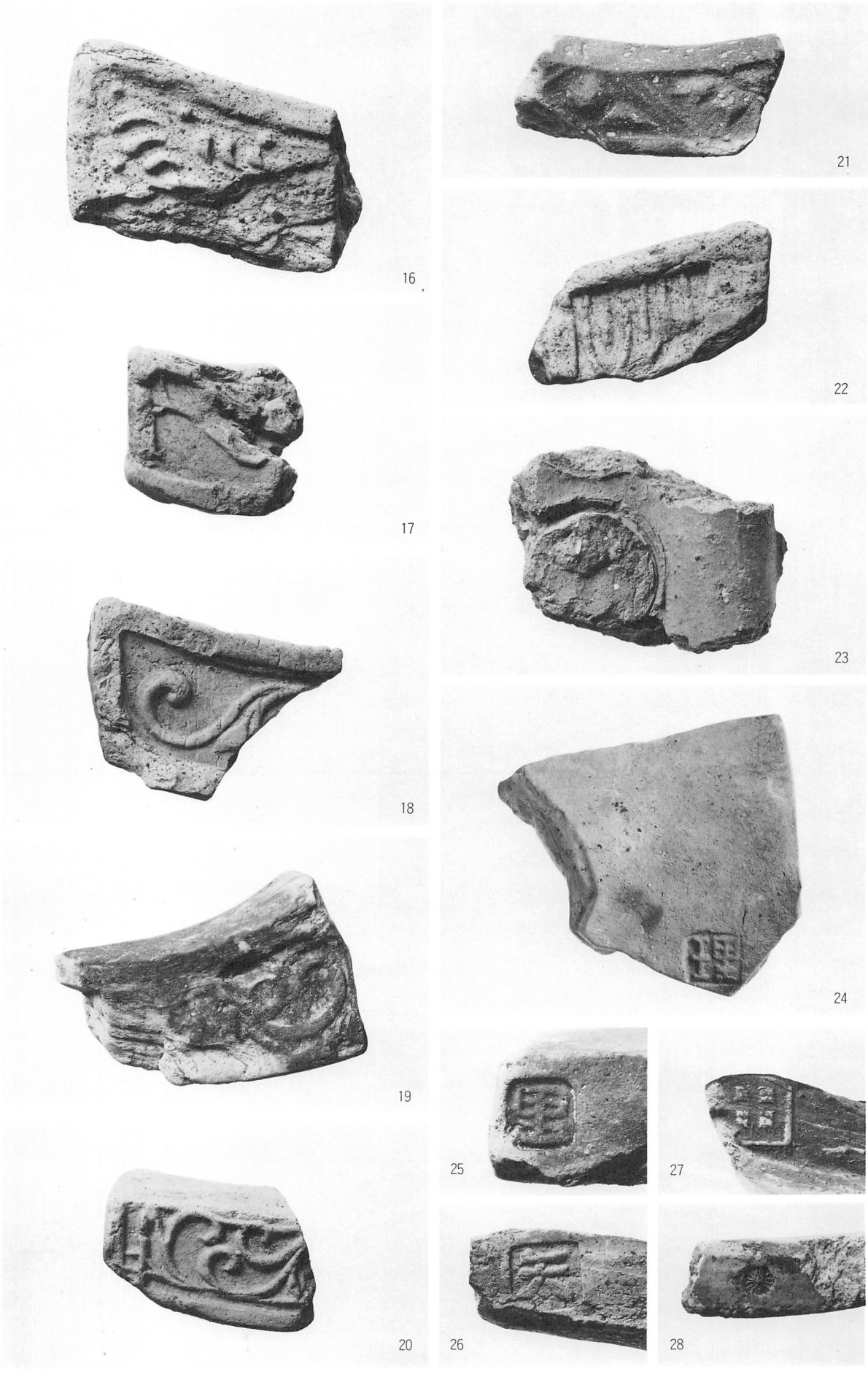
12

13

14

15

軒平瓦（9～15）



軒平瓦（16～22）、鴟尾（23）、刻印瓦（24～28）

1　調査区全景（北から）

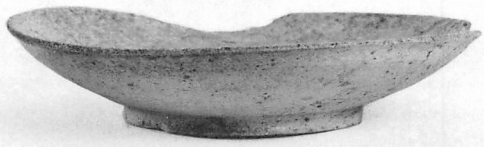
2　土壙11（東から）

3　土壙33（北から）

1　No.1地点　全景（西から）

2　No.1地点　溝4（西から）

18


59

36

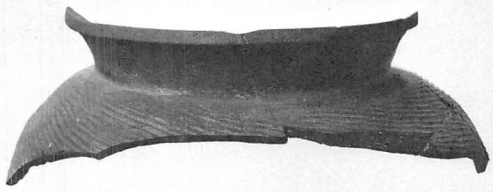
63

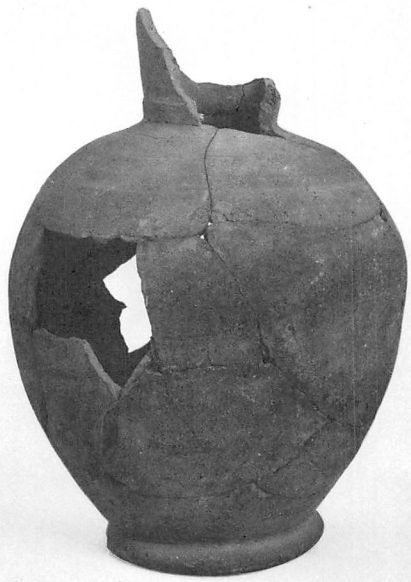
65

62

69

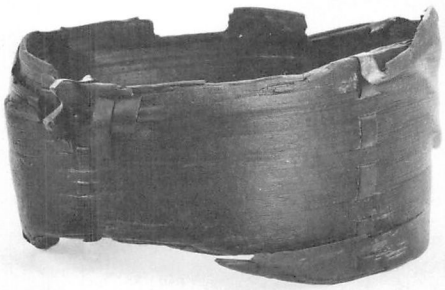
72


74


78

溝4出土遺物

1　No.5地点　ＳＤ１（南から）



7

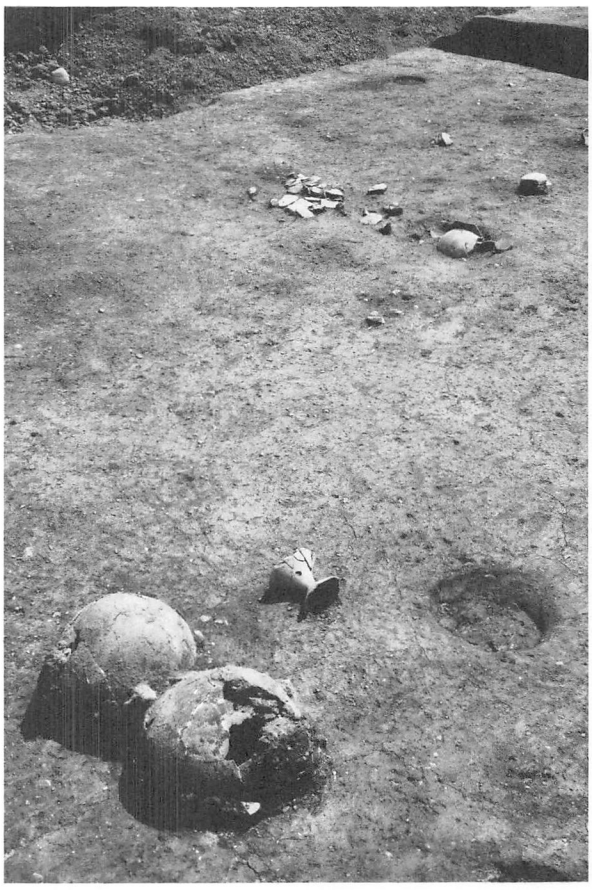
2　ＳＤ１出土　曲物（7）

8

3　ＳＤ１出土　下駄（8）

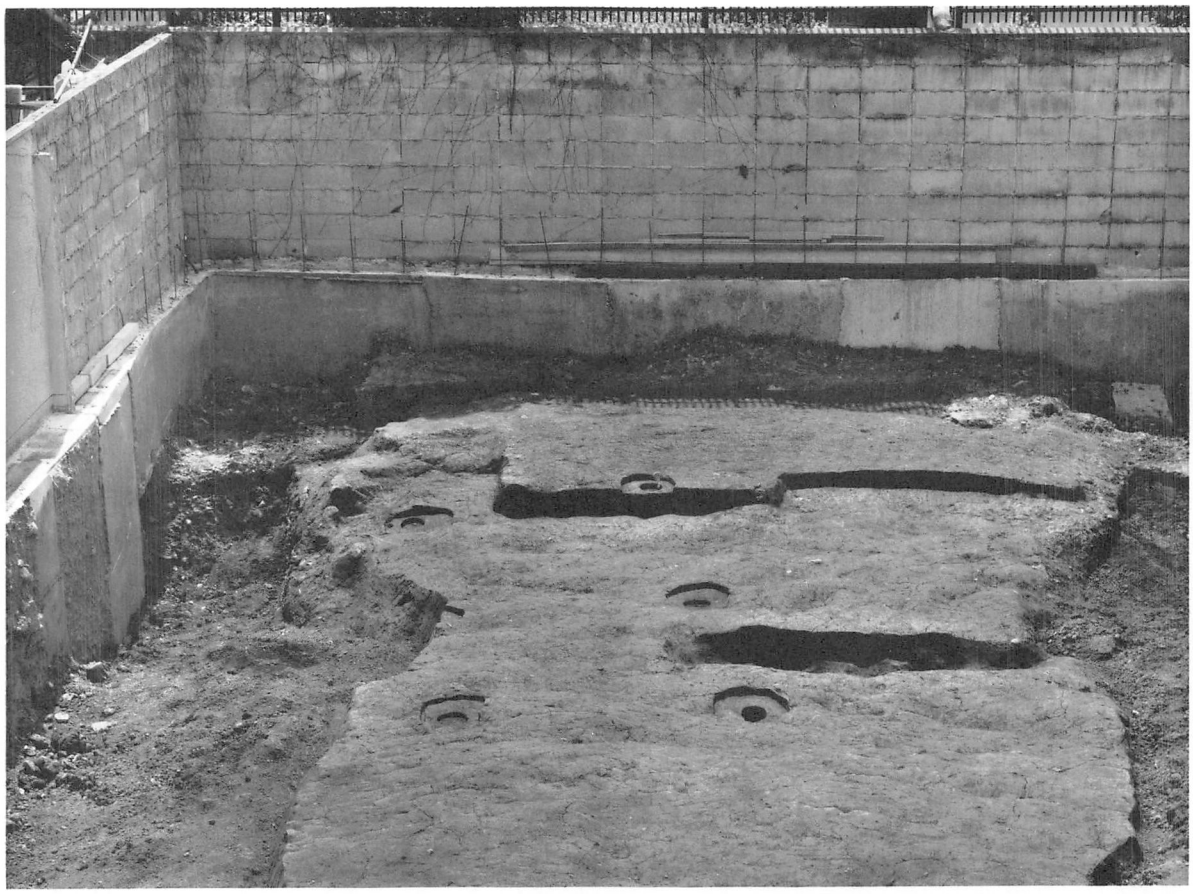
調査区全景（北から）

1　SB1　全景（北から）



2　SB1　床面土器検出状況（北西から）

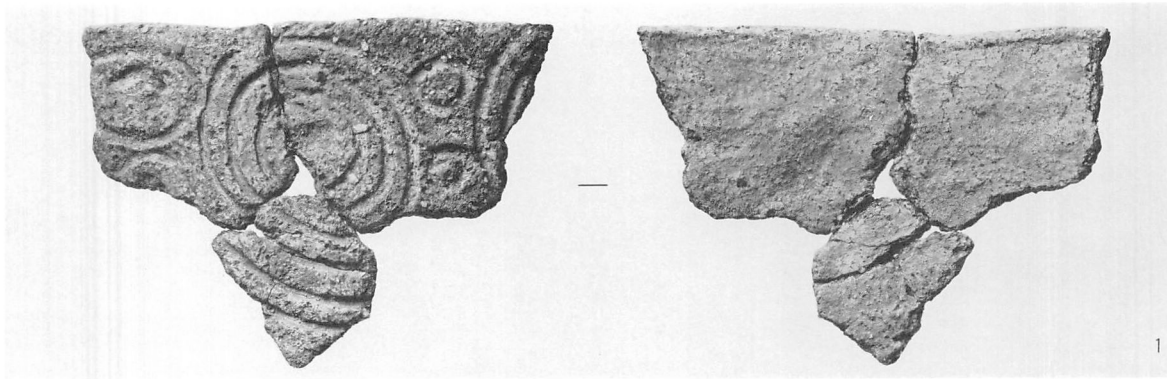
3　SB1　炉周辺土器検出状況
（手前が炉、西から）



1　掘立柱建物　全景（北から）

2　ＳＫ９　検出状況（北から）

3　ＳＫ９　完掘状況（東から）



SK9（1）・SB1（2～6・8）出土土器

9

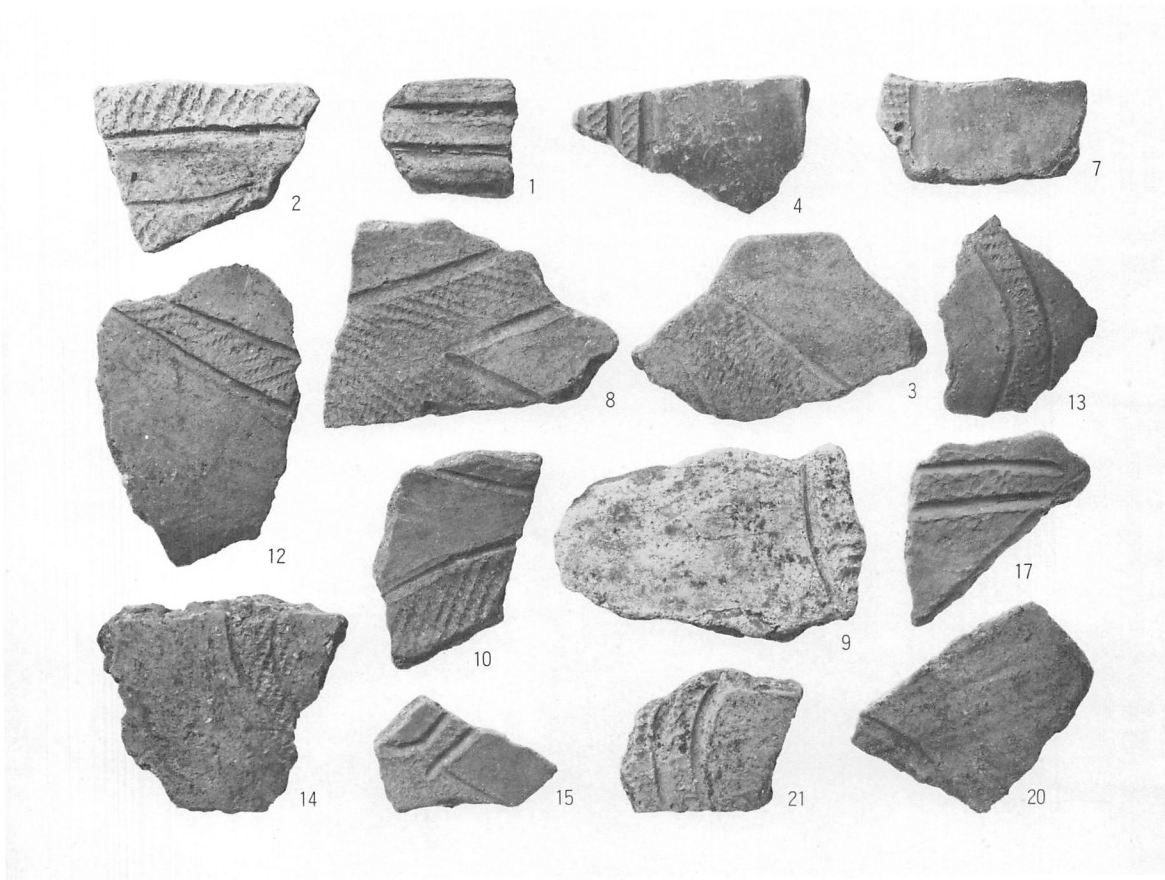
10

11

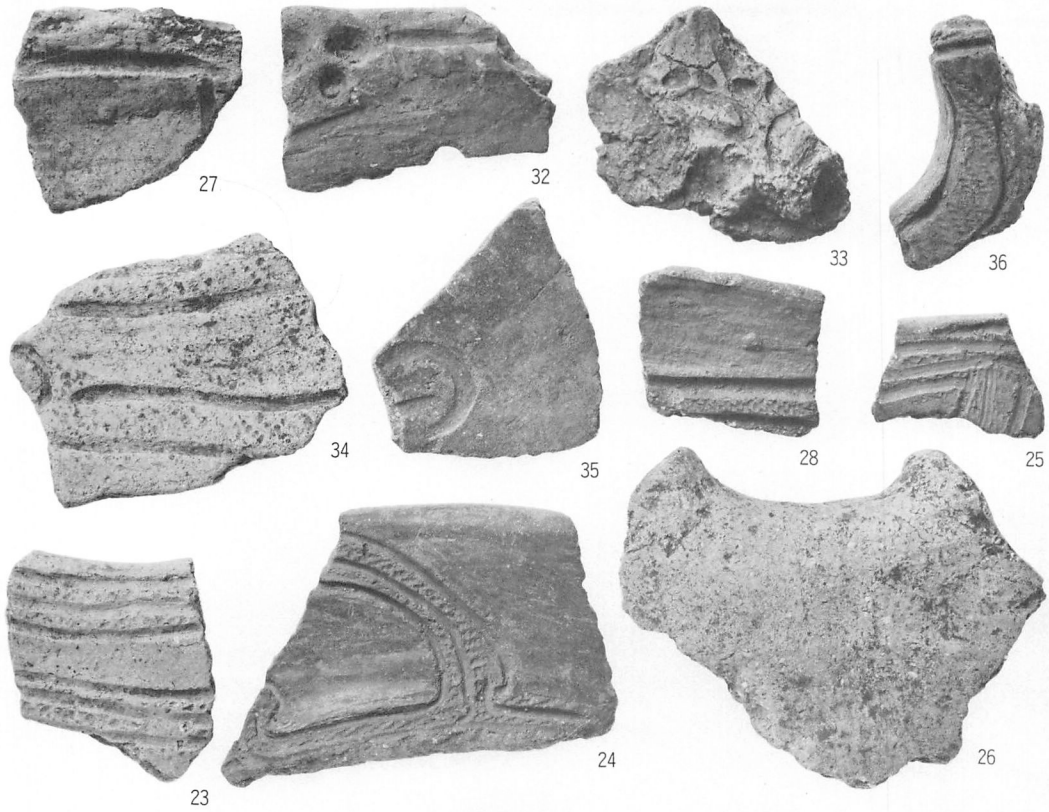
12

ＳＢ１出土土器

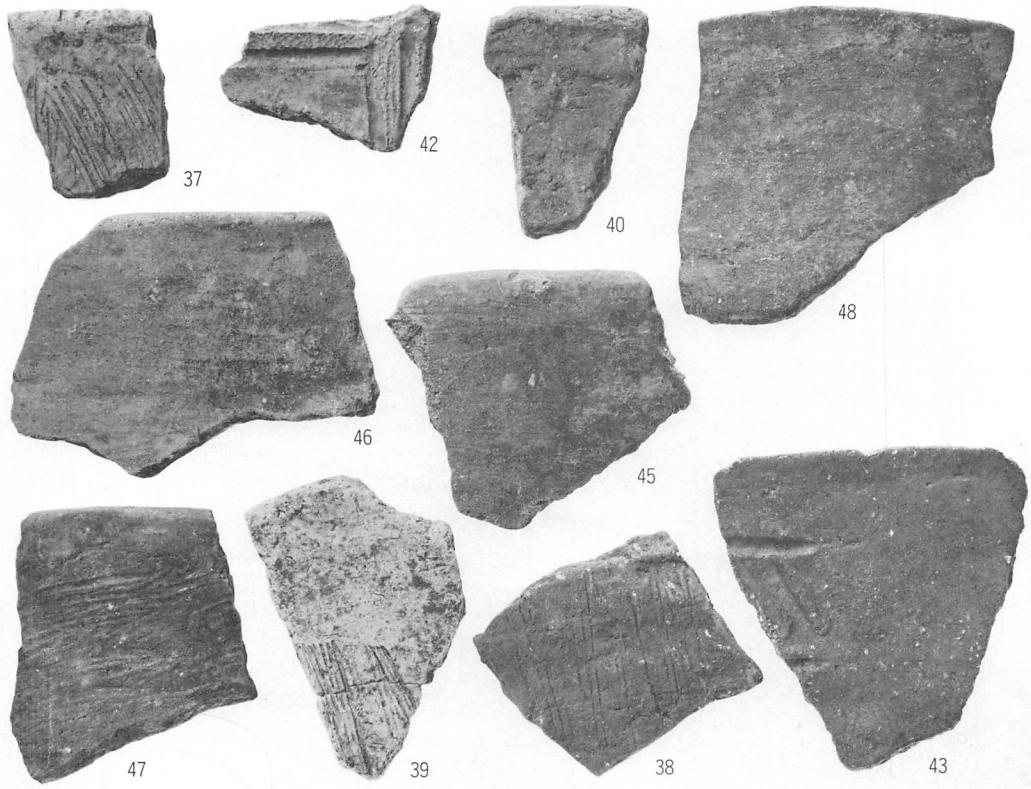
1　No.2 地点　花折断層と縄文時代後期の遺物包含層



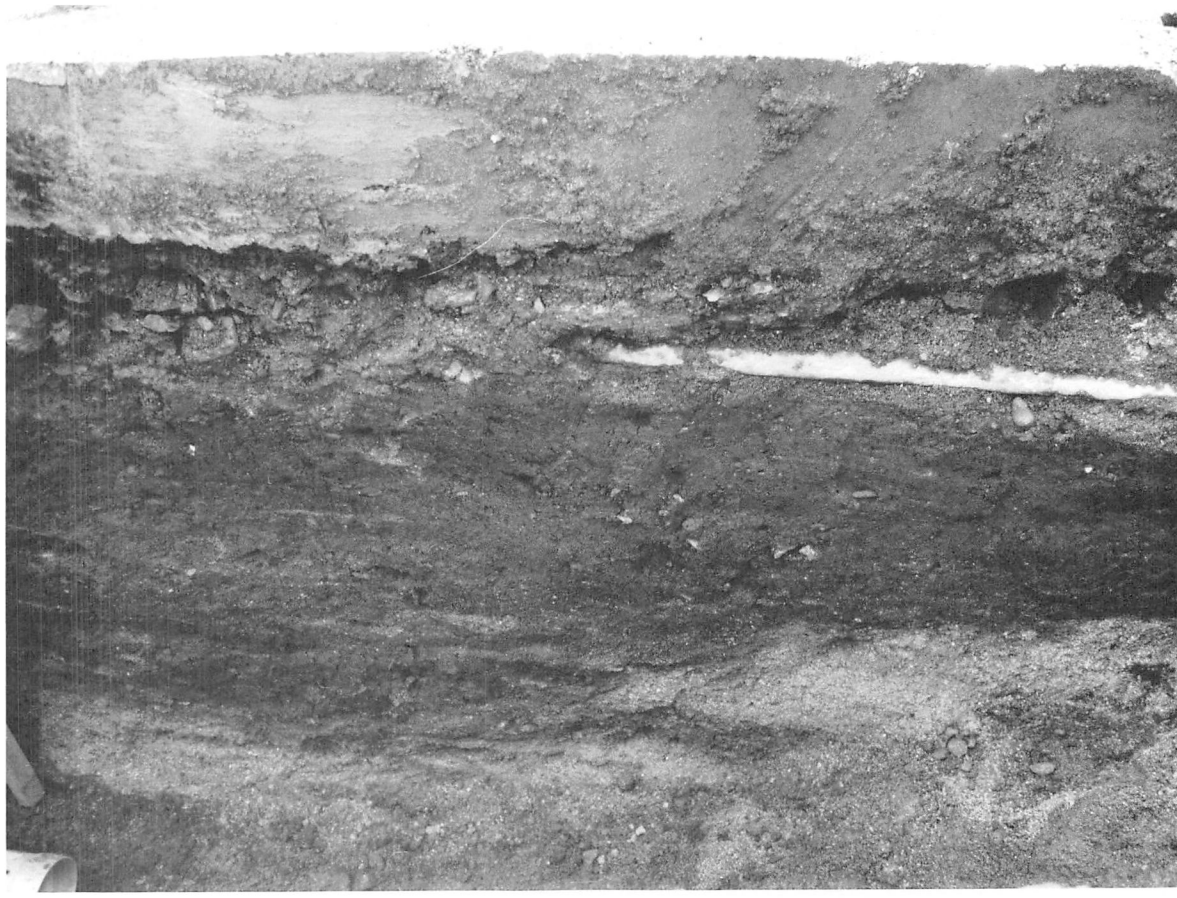
2　縄文時代後期の土器



1　縄文時代後期の土器



2　縄文時代後期の土器

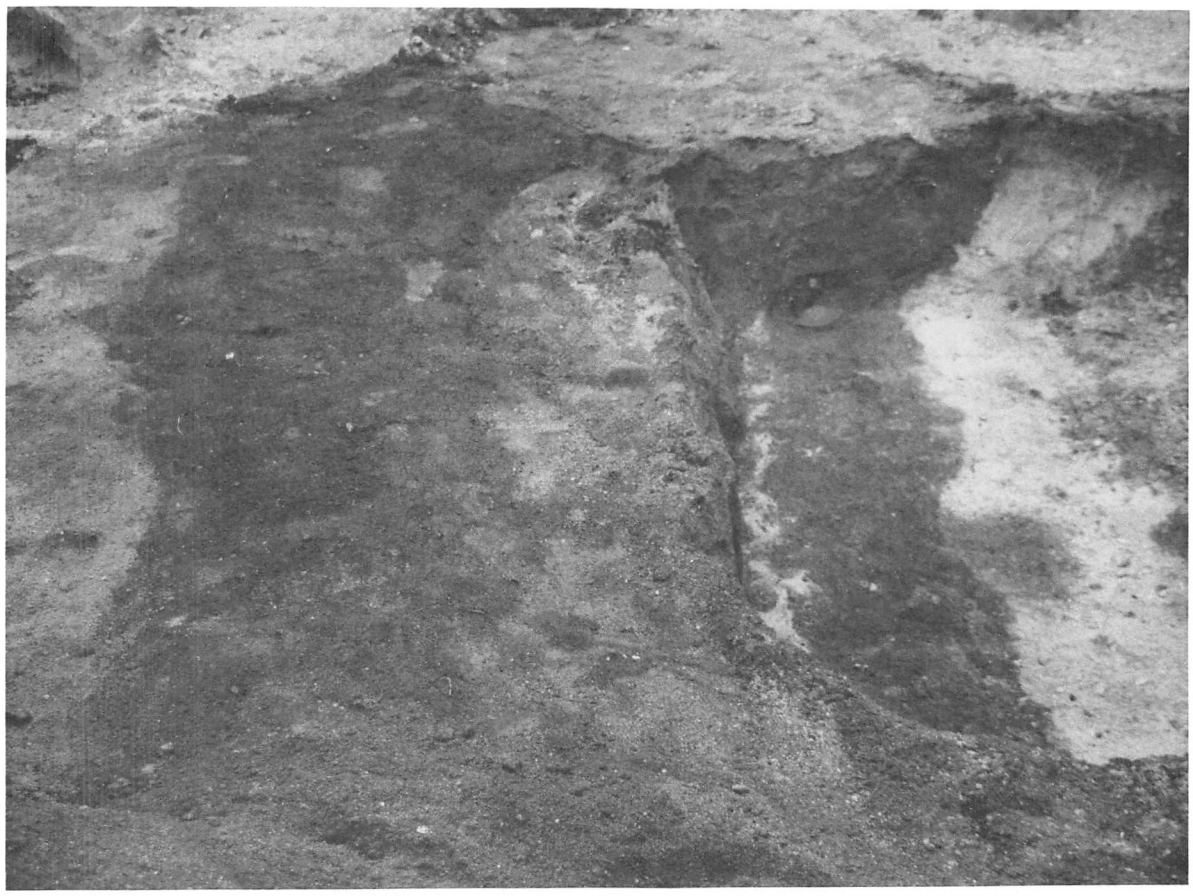


1　95ＫＳ226　No.8地点　車道東側溝（北から）

2　95ＫＳ229　No.10地点　雨落溝（北西から）

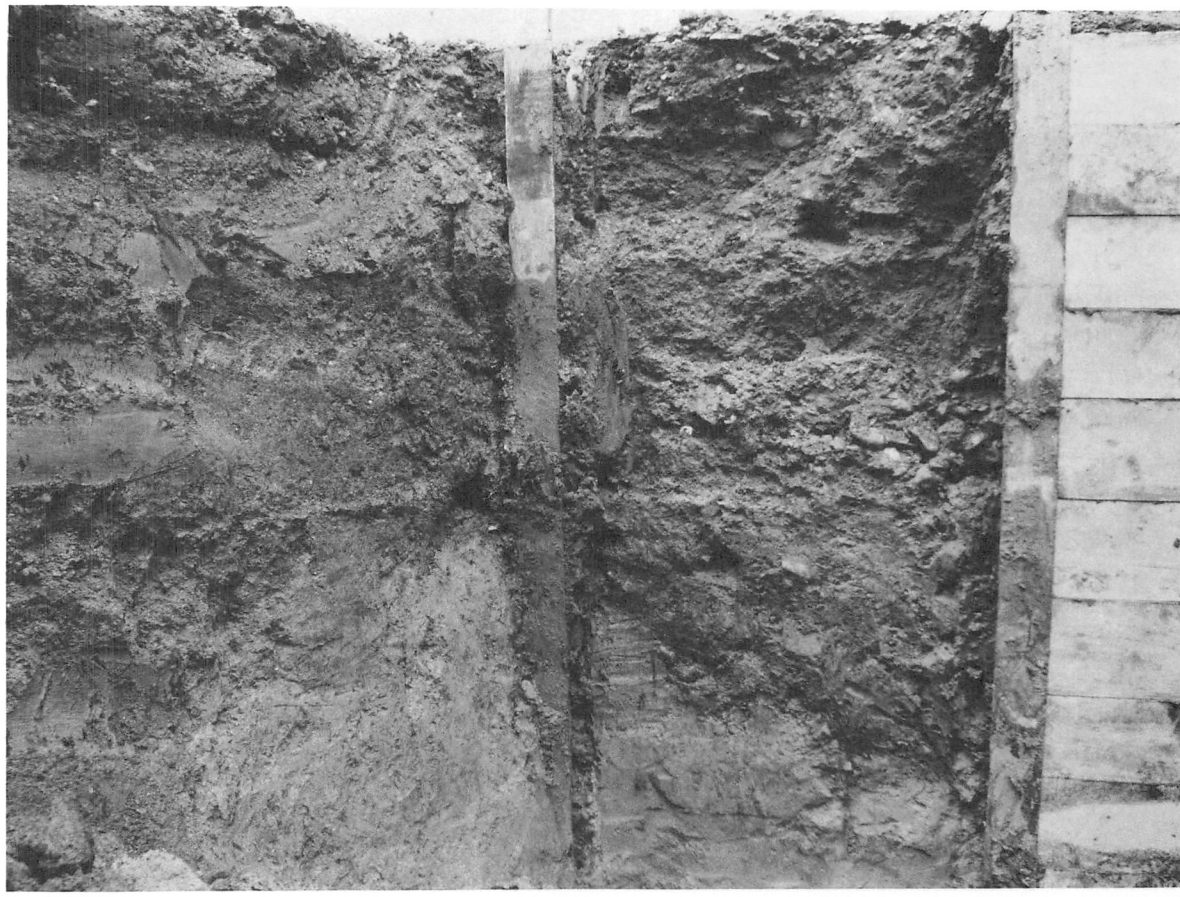
1　96KS136　路面（南から）

2　95KS226　軒平瓦（2）、95KS229　軒丸瓦（1）・軒平瓦（3）

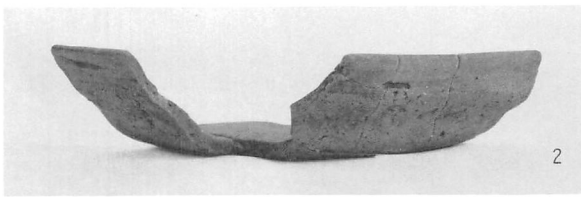


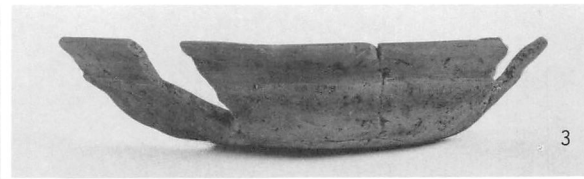
1　96KS130　No.8地点　溝（東から）

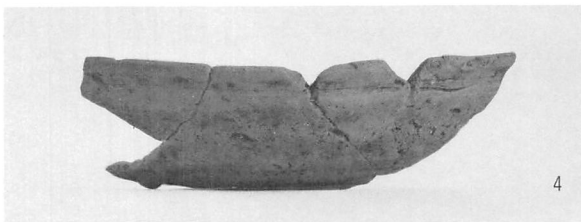
2　96KS130　No.9地点　土壙（南から）

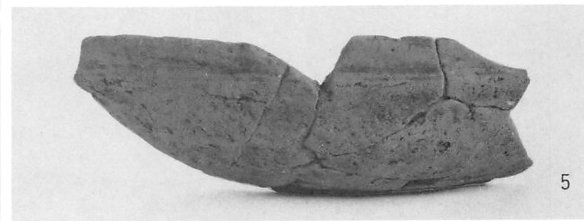


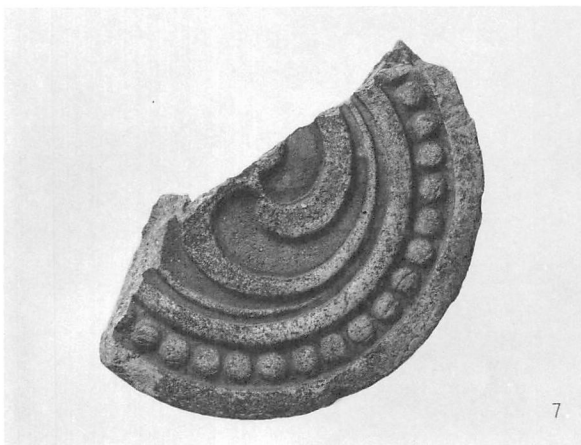
1　96KS111　No.3地点　北東壁断面（南西から）

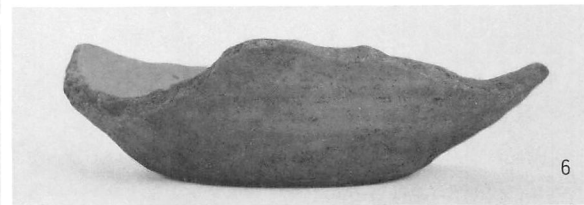










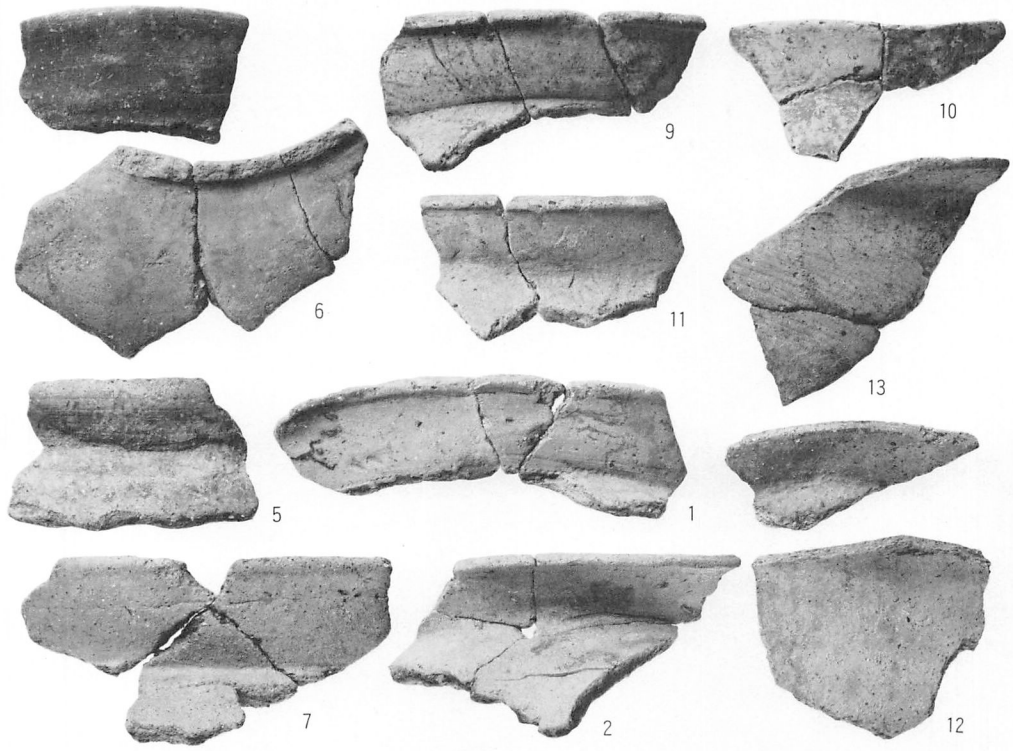


2　96KS130　No.9地点　出土遺物

1　No.2・3地点　全景（南東から）

2　No.2地点　全景（北東から）

3　No.3地点　土器出土状況（東から）



No. 2 地点　出土遺物

42

43

38

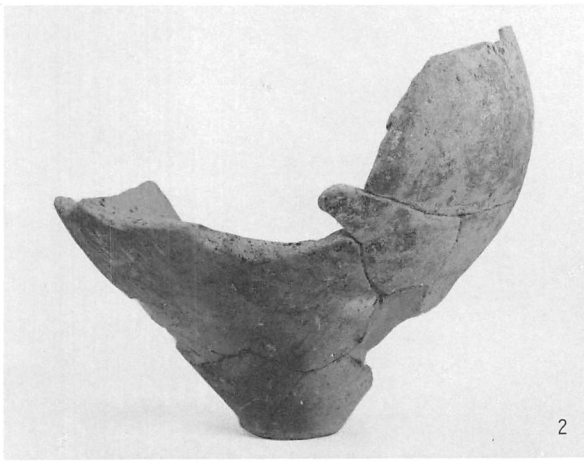
37

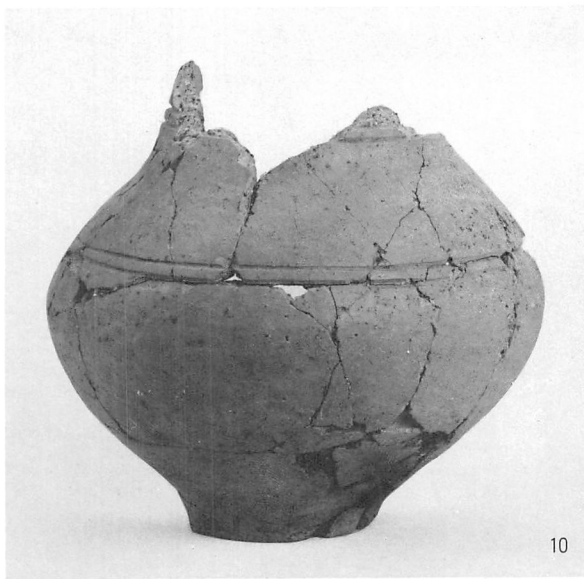
36

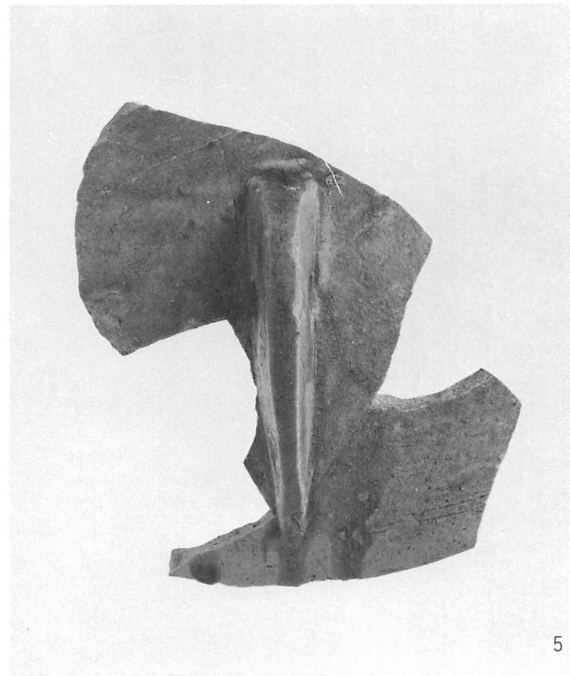
41

40

No.2・3・5地点　出土遺物







平安京左京四条四坊七町（96ＨＬ１）（１～３）、平安京左京六条四坊一町（96ＨＬ249）（４～６）、
下鳥羽遺跡（95ＴＢ438）（10）

京都市内遺跡立会調査概報

平成８年度

発行日　平成９年３月31日
発　行　京都市文化市民局
住　所　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488
編　集　㈶京都市埋蔵文化財研究所
住　所　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1
ＴＥＬ（075）415-0521
印　刷　真　陽　社